

異界戦記カオスフレア
SCリプレイ「ロンデニ
オン輪舞曲」

山本黒壺

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

幻想世界オリジンのただ中であつて異彩を放つ、蒸気に包まれた鋼鉄の都・ロンデニオン。謀略渦巻くこの地に新たな陰謀の種が解き放たれた。古から蘇る災厄の巨影に、立ち向かえるのはカオスフレアだけ。人よ、未来を侵略せよ！

※注意！

これはクロスオーバー・ファンタジーTPRG『異界戦記カオスフレアSC』の実卓リプレイです。オンラインセッションのログを編集したものであるため、台本形式のような表記になっているのでご了承ください。

目次

01	プリプレイ	1
02	オープニング (PC1)	11
03	オープニング (PC2)	17
04	オープニング (PC3)	22
05	オープニング (PC4)	27
06	ミドルフェイズ1	34
07	ミドルフェイズ2	40
08	ミドルフェイズ3	48
09	ミドルフェイズ4	62
10	ミドルフェイズ5	82
11	ミドルフェイズ6 前編	101
12	ミドルフェイズ6 後編	107

13	ミドルフェイズ7、8	115
14	幕間	126
15	ミドルフェイズ9	132
16	ミドルフェイズ10	147
17	ミドルフェイズ11 (戦闘)	155
18	ミドルフェイズ12	189
19	ミドルフェイズ13	197
20	クライマックス1	217
21	クライマックス2	248
22	エンディング	274

01 プリプレイ

今回予告

陰謀渦巻くロンデニオン。

夢の新技术を巡る暗闘の陰で、巷に狂気と暴力が広がっていく。

科学万能を謳う蒸気の都に太古の呪いが甦るとき、伝説の勇者もまた帰還を果たした。

カオスフレアSC 『ロンデニオン輪舞曲』

人よ、未来を侵略せよ。

※解説：ロンデニオン

ロンデニオンは蒸気機関が異常発達したスチームパンク風の世界である。19世紀の大英帝国を思わせるアルビオン王国がメインの舞台だが、その他にも様々な国があるという。元は地下の大空洞内に存在した世界だが、ある時国の一部が地上世界オリジンに転移してしまった事で存在が露わになった。

GM：それでは始めましょう。よろしくお願いします！

ホープ：よろしくおねがいます！

イヴ：よろしくっぼーい！

ガデス：よろしくお願ひいたします

GM：シナリオパスを忘れてました

PC1：ヘリヤへの戸惑い

PC2：セレニカへの友情

PC3：ネザードへの義務感

PC4：マリアへの信頼

関係は変えてもかまいません

イヴ：ハンドアウト見直しとこ

ホープ：特に問題は有りませぬ

GM：あらためまして、GMのTNDです。よろしくお願ひします

美咲：よろしくお願ひします

ホープ：よろしくおねがいます！

イヴ：よろしくおねがいます

ガデス：よろしくお願ひいたします！

GM：では簡単にPC紹介をお願いします

イヴ：誰から？

ガデス：PC番号順ですかね？

GM：PCナンバー順で

ホープ：でいいのでは。alanさんできそうです？

美咲：了解しました。

天峰 美咲でアマミネ・ミサキと読みます。

コロナは聖戦士、ミームはフォーリナー、ブランチは顕現者で特技で殴るタイプになります。

小さい頃、寝る前に母親から読み聞かせてもらったファンタジーの児童文学に魅せられ、冒険を夢見たままかれこれ受験生なんて歳まで育ち、今日オリジンに旅立つこととなります

オリジンやロンデニオンに異種族やら何やらには積極的に大きさに反応していく所存ですのでよろしく願います

GM：よろしく願います

キャラデータ解説：

美咲はアヴァタールと呼ばれる自らの半身、謎めいた投影体を召喚して戦うアタッカー。分かりやすく言うくとスタンド使いである。《※ラファエル》《※オファニエル》によりクライマックスにおける火力は非常に高く、また切り札として敵の判定を強制的に0にする《※エアロアイオス》等を持つ。

GM：PC2どうぞ

ホープ：ほいさ

名前はホープ・ウィルエント。コロナは星詠みで、ブランチはダーカ／メイドです。何かジーア拳帝軍から抜け出して、色々あつて王女セレニカ様のお友達になった感じの子です。ちなみにメイドですが主人はいません。フリーのメイドです

イヴ：メイドとは

ガデス：うござい

ホープ：メイド拳法十七条と言う名の帝釈人間砲弾と帝釈列車砲で悪を粉砕する、そんな感じの子です。あ、勿論ちゃんと奉仕の達人とかで援護もするよ！ 以上です@

美咲：メイドは概念

GM：自由騎士みたいなの？

キャラクター解説：

ホープはメイドにしてヒヤッハーな異色のサポーター。《帝釈列車砲》による強力な範囲攻撃と多数の支援特技を備えた、トンチキさと堅実さを併せ持つキャラクターである。だがミドルに使用するバフが多い為、手番が足りなくなりがちなのが辛い所だ。

GM：それではPC3お願いします

イヴ：ぼーい！

「イヴ・スコール、16歳！　ごく普通の女子高生っぼい！」

「でもごく普通だったのはちよつと前までのことで、今は正義の改造人間をやってるっぼい……」

「VF困つていう悪の組織に誘拐されて、怪人にされそうだったところをネフィリム社に助けられたっぼい」

「パパは死んじやったし、お姉ちや、リズとも会えなくなっちゃった。でも、今はこの身体にも慣れてきたし、強い奴をぶつ飛ばすのも楽しいっぼい！」

「それに、会長さんも良い人っぼい！　会長さんのためなら、イヴ、どんどん強くなれるっぼい！」

イヴ：というわけで、獣鬼兵／ガジェットマスター／ファイター／光翼騎士です。ご

く普通の突き返し光翼ですよ？（純粹な目

GM：（それは本当にVF団だったのだろうか）

ガデス：ふつう……ふつう……？

美咲：おっそうだな〜ごく普通

美咲：「ごく普通の女子高生が……私もいつかはあんな風に……!?!」

イヴ：美酒町の出身なので、PC1とは話が噛み合うような合わないような。以上です！

美咲：「ふいすと……ふあいと？ 喧嘩はダメだよ！」

キャラクター解説：

イヴは肉体27（オプシオン適用時30）という暴力的な能力値を存分に活かした攻防一体のディフェンダー。あらゆる攻撃に突き返しを可能とする《紅蓮の旗》＋《水波斬》で、並居る敵をカウンターで撃破する。しかし龍血：造物主の刃というギフトのせいで、ダスクフレア堕ちの危険を孕むリスクなキャラでもある。

GM：ありがとうございます。最後にPC4どうぞ

ガデス：では

「破壊剣」銘はガデス。剣です。

執行者／ファイター 近接攻撃しかできませんが範囲攻撃もできます

今はもう忘れ去られた程度のオリジンの小国に伝わっていた魔剣ですが、結局担い手が見つからないまま国が滅びました

なのでもうこうなれば待つてられないと自分で自分をふるうことにして旅立ちました

ヨロイのほうは魔力で造った分身みたいなものなので再生します

好きなものは民草の平和、嫌いなものは侵略者とか龍です

以上、よろしく願います。

キャラクターデータ解説：

ガデスは《幻獣・魔剣》によって表現された意思持つ剣だ。範囲攻撃を得意とするが、《※アレーティア》というダスクフレアの特異能力を打ち消す特技を持ち、また《合体魔法》により味方のダメージを大きくブーストできる。

GM：ありがとうございます。それではPC間パスを。まだ知り合いではないので予約かな

イヴ：うい

GM：PC1が「PC2からのく」という感じでPCナンバー順に

イヴ：ガデスからのくですね。どんな風に思ってください？

ガデス：イヴさんには……庇護かな……（守護キャラである、執行者なのに

イヴ：守護られてしまうのか……

美咲：となると私はガデスさんに因縁あげればいいんだったかな

ガデス：ですね、どのように思われるか

ホープ：私は「イヴからの●●」を獲ればいい、と

イヴ：ホープさんには、「イヴからの好敵手」をあげるっほい！

ホープ：好敵手認定二人目……！！

イヴ：一度拳を交えてみたいっほい！

ガデス：やだ……この子達殺伐として……

ホープ：ふっ、戦いを望まずとも向こうから戦いがやってくる……これもメイドの性

か……

美咲：メイドとは……

ガデス：冥土エ……

GM：メイドのほうそくがみだれる

美咲：意思を持った剣！ 本の中で見たやつだ！ 「美咲からの興味」
ガデス：興味いただきました……よかった、平和な反応だ……！

ホープ：んで、私は天峰さんをどう思うか、か……

美咲：そういえばPC①のシナリオパスってどうなっていましたっけ

イヴ：PCI：ヘリヤへの戸惑いですね

GM：ヘリヤへの戸惑い。異世界で最初に会ったメイドさんから勇者扱いされる

美咲：ありがとうございます

美咲：さて、ホープさん何くれます？

ホープ：じゃあ、取り敢えずホープからの庇護……かなあ

美咲：わあい

イヴ：守護られるのか……（2回目

ホープ：平和な所から来たみたいですし、やっぱ此処はヒヤツハー先輩として守らね
ば！」

GM：意外といい人だ

イヴ：ヒヤツハー先輩w

ホープ：みたいな事を思った。シーンの持つて行き方によっては別のなるかもしれ
んがそこはノリで

美咲：「よ、よろしくお願いします？」

02 オープニング（PC1）

GM：それではオープニングいきまーす

ホープ：はーい！

GM：あ、カードの扱いですが

イヴ：はい

GM：裏にしたまま、「自分だけ見る」にしてもいいですし

GM：「重なったカードで山札を作る」こともできます

ガレス：なるほど、どどんとふとは山札つくれるあたりちがいますね

GM：自分だけの山札ができます。その山札は「カード一覧」を見れますし、一覧から特定のカードを抜きだすこともできます

イヴ：表にしとこ

GM：まあ隠す要素がないので表にしてもかまいません

美咲：ほー便利

ホープ：自分もオープンにしておきましょう。

GM：サクサク動くし、カオスフレアにはいいと思っただんですよね

ガデス：おお……確かにこれは……

ホープ：確かにどとんのカード操作はちともつさりだからなあ。カードログが一张张に出るし

美咲：いいねいいね

GM：では美咲さんからオープニングー

美咲：はーい

イヴ：おつ。ぱちぱちー

ホープ：がんばれー

GM：あなたは夢を見ている。目の前には視界を覆う巨大な竜

そいつが放つ禍々しい瘴気を切り裂いて、「もうひとりのあなた」が空を駆ける

美咲：（あれは……私？）

GM：激しい戦いが繰り広げられ……

ついに竜は呪詛の叫びを残して斃れた

そしてあなたの意識は遠のいていく……

美咲：（あーあ、やっぱり、夢なんだ……こんな風に格好良く戦えたらなあ……）

イヴ：つつフレア

GM：そして……

ヘリヤ：「ちよつと、ちよつとあなた！」（ぺしぺし）

美咲：「まだアーム鳴つてないよ。おかーさん……？」むにやむにや

ヘリヤ：「こんなところに倒れて……どうしたんですか。見たところ怪我はないようですけど」

ホープ：「そういえばGMに投げる時は何処に投げれば

GM：あ、じゃあNPCが置いてあるところへ

GM：時計のあたりにおねがいします

ガデス：「フレア投げるときは無言で投げつけてよろしいでしょうか、何か言ったほうが？」

GM：無言でもOK。もちろん称賛の言葉はあるときは遠慮なく！

美咲：「そういうやヘリヤさん、獣相とか見えるんですかね？」

GM：ヘリヤさんは獣0%オールフリーですね

イヴ：「チェンジリングね」

※解説：「ロンデニオンの民

ロンデニオンの住民は多かれ少なかれ「獣相」と呼ばれる動物の特徴を持つ。猫耳が生えていたり瞳が蛇だったり、果ては二足歩行のチワワのような人物もいる。これらは神による祝福とされており、時たま生まれる獣相の無い人間「チェンジリング」は差別

の対象である。

美咲：「あれ？ どなたですか？ とうか、ここは？」

ヘリヤ：「迷子……？ ここは、いわゆる貧民街ですよ」（じろじろ）「このあたりの住人には見えませんね」

美咲：「貧民街……えーと、貧民街にどうしてメイドさんが……？」

「私も、どうしてここに居るのかサツパリなんです！」

イヴ：「ところで今、美咲はブレザー姿？」

美咲：「パジャマでもアレだしブレザー姿かなあ、放課後の図書館であかがね色の本読みふけて居眠りからの界渡り」

イヴ：「了解っばい！」

ヘリヤ：「私はこの生まれなんです。あるじのご厚意で時々孤児院に差し入れを」

美咲：「主……孤児院……もしかして……」

ヘリヤ：「どこから来たかわからない？ まさか界渡り……いえ、そのお顔は……」

美咲：「お姉さん！ ここはもしかし日本ではない場所だったりしますか？」

ヘリヤ：「違います。ここは文明の中心地、アルビオン連合王国の都ロンドンデニオンです」

！

美咲：「おおおお！！ 聞いたことが無いですね！ もしかして、もしかしなくても……」

？」

美咲：「これは夢にまで見た『異世界』というものなのでは!？」

ヘリヤ：「そう、もしかしなくても…あなた様は!」

美咲：「何々? 選ばれし者だったり?」

ヘリヤ：「伝説の勇者さま……!」

美咲：「へえ……! へえ……! でも私何もできないよ?」

ヘリヤ：「そんなことはありません! (歴史伝承マニアの) 私には見えます。あなたを

守護する天使の姿が! 伝説の通りだわ!」

イヴ：「コヤツ、只者ではない」

美咲：「アヴァタールの姿見抜かれてて草」

GM：「本で読んだ」

ガレス：「歴女力」

ホープ：「つまり、ただの本を元にした妄想じゃねえか!」

美咲：「というと、もしかして私に何か不思議な力が眠っていたり?」

ヘリヤ：「もちろんですわ。さあ、こちらに」

ヘリヤ：「(ぐいぐい)」

美咲：「は、はい!! 是非!!」

イヴ：怪しい人だこれ

GM：時に歴女の妄想は真実を見抜く

ガデス：推しが、いや押しが強い

GM：うまいことを

イヴ：それからどしたの

GM：こうして美咲さんはヘリヤの主人、セレニカ姫の離宮へ連こ…招待されたので
した

GM：このシーンはここまで

美咲：はーい

03 オープニング（PC2）

GM：次はホープさん

GM：セレニカの離宮でお茶会中

ホープ：じゃあ、セレニカさんのメイドからお茶をいただきます

イヴ：メイドが茶を入れられている……

ヘリヤ：「よい葉が手に入りました」

ホープ：「有難うございます！いやあ、此処のお茶は美味しくていいですよ」

セレニカ：「気に入ってくれてうれしいわ」

ホープ：「お茶だけじゃなく、此処には美人のメイドさんも居て、しかも優しい王女様ともお話できて……うむ、荒野でチンピラ亜種と戦っていたときは雲泥の差ですよ。」

涙出そうです」

GM：しばしなごやかに歓談した後、セレニカは本題を切り出す……なごやかじゃなかった

ホープ：ホープにとっては和やかなの範疇だ

美咲：荒野でチンピラ亜種ww

ガデス：亜種ってなんだ亜種って

ホープ：正式名称：モヒカン

GM：純血種とかいるのか

美咲：起源種、対抗種

※解説：ダーカ

ダーカは帝釈正拳という拳法を使う荒くれ者の事である。核戦争によって崩壊した世界で隆盛した事もあって、基本的に使い手は素行の悪いチンピラや野盗のような悪人が多い。モヒカンはごく標準的な髪型だ。

セレニカ：「ホープの武勇伝はいつ聞いても胸が踊りますね、ヘリヤ？」

ヘリヤ：(渋い顔)

ホープ：「ふつ、今日もヘリヤさんの困り顔でお茶が美味いぜ！」

セレニカ：「楽しいお話でしたけれど、今日はお願いがあってお呼びしたのです」

ホープ：「おっと、すいませんね、話の腰折っちゃって。んで、お願いというのは？この百戦錬磨のメイドが、何だってお手伝いしますとも」

セレニカ：「ふふ、頼もしい。実は、わたくしが資金援助をしているネザード博士が外国に狙われているようなのです」

セレニカ：「ネフィリムという企業をご存知ですか？その間諜が彼の頭脳と研究を

欲しがっているとか」

ホープ：「ネザード博士？すみません、自分メイド業と拳法と美味しいお肉料理のお店以外の世の中のことには詳しくないんですが……」

ホープ：「つてネフィリムがほしがってる？それはまた、すごい博士ですねぇ……あそこ十分科学技術持つてるでしょうに」

セレニカ：「ネザード博士は、新しいエネルギーを研究しているのです」

ホープ：「新エネルギー……？まあ、確かにお国柄、ネフィリムもロンデニオンもエネルギー問題に縁のある勢力ではありますが。どんなエネルギーなんです？」

セレニカ：「バベルコールをものごと、いま注目されている新物質へカイノス・タール」です」

GM：「セレニカは専門的なことはわからないが、ざっくり言うとお石油っぽいものですよ」

ホープ：「カイノス・タール……聞き覚えはありませんねえ」

セレニカ：「まだ一般には発表されていませんから」

セレニカ：「ホープには彼を守護してもらいたいです」

ホープ：「成程……バベルコール以外のエネルギー源ってだけでも十分すぎるほどの発明ですもんね。んで、ということは話の流れ的に、そのネザード博士を守る感じのお

願いです?」

セレニカ：「その通りです。お願いできますか?」

ホープ：「勿論。と言いたい所ですが、どれぐらいの期間お守りすれば良いのでしょうか。流石に一生!とか言われると色々辛いと言うか……：終わりにきティブエンスでもいいよとは行かないのですが」

美咲：いつからVガンダムになった

イヴ：そのツツコミにもフレアw

ガデス：守護キヤラの座は渡さねえ……（執行者の発言です

GM：守護破壊剣ガデス（新番組）

イヴ：w w

ホープ：それだと守護を破壊しているようにしか見えんw

セレニカ：研究が軌道に乗って、彼一人を攫う必要がなくなるまで。そう先のことではありません」

ホープ：「成程。セレニカさんがそういうんなら確かなんでしよう。解りました。そのお話お引き受けしましょう!」

セレニカ：「ありがとうございます。頼りにしています。わたくしを救い出してくれたあの時のように」

ホープ：「あれはまあ、ぶっちゃけ半分ノリで列車砲ぶっばしただけ……いや、はい。
ガンバリマス」

セレニカ：（キラキラ目）

GM：ではこのシーンはここまで

ホープ：はい！

美咲：列車砲は北斗アニオリの最大のやらかし

ガデス：原作者げきおこ案件

ホープ：ホープの半分は北斗アニオリのやらかしで構成されている

イヴ：ww

ホープ：えーと、この時点で手札三枚になるよう捨てるんですけどっけ

GM：いえ、オープニングフェイズの間はシーン終了処理を行わないので捨てません

04 オープニング (PC3)

GM：次はイヴ

GM：会長直々の指令を受けたイヴはロンデニオンへとやってきた

イヴ：あ、オープニングは別の作戦遂行中のところからでお願いします。《捕食融合》の演出をしたいと思います。

GM：OK。どんな任務を？

イヴ：ありがとうございます。では

イヴ：どこもしれない荒野、作戦等は定かではない。視聴者にとって確かなのは、イヴの目の前に敵がいるということ！ ということから。敵は見上げるような大男。フィストウォーリアーでかなりの強敵。

GM：燃える

イヴ：ガードごと吹き飛ばされて、イヴの身体が壁に叩きつけられます。

どかーん！

イヴ：「くっ、強いっほい……」

イヴ：敵のロールを誰か！

ガデス：まかせて

GM：頼んだ

美咲：さすが

ガデス：「ツははア……所詮は小便くせえ餓鬼……大人様の敵じゃあねえなあ」
イヴ：「でも……」

ガデス：「んー、今ならちゃんとごめんなさいすれば許してやるぜえ……？」
イヴ：「口元の血をぐつと拳で拭い、真紅の瞳を爛々と輝かせて言います。」

ガデス：へらへら笑っている

イヴ：「……その技、もらったっばい！」

イヴ：で、暗転。

イヴ：暗転が開けると、倒れ伏した敵と、その傍らに立つイヴ。

イヴ：「ごめんなさいするのは、そっちだったっばい？」

ガデス：「……て、てめえ……俺の……」

イヴ：ニヤリ、と笑ってその場をあとにする。

ガデス：「……ぐふっ」がくり。

イヴ：ありがとうございましたw

GM：ブラボー

ガデス：「いえいえw あれなんかたくさんふれあが

美咲：「思わず絵札ほいっと」

GM：「なんだこの高度なコンビ打ちは」

イヴ：「というところで端末に連絡が入る」

イヴ：「あ、会長さん！」

イヴ：「びぽっ」

ペテルセン：「よくやってくれた」

※解説：「ジエイコブ・ペテルセン」

異世界を股にかける超企業ネフイリム社のCEOを務める年齢不詳の男。神如き力を持つ文字通りの天上人だがそのフットワークは軽く、カオスフレアの依頼人として良く登場する公式NPCだ。

イヴ：「これぐらい大したことないっほい！」

「褒めて褒めてー！」と架空の尻尾をばたばた

ペテルセン：「任務を完遂しただけでなく、より強くなったようだね」

イヴ：「ふっふーん！ 会長さんのためなら、イヴ、どんどん強くなれるっほい！」

ペテルセン：「君の力とひたむきさは、美しいとさえ言えるほどだよ」

イヴ：「えへへ。……それで、次の任務っほい？」

イヴ：きりつ、と目が鋭くなる

ホープ・ウイルエント：すげえ、特に怪しいことは一言も言っていないのにすげえ胡散臭い！

G M：失敬な

イヴ：会長さんだしw

ペテルセン：「その新たな力には、新たな舞台が相応しい」

G M：ということで、ロンデニオンでの任務を与えられました

イヴ：はい。

G M：任務はネザードという研究者をネフィリムに亡命させるといふもの

G M：ロンデニオン当局の妨害が予想される

イヴ：「つまり荒事になる可能性が高いっほい。イヴ向きの仕事っほい！」

イヴ：OPで博士と会うところまで行きます？

G M：博士に会うのはミドル入ってからにしましょう。十分濃いオープニングやったしw

イヴ：うい

ガデス：あわれなモブ大男……

イヴ：あ、シーン終了時に《融合捕食》宣言。

イヴ：《キャンセル技》をコピーしました。

GM：現地の工作員を束ねているのはカルマンという男で、表の顔はロンデニオン博物館の館長だ

イヴ：ふむふむ、カルマン

GM：ではシーンを切って

05 オープニング（PC4）

GM：お待たせ。ガデスさん

ガデス：あいさー

GM：あなたはマリア博士からロンデニオンで起きている住民の凶暴化の調査を依頼された。それでロンデニオンに滞在しているんですが……どんな風に過ごしてるんだろう

※解説：マリア・カスタフィオーレ博士

ファンタジー世界であるオリジンの中で、科学技術の最先端を走る天才科学者。数多くの発明を生み出した功罪多き人物だが、基本的には善良であり、世界を守る為にカオスフレア達の依頼人となる事が多い公式NPC。

GM：とりあえず事件に遭遇してもらおうか

ガデス：お願いできれば、なんか逃亡中の犯人とか暴力事件の現場とか出してもらえ
ると

GM：OK

GM：では中流の住宅街。時刻は夜

GM：一人のご婦人が暴漢に襲われているところに遭遇します

エミリー：「きやああつ」

エミリー：「やめてください！ どうしたんですか!？」

GM：襲っているのは中年の男。いでたちは普通のおっさんだ

GM：獣相は……クマで

美咲：クマー

GM：男は意味不明な罵声を浴びせながら女性に迫る

ガデス：ではですね、そのおっさんが女性につかみかかろうと踏み出した途端、なにかにつまずいて転んでしまいます

GM：派手にすつころぶ男

エミリー：「あつ、だ、だいじょうぶですか……?」

イヴ：優しいw

美咲：w w

ガデス：つまずいたものは、鞘にはいった大きな剣

GM：ますます頭に血が上った男は悪態を吐きながら立ち上がろうとする

ガデス：「ご婦人、今は離れられよ」響く声

エミリー：「えっ!？」

ガデス：「この男、まずは抑えねばならぬ」

G M：男は剣に気付くと柄に手をかけようとする

ガデス：瞬間、剣の柄から生えるように

ガデス：籠手が、鎧が、兜が

エミリー：（目を白黒させている）

ガデス：「——不足、哉！」

G M：「なんだあ!？」と叫び後ずさる男

ガデス：一閃。鞘にはいったままの剣で

ガデス：男を昏倒させます

G M：男はカクンとくずおれる

エミリー：「あ、あの。あなたは……?」

ガデス：男の息があるのを確認してから

ガデス：「……すまぬな、心優しきご婦人。驚かれたろう」

エミリー：「は、はい。でもありがとうございます」

ガデス：「名乗るほどのこともない、我はただのなまくら剣よ」

イヴ：カツコイイ

G M：しづい……

美咲：掘れるわ

美咲：惚れる

GM：掘るなww

エミリー：「剣……ですか」

ガデス：「だが、ふむ。……何かしら、またこのようなことがあれば、ガデス、の名を出す」とい

エミリー：「ガデスさん、ですわね。この御恩は忘れません」

エミリー：（暴漢を指して）「この人、親しくはありませんが、ご近所の方です。こんなことをする人には見えなかつたのに……」

ガデス：「うむ……近頃、このような事例が増えていると聞く」

エミリー：「怖い、ですわね……」

ガデス：「ご婦人も、つねづねより気を付けられよ。……では、我は往かねばならん」

エミリー：「はい……。あつ、申し遅れました。私はエミリーといいます。この近くで小さなお店をやつてて」

エミリー：「なにかお役に立てることがあれば、いつでもお立ち寄りください」

ガデス：「エミリー殿、か。覚えておこう……。また、いずれ」

エミリー：（うなずいて見送る）

ガデス：そういうと、今度は逆に脚、胴、頭、腕、と剣から離れた部分から姿が掻き消えていき

ガデス：「……人心に深刻な影響が出る前に、片をつけなければな」最後に一言いい残して

ガデス：剣も掻き消え、姿を消します

イヴ：おぉー

ガデス：……カッコつけて姿消しちやっただけどあと何かすることは……w
???：（その様子を物陰から見守っていたいくつかの影）

GM：ガデスはそれに気づいていてもいい

ガデス：では、完全に消える直前にそれらを察知しつつも

ガデス：「気づいていたこと」を気付かれないように、そのまま消えます

イヴ：かっこいいー

GM：とりあえずこのシーンはここまで。ミドルでこちらからアプローチします。その前に他のPCのシーンに登場するのもOK

ガデス：あい、了解です！

ホープ：格好良かった

美咲：……グレイトツ！

ガデス：ありがとうございます W

イヴ：良かったです！

GM：信頼感がある……

イヴ：では、シーン終了時の処理ですかね？

GM：それではオープニング終了でシーン終了処理ですね

GM：パスの取得と手札整理をお願いします

イヴ：「強者への渴望」でひとつ良いですか？

GM：いいですね

イヴ：では取得。手札4枚で終了です

ホープ：ほいさ。とはいえ、セレニカさんには取つてあるから、ヘリヤさんか

美咲：「異世界（オリジン）への歓待」で如何しましょう

ガデス：ではエミリーさんへの感服で。襲われていながら相手の心配ができるとは大したものだと

エミリー：「いえそんな」

ガデス：「いやいや」以下いえいえいやいやのラツシュ

ホープ：ヘリヤさんへのからかうと楽しいで取ろう

イヴ：W W

G M : ひどい w

ガデス : 玩具エ

ホープ : 今の所の《乱暴狼藉》の対象候補トップはエリヤさんだぜ！

イヴ : そのうち使わないとですネ

美咲 : 逃げて……！

ガデス : アカン w

G M : エロ同人みたいに！

イヴ : ひどいことを！

ホープ : R—18卓じゃねえからしねえよ!?

06 ミドルフェイズ1

ミドル1

イヴ：ミドル、若干時間軸が出遅れ気味なので最初にほしいんですが、どうでしょう？

GM：そうですね。イヴさんからがいいと思います

イヴ：ありがとうございます

GM：それでは第1シーン

イヴ：はい

GM：深夜のロンデニオン博物館

カルマン：「蒸気の都へようこそ。お嬢さん」

イヴ：今、どういう状況です？

GM：現地工員と顔合わせですね

GM：作戦の概要などを説明されます

イヴ：「あなたがカルマンさん？ イヴはイヴ、よろしくっほい」

カルマン：「ええ、よろしく」

カルマン：「きつそくだが……」

イヴ：ぼやんとしているようで、周囲の人員や装備に目を配っている

GM：さりげなく部下が配置されているんですが、どうも様子がおかしい

イヴ：ふむ？

GM：敵意に近いものを感じます。これはイヴには覚えのある感じ

イヴ：ではにやりと笑う。「歓迎はされてないっほいね」

GM：ネフィリム内でも反会長の連中がよくこういう反応をする。君は会長の子飼いだから

カルマン：（肩をすくめる）

カルマン：「こちらから応援をお願いしたわけでもないのね」

GM：そう言いつつ作戦の概要を説明されます

ネザードというロンデニオン王家お抱えの研究者がよりよい研究環境を求めてネフィリムへの亡命を望んでいる

彼は未発表の新技术に関わっていて、ロンデニオンは手放そうとはしない

そこで監視の目を盗んでネザードを連れ出し、ネフィリムへ護送する、という計画だと説明されます

イヴ：ふむふむ

イヴ：「貴方たちの気持ちは何となくわかるっぽい。でも会長さんのご意向だし。お互いビジネスをやるとしましょう？」にっこりと笑う。

カルマン：「そう言ってもらえると助かるね」

GM：ネザードがロンデニオンの研究所を抜け出してきたところで接触。ニューマンハツタン直行列車、メイフラワー号に乗せるまで護衛、障害は排除だ

イヴ：とりあえず頷く。

GM：まあ、こう説明されるんですが、かなりの部分嘘が含まれていることを君は直感する

イヴ：ふむふむ

イヴ：疑惑程度でどのあたりかはわからない？嘘

GM：まあ、その辺は後々調査項目として出します

イヴ：あーい

イヴ：「作戦の決行日時は？」

カルマン：「2日後だ」

イヴ：「ふーん。わかったっぽい。じゃ、その間はロンデニオン観光でもするっぽい」
にこにこ純真な笑顔。

カルマン：「土地勘は掴んでおいてくれたまえ。それと…先ほど妙な報告があった」

イヴ：「妙？」

カルマン：「剣を携えた甲冑姿の男が街中に現れたらしい」

イヴ：「わああ、アナクロっばい！」

美咲：甲冑姿の男を構えた剣なんだよなあ

ガデス：主従をわかっておられる

カルマン：「虚空から魔法のように現れ、同じように消えたそうさ。時代錯誤も甚だし

いが……」

イヴ：「へえ……？」 犬歯を向いて笑う。

イヴ：「もしかしたら、知ってるヤツっばい？ ちよつと会ってみようかなー？」

カルマン：「ほう？ まあ作戦前だ。気をつけることだな」

イヴ：「言われるまでも無いっばい。じゃ、行くっばい」

イヴ：「それから」

カルマン：「？」

イヴ：くるり、と背後を見ると、油断なくこちらを見ていたカルマンの部下と目が合

う

イヴ：「あんまり背後に立たれると、つい手が出ちゃうかもしれないから、気をつけて

ね？」

GM:びくりと身を引く作業員

イヴ:ひらひらーと手を振り、博物館を出ます。

カルマン:(イヴが立ち去った後に)「あんなものを送り込んでくるとは…。楽はさせ
てくれんようだな」

イヴ:灰色の蒸気に満ちた空を見上げて、顔をしかめる。

イヴ:「……きな臭い街っぽい。好きじゃないっぽい」けほつ

ガデス:投げるフレアがぐぬぬ

イヴ:と、シーン終了前に購入判定しても良い?

GM:OK!

イヴ:多目的ゴーグル。目標値9

イヴ:社会判定ですよな?マイナーで特殊通信機を使って+2

イヴ:2d6+12

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+12) ↓ 6 [3, 3] +

12 ↓ 18

イヴ:ほい、成功ですね。では防塵用のゴーグルを買いましたー

GM:シーン終了処理をお願いします。みなさん手札補充を忘れずに

イヴ:「カルマンからの脅威」をとつても良いです?

GM：どうぞー！カルマンからの脅威
イヴ：では手札5枚。ターンエンドです。

07 ミドルフェイズ2

ミドル2

GM：では、美咲がヘリヤに連れられてセレニカの離宮へ来るシーンです

美咲：ほい

ヘリヤ：「こちらです、勇者さま」

美咲：「勇者さまだなんて……えへへ……」

「それにしても、すっごい建物だなあ……」

ヘリヤ：（セレニカに対して勇者の伝説を熱く語る）

セレニカ：「まあ！それはそれは。粗末なところですがゆっくりしていただく

ね」>美咲

美咲：「そんな！粗末なところだなんてとんでもないです！」

美咲：ところで、「画像見る限りセレニカにはけもみみ獣相あるんね？

GM：ありますね

美咲：（無意識にじつとセレニカの獣相を見つめる）

セレニカ：「どうされました？」（首かしげ）

美咲：「あ、いえ。本当に異世界に来ちゃったんだなーって」

セレニカ：「やはり勇者さまは別の世界から…」

美咲：「みたい、ですね」

セレニカ：（ぱんつと手を叩き）「そうだわ！現代の勇者さまをお引き合わせしまし
う」

美咲：「現代の、勇者さま？」

セレニカ：「ヘリヤ、ホープを呼んできて」

セレニカ：「ええ、わたしを助けてくれた頼もしい…」

セレニカ：「フリーの、メイド？」

ガデス：疑問符。

ホープ：ふはははは！よくぞ現れたな、異世界からの勇者よ！」と何処からともなく
声が

ヘリヤ：「魔王のセリフだわ…」（頭を抱える）

美咲：「ふえ!!? どこどこ!?!」

ホープ：「あ、ヘリヤさん、ちよつと窓開けといてくださいいね」

イヴ：w w

ヘリヤ：（ガラガラ）

ガデス：モブ（慣れた手つきで障害物をどかす）

ホープ：「ここ←こ←だあ——！」とヘリヤさんが開けた窓から謎のメイドが弾丸のような速度で突っ込んできて壁にめり込む

ガデス：モブ（慣れた手つきで飛び散った破片を掃除する）

イヴ：列車砲で来たw

美咲：「ギャアアアアアア!? めーでー! めーでー!」腰を抜かして後ろに倒れこむ
 ホープ：「ふはは、どうだ、驚いたか……!」と頭から血を流しながら美咲の方にゆっくりと振り向く

美咲：「あの……お怪我は……?」

ホープ：所で何か一部のカードが動かせないのじゃが……何ゆえ

美咲：同期ズレの類かと

ホープ：じゃあ、ちょっと一段落したら入り直しますね

GM：動かせないときは一度山札を作ってから崩すと動かせるようになる。なぜか
 セレニカ：「まあ、たいへん。血が」

ホープ：「あ、どうもどうも。いつもお騒がせしてます」とモブのメイドとかから手当を受けつつ

美咲：「は、始めまして……私は天峰美咲です!」

ホープ：「あ、これはどうもご丁寧に。テオスから来たロンデニオンの勇者兼メイド、ホープです。貴方は何処からいらしたのです？」

美咲：「その、埼玉の方から……少々」

ホープ：「サイタマ……？ 名前からするとT O K Y O パンデモニウムか、富嶽っぽいですが。でも、何かこの言い回しだと……もしかして、地球のお人？」

美咲：「あ、はいそうです。地球ですわ」

ホープ：「うわー！マジですか！私と違ってマジモンの勇者じゃないですか！何でこんなキワモノの伏魔殿みたいなのに居るんですかこんな逸材が！」

イヴ：「ひとり伏魔殿が何か言ってるw」

ホープ：「へりやさんも含めているから二人だ」

イヴ：「含めちゃった！w」

ガデス：「ひどい言い草のうえブーメランである」

美咲：「ええええ！勇者だなんてみなさん言いますが、私本当に何の取り得もありませんよ？」

へりや：「こんなところ扱い……」

セレニカ：「古今の勇者そろい踏みですね！」

美咲：「へえ……ろんでにおん」ってこういう人たちがいっぱいなんだあ……」

ホープ：「私をフォーリナー様と同じ枠に入れないでください！むやみに罪悪感が！」
ホープ：尚、ロンデニオンのイメージが汚染されつつある事に関しては一切の罪悪感を抱かない方針

GM：w

美咲：これはひどい

ホープ：「こほん。まあ、さておき、彼女は……どうなんでしょう。今私がやつてる博士
護衛のお仕事に回すんです？」

セレニカ：「手伝っていたただけならうれしいですね」

セレニカ：「実は……」（事情を説明する）

ホープ：「ああ、まだスカウトの段階なんですね。とはいえ、フォーリナー様を、言っ
てしまえば国家間の利益の取り合いに巻き込むのも、あんま気乗りしませんが……」

美咲：「ええと、よくわからないんですけど……要するにセレニカさん達は今困って
て、私の力が必要、なんですね？」

セレニカ：「ええ、そうなんです」

ホープ：「平たく言えばそうですね。私一人だと手が回るか怪しいですし」
「そもそも私、護衛って言っても殴ったり蹴ったりするの、苦手ですし」

美咲：「えっ？ とてもそうには見え……」

ヘリヤ：「え」

美咲：「ああっ！別に失礼なことを考えていたわけでは！」

GM：「そこで部屋にメイドの一人が入ってきてヘリヤに耳打ちをする

ヘリヤ：「……なんですって?!」

ホープ：「ふふふ、この勇者様、中々言いますね……良いでしょう、後で将来に傷を残

さない程度に公開させてあげましょう……お？」

ヘリヤ：「ネザード博士が……いなくなりました」

ホープ：「えっ」

イヴ：「なんだと」

ホープ：「所で今此処に護衛を申し付けられた人間がちょうど勇者様と遊んでいるんだ
が

ホープ：「ちよ、ちよつと待つてください！幾ら何でも手エ出すの早すぎませんか！」

美咲：「アレ……？ネザード博士つてもしかしてさっきのお話でうかがっていた……」

ヘリヤ：「そんな……。研究所にいるうちは手は出せないはず……」

セレニカ：「ホープ、お願い。博士を助けてあげて」

ホープ：「いかん、いかんぜよ、これは色々といかんぜよ。具体的に言うとなんかサボつた拳句博士が連れ去られるとか、外聞が最悪過ぎますよ……？」
社会的信用にゼロが掛

けられちゃいますよ……?」

美咲：「大変なんですね、メイドさんも……」

ホープ：「はっ、そうですね。嘆いている場合はありませんでした！嘆く前に行動！行動&行動！」

GM：「このへんでシーンを切ろうと思います」

ホープ：「はーい！」

美咲：「はーい」

ガデス：「いたいけなフォーリナーの少女の中でメイドとロンデニオンに対する認識が
凄いことに」

GM：「パスの取得と手札整理をお願いします」

美咲：「ロンデニオン への 誤解」を取ります○

GM：ww

イヴ：「草生えますわ」

ガデス：「遺憾の意を示されそう」

ホープ：「天峰美咲 への フォーリナーとしての尊敬」で取ります。こう見えてちゃんと尊敬してるんだよ?……ホントだよ?」

美咲：「ホントにイ?」

美咲：とりあえず手札調整完了
ホープ：手札調整完了！

08 ミドルフェイズ3

ミドル3

GM：では次はイヴとガデスが会うシーンかな

イヴ：ぼーい

ホープ：ほいほい

イヴ：ガデスがシーンプレイヤーですかね

GM：です

GM：そしてこのシーンから情報収集項目を提示します

イヴ：了解ですー

ガデス：あいあいー

イヴ：そういえば明言してなかったんですが、知り合いで大丈夫ですよ？>ガデス

さん

ガデス：いいですよー、どういう面識があつたことにします？

イヴ：まあ無難に以前共闘したことがあるぐらいで。

ガデス：了解ですー

GM：共有メモに情報項目を出しました

イヴ：はい。

GM：いずれも目標値は30です

イヴ：イヴはともかくガデスは辛い数字w

ガデス：肉体魔術特化ソードにはつらい

イヴ：ではそろそろ始めましょうか。どんな場所にいます？

ガデス：あ、私が場所設定していい感じで？

GM：どうぞどうぞ

ガデス：ではですね、夜の街のはずれ、人気のない廃屋の屋根の上に、鎧姿に剣を地面についてたたずんでいます

ガデス：しばらく屋根の上から夜の街を見下ろして……

ガデス：「……覚えのある動きと思ったが。やはり、貴公らの手のものであったか」

ガデス：と、振り返りもせず背後に声を掛けます

イヴ：あ、登場してOK？

GM：どうぞー

ガデス：お願いします

イヴ：判定いります？

GM：不要です

イヴ：了解、ではです

イヴ：「んんー、見つかつちやったつぽい？ 相変わらず鉄の塊なのに敏感つぽい」と

影から現れます

ガデス：「何、貴公は十分隠せていたとも。我が見抜いたはあの時の貴公らの雑兵の気配よ」振り返る

イヴ：「ネフィリム社は社会の需要があればどこにでも存在する……つぽい？ イヴもよく知らないけど」につこりと無邪気に笑う

GM：そう、ネフィリムならね

ホープ：「資本主義クリーチャーやからな

ガデス：「……それについて我はどうともいわぬ。我が問いたいのは此度の件についてよ」

「貴公も存じているであろうが、この街で民草が突然乱心する事件が多発している」

「我は、その原因究明と解決を任されている」

イヴ：「存じてはいないつぽい。この街には夕方に着いたばかりつぽい」

「でも、それはなかなか面白そうな事件つぽい」

ガデス：「……面白くはないが」やや呆れたような声色

ガデス：今のところ知っている状況とOPでの一件をかくしか

イヴ：「なるほどなるほど。それでカルマンさんも警戒してたっばい？」

「ネフィリムは多分別口の目的があるっばい。だからその暴走事件とは関係がないはずなのだけど……」

ガデス：「カルマン……？　　我は民草を害さぬ限り貴公らの商いに口を挟む気はないが——」

「しかし、同じ時に同じ場所よ。無関係と断じるには少々気にかかる」

イヴ：「それは確かにそうっばい。まだ作戦の開始までは時間もあるし、ちよつとお手伝いするのはやぶさかじゃないっばい？」

ガデス：「有難い。礼はこの刃で以て返そう」※お礼にこつちも力を貸すよ

イヴ：「ふふーん。イヴ、役に立つっばい！」

ガデス：「うむ、頼らせてもらう。……正直なところ、我のみでは荒事はともあれそれ以外がな……」沈んだ声色

イヴ：というところで情報収集をば

イヴ：カルマンの企みについて、早めにリサーチしておきましょう。知つてると知らないとで今後のムーヴにかかわる

イヴ：判定よろし？

GM : どうぞー

イヴ : 通信機起動して+2

イヴ : 2d6+12

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+12) ↓ 2 [1, 1] +

12 ↓ 14 ファンブル!

GM : ふあんぶる!

ガデス : 初手エ!!

美咲 : ええ……

イヴ : も、問題ない、このときのためのゴoogle

ガデス : おおっ

イヴ : 購入した多機能ゴoogleの効果で振り直すっばい!

イヴ : 2d6

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6) ↓ 12 [6, 6] ↓

12 クリテイカル!

イヴ : 極端w

ガデス : さげてあげる

GM : どうなっただw

美咲：すつごい

ホープ：極端がすぎるだろw

イヴ：えーとクリティカルでダイス目が30扱いになるので、達成値42w

ガレス：つよい

天峰 美咲：草

GM：では

イヴ：あ、演出は

GM：演出を先に言ってもらった方がいいな

イヴ：会長から与えられた特務用コードを使って、カルマンたちの通信を傍受した感じ
じで

イヴ：これが直属の力よ！

GM：いいですね！

GM：情報が出しやすくて助かる！

GM：まず、ネザード博士の亡命については、博士自身の希望ではなく

イヴ：ふむふむ

GM：人質を取られて脅されているようだ

イヴ：黒じゃん！w

ホープ：まあ、合法的人質かもしれんし……

イヴ：合法的とは……w

ホープ：ネザード博士に治療費が高い病を患ってる娘がいるとするじゃろ？ネザードが代わりに治療費を払ってやるじゃろ？合法的人質

GM：ネザードが以前世話になった、エミリーという女性に危害を加えるぞと脅している

イヴ：ああ、なるほどそれで張り付いてたのね

GM：ですす

ホープ：普通に邪悪だった

GM：なのでネザードは自ら研究所を抜け出した

美咲：ええ人やん博士

ガデス：エミリーさんそういう関係だったのか……

GM：二日後、ニューマンハッタン行の直行列車でネフィリムに送ることになってい
る

イヴ：現在の居場所は？

GM：街中のホテルに潜伏中。もうじきイヴに“保護”するよう指示がくるだろう

イヴ：了解ですー

G M：ここからが本題なのですが

G M：しかし、カルマンはネフィリムに対しても二心を抱いており、襲撃を演出してテオスに売り飛ばす腹だ

イヴ：おおっと

美咲：騙して悪いが（ry

G M：イヴとかいうやつの手引きでテオスが襲撃してきたというシナリオも用意してあるぞ

イヴ：わはは

G M：以上です

ガデス：こやつめワハハ

ホープ：目先の利益で動いてるけど無駄に用意周到だなコイツw

イヴ：会長に情報を流しておくつばい

イヴ：「それは契約違反つばい、カルマンさん？」ガデスにも調べたことを話すよー

ガデス：「…………ふむ、あのご婦人が関係者であったか…………」思案

ペテルセン（通信）：「我々も安く見られたものだ」

イヴ：「会長さんのオーダーは？」

ペテルセン：「ネザード氏には納得の上で我々に協力していただくよう説得しよう」

ペテルセン：「なんならエミリーという方も一緒にニューマンハツタンに来ていただいてもかまわないが？」

イヴ：「それは良いお話っぽい！」にぱーと無邪気に笑う

イヴ：「カルマンさんについては？」

ペテルセン：「カルマン君は適当にあしらっておいてくれたまえ。君のやり方でね」

イヴ：「ふふ。イヴにお任せっぽい！」

GM：「ここだけトーキョーN◎VAになってる

美咲：トランプ使うFEARゲードから実質カオスフレア

GM：小太刀を融合捕食する鈴吹太郎

イヴ：ww

ガデス：では次、私もチャレンジしてみます。順当に暴力事件について

GM：はい

ガデス：では判定行きます

ガデス：2d6+5

<BCDice:ガデス>:Chaos Flare : (2D6+5) ↓ 9 [6,

3] +5 ↓ 14

ガデス：割と走ったな……

イヴ：フレアはちょうど良いのあります？

ガデス：情報収集でフレアは……あ、使えたか（聞こうとした

GM：使えますよー

イヴ：しかし高い札しかないっぼいー

美咲：財産Pがあるじゃろ？

イヴ：ここはロールプレイでフレアを稼いで足しにするのです！

イヴ：財産点全部使っても＋5ですからねえ……

ガデス：いや、ここはAを切る！

イヴ：おお

ガデス：これで達成値34！

イヴ：おみごとっぼい

GM：何か演出ありますか？

ガデス：ではですね

ガデス：エミリーさんにしたように暴力事件を起こしかけている一般人を神出鬼没に

制圧していきます

ガデス：そのついでに被害に遭いそうになってた人とか警察とかから情報を

イヴ：「ガデス、なかなか大胆っぼい！」

ガデス：……なにぶん、剣の身ではこういった荒い手しか知らぬ「ちよつと照れぎみ
 GM：OK。ではそのようにして集めた情報を整理すると、加害者から薬物が出まし
 た

ガデス：わお

ホープ：ヤクにまで手を出しとるのか……

美咲：ガンギマリですわこれ

GM：ごくわずかで、既存の麻薬とは違うので、医者も首をかしげていたが

GM：抽出したサンプルを見せてもらったガデスは、これが何らかの生物の血液では
 ないかと思った

イヴ：ほう

GM：そして、この薬物による凶暴化は獣相が濃いほど強い傾向にも気づく

ガデス：ピーストモード的な

ホープ：ほほー

GM：ただ、無差別にばらまかれたようで、現時点では出所を探るには手掛かりが足
 りない

GM：以上

ガデス：了解

美咲：《完全獣化》って言おうとしたら同名特技あること思い出した

イヴ：きなばりす的な匂いを感じる

ガデス：「……………」サンプルの容器を手を取って眺めて「…………なれど、剣だからこそわかることもある。…………血の臭い」

イヴ：「ふふーん、誰が裏で糸を引いているかは知らないけど」ニヤリと笑う「趣味はよろしくないっぼい？」

ガデス：「うむ。…………さて、鬼が出るか蛇が出るか」

イヴ：さて、今後の方針を決めてシーンを切りますかね？

GM：ですね

ガデス：あいあい

イヴ：博士に会いに行くにしても、エミリーさんは確保しておいたほうがいいっぼい
イヴ：説得の役に立つし、カルマンから守れる

ガデス：ですね、エミリーさんが浚われたりすると怖い

ガデス：そのうえで博士を確保、しかる後にカルマンを〆て情報ゲロらせる…………かな
？

ガデス：それでなんかの血についての情報を吐けばおk、程度に。もしかしたら博士から何か聞けるかもですし

イヴ：ダスクはカルマンか、もしくは謎の生物か。後者のような気もしますね

イヴ：ではGM、そんな方針で動こうかと思えます

ガデス：お願いします

GM：了解です

イヴ：あ、購入判定よろしいです？

GM：どうぞー

イヴ：汚染された肉を解体、じゃない買いたいです。まとめ買いは可能？

GM：シーンの終了処理もどうぞ

GM：まとめ買いもOKです

イヴ：とりあえず4個ぐらい買っておこうかと。1つ5なので、20になりますかね
?

GM：汚染された肉を解体…

GM：合計値でどうぞ

イヴ：うい

イヴ：いつもの通信機

イヴ：2d6+12

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+12) ↓ 7 [6, 1] +

12 ↓ 19

イヴ：カス札切って20です

イヴ：汚染された肉相当の、まずい栄養食っぽいなにかを手に入れた

GM：おー！フレッツシユミート！

ガデス：じゃあ私も

ガデス：七大使徒の護符を

ガデス：振りますねー

ガデス：2d6+5

<BCDice:ガデス>:Chaos Flare : (2D6+5) ↓ 5 [4,

1]+5 ↓ 10

ガデス：えい（Aを投げ捨てる音

イヴ：ぼーい

ガデス：これで30！目標23なので成功で！

GM：すぐ戻ってくるさー

ガデス：護符相当の魔力の蓄えを得た

イヴ：私はこれでターンエンド

ガデス：此方もこれで終わりか

09 ミドルフェイズ4

ミドル4

GM：順番的にはホープがシーンプレイヤーかな

ホープ：ほいほい。シーン内容は？

GM：特に希望がなければネザードを追うシーン

ホープ：了解です。

ホープ：えーつと、となると場所は研究所かな

イヴ：順当なとこですね

GM：ネザードが潜伏してるホテルの前からでもいいよw

ホープ：マジかよもう見つけても良いのかw

GM：ここがやつのはウスだ

ガデス：しごとがはやい

イヴ：実際ハヤイ！

GM：舞台裏でやっておきました

ホープ：わかった。じゃあ、ネザードの居るホテルの前からにしようw

ホープ：「ここが！ あの男の！ ハウスね！」

イヴ：美咲はいっしょ？

GM：判定不要で同行してもかまいません

イヴ：（ネザードのグラフィックを見て）ネザード、うさぎなのか……
イヴ：ネザードワーフ的な

GM：けものですね

ガデス：おおめにみてよね

ホープ：みんなじゆうにいきている

ホープ：でも恐らくロンデニオンで一番自由なのはホープだ

イヴ：私達は状況を見て登場判定するかどうかですかね？ガデスさん

ガデス：ですね、隙を見て

ホープ：「コマンド↓とつげきする」

ガデス：しってた

美咲：「とりあえず様子を……あの？」

イヴ：窓からダイレクトエントリー？

ホープ：いつの間にか生み出した大砲に入ってる。勿論狙いは玄関

ホープ：「……すりー、つー、わーん……」

イヴ：これは止められんぞ

美咲：「ふ、伏せなきや……」

美咲：地面にうつ伏せで伏せて耳を塞ぐ

ホープ：「ぜろおおおおおおお！」どカーン

ネザード：（部屋の中）「エミリーさん、どうか無事で……」どカーン！

ガデス：お前が無事じゃなくなるんだよなあ……

ネザード：「うわああああ」

美咲：「ひいひいっ!!」

ホープ：「ネザード博士……お迎えに上がりました……」頭から血い吹き出させて手を

差し出す

イヴ：阿鼻叫喚

美咲：「だ、大丈夫……だよな？」弾道の軌跡で出来た道をチラ見

ネザード：「ひやああああ。許してくださいいいいい」

ホープ：「大丈夫です！よく見てください、敵ではありません！ただの無害なメイド

ですよ！」

ネザード：「あなたは姫様のご友人の！」

イヴ：あ、良かった話が早いw

ホープ：「おお、思い出して頂けましたか！」

ネザード：「ど、どうか見逃してください！僕にはいかなければならないところが！」
美咲：「行かなければ行けないところ？」

ネザード：「そうです。姫様に大変な御恩がありますが、ここはどうか……！」

ホープ：「お、落ち着いてください。別に無理矢理連れて行ったりはしませんから」
ネザード：「そうですか……？」（壁の穴を見て疑わしそうに）

ホープ：「そうですよ！ 現にほら、飛んできたのは私一人じゃないですか！」

イヴ：「充分だがな！w」

GM：ww

ホープ：「でも、何処に行かねばならないのです？ ネフィリムって力強く答えられると、ちよつと上の方に話を通さないといけないんですが……」

美咲：「私にはとてもこんな事……あはは……」

ホープ：「ほら、美咲さんも、何か言ってやってください！」無茶振り

ネザード：「（飛んできてはいないけど）もう一人いるようですが、その方は？」

美咲：「ええと、私は何か運命に呼ばれた勇者らしいんですけど……」

イヴ：「自分で名乗ると痛いw」

ホープ：「ええ！ 何と地球からやって来た、勇者様なんですよ！」

美咲：「困ってる人が私の力を必要としてるみたいで……」

美咲：「いやでも、本当に私何もできないんですよ？ 勇者だなんて」

ネザード：「勇者！ そんな非科学的な」（ぶつぶつ）

ホープ：「非科学的ってなんですかー!? 勇者様って凄いですよ！ 無敵のマーキュリーパワーでも叶えてくれるんですよ！」

美咲：「マーキュリー？」

イヴ：メイクアップしそう〜マーキュリーパワー

美咲：セーラー戦士がいてもおかしくないのがカオスフレア

ネザード：「はあ……そんな都合のいいヒーローがいるなら彼女を助けてほしいもんです」

ホープ：「ほら、美咲さんが持つてる勇者の剣とか盾とか、ああいうのですよ！ いや、正確には盾はマーキュリーじゃなくて何だっけ。アマルガムだっけ」

ネザード：「アマルガムは水銀との合金ですよ……」

ホープ：「まあ、そういう不思議アイテムの事ですよ、持つてるでしょ？ そういうの」

美咲：「ええ？」

ホープ：「ええ、全て美咲さんがまるっと解決……えっ」

美咲：「……これ？」 ポケットから1冊の文庫本を取り出す

美咲：「アリアンロッドRPG2E ルールブック①」 ※改訂版ではない

イヴ：w w

GM：ヒーローになれる本だ

イヴ：改訂版だったら召喚勇者ができるけど！

ホープ：「……これはただの、サイコロを振るだけの本です」

イヴ：知ってるー!?

GM：なんで知ってたんだw

ガデス：オリジンの文化吸収力にはまいったな！

ホープ：俺も知らんw

美咲：「ですよねー……本当に私何の力も無いんじゃないかって……」

ホープ：「……でも、地球から来たんですよ？」

美咲：「間違いなく、地球から来たよ？」

ホープ：「じゃあ、大丈夫ですよ！ 例え本当に美咲さんに何の力がなくなつたつて――」

ホープ：「――きつと、そこに居る意味があるんです！だって、地球は、勇者様の世界ですから！」と無垢な瞳で

美咲：「言い方!! うう……」

ネザード：「界渡りについては論文を読んだことがあります、勇者云々というのはやはり眉唾のようですね」

ホープ：「うわあああ、良いこと言おうとしてる所でこの現実主義者ー！」

美咲：「でも、助けを欲している人がいるっていうなら、荷物持ちくらいならやるよ！」

ホープ：「そ、そうですね！荷物持ちも大変ですからね！」

美咲：「いやあ……塵も積もればって言いますし？」

イヴ：「そろそろ話を前にw」

ホープ：「……ええい、こんな変な空気の所に居られるか！俺は空気を変えるぞ！」

ネザード：「お気持ちはありがたいが、それでネフィリムのおそるべき諜報組織がどう

こうできるわけでもないでしょう」

ホープ：「ん？　そういうって事は、行くべき場所はネフィリムではないと？」

ネザード：「いえ。ネフィリムに行かねばならないのです」

ホープ：「why?　何故？」

ネザード：「そうでないと彼女が……」と脅かされていることを話す

ホープ：「……ううむ、成程。そういう事ですか」

美咲：「つまり、助け出すことさえできれば……？」

ホープ：「それが出来れば満点ですが、何せ人質に取られてますからねえ……。どうし

たものか」

美咲：「地球に伝わる伝統的な人質救出の方法があるんですけど、どうです？」

ホープ：「ほほう！勇者様の世界の！それはお聞きしたいですね！」

美咲：「ダンボールを被って建物に侵入するんですけど、そうすれば不思議と誰にも気付かれないんですよ！」

ホープ：「成程！確かに、ネフィリムには有り触れた物ですもんね、ダンボール！では早速ソレで……」腕まくりしながら外に出ようとしてるんで誰か止めてくれw

イヴ：そろそろ登場しますかね？

ガデス：ですわね、どっちからですか？私かイヴさんか

イヴ：チームならどっちかが成功すれば良かったでしたっけ？<登場判定

GM：同行者指定ができるんだっけか

イヴ：(ルルブをめぐりながら) うーん、同行者指定はシンプレイヤーのみのようですね

ガデス：じゃあとりあえず二人とも判定してみましよう、RP的順番はそのあとで決めます

イヴ：とりあえず判定よろし？

GM：どうぞ

ガデス：じゃあ個別で振っていきましょ

イヴ：うい。あ、目標値は？

GM：12です

ガデス：2d6+2

<BCDice>:ガデス>:DiceBot : (2D6+2) ↓ 9 [6, 3] +

2 ↓ 11

ガデス：あぶねえ

ホープ：いや、1足りない？

イヴ：足りないですな

GM：クズ札を捨てよう

ガデス：ぐええ

ガデス：屑札（三枚のジョーカー）

イヴ：2d6+4

<BCDice>:イヴ>:DiceBot : (2D6+4) ↓ 7 [4, 3] +

4 ↓ 11

ガデス：財産点って使えませんか？

GM：財産点OKとします

ガデス：財産点1消費して12に!!

イヴ：ありがとうございます。1点払って登場

美咲：やさしいじーえむ

イヴ：じゃあ、「お困りのようっぽい!」と背後から声をかける

ホープ：「あ、貴方はっ!」

イヴ：崩れた玄関の壁にもたれてかっこつけてる

美咲：「えーと、どちらさま?」

イヴ：「とう!」

イヴ：跳躍、一回転してホープにチョップをかまそうとする(ガードして)

ホープ：「グエーッ!」 ともに食らって沈む

美咲：草

イヴ：「ふふふ、相変わらず帝釈正拳の腕前は衰えて、ってあれ?」

美咲：「ああつ! ホープさん!」

ホープ：「ワタシ、ナグリアイ、デキナイ、アル、ヨ……」ばたり

イヴ：し、しっかりするっぽい! 傷は深いぞがっかりしろっぽい!」がくがくとゆ

さぶる

GM：がっかりw

ホープ：「ぐおんぐおんするからやめてー」帝釈正拳持つてるわけじゃないしな……
イヴ：「よ、よかった無事っぼい」

イヴ：「ごほん」ごつつ、と頭から落として仕切り直す

美咲：「それを一応受け止めておこう」

ホープ：「おうふ。おお、美咲さん有難うございます。……さて」立ち上がった

イヴ：「ふふふ、お困りのようっぼい！」

ホープ：「あ、貴方はッ！」

美咲：「えーと、どちらさま？」

イヴ：「あ、ちよつと流れで連れを置いてきてしまったので少し待って」

ホープ：「あ、はい」

ガデス：「……必要はない。ここに居る」

イヴ：「ぼい！」

GM：「この混乱を收拾できるのは守護破壊剣ガデスをおいて他にあるまい」

ガデス：「外の陰になっているところからぬつと出てくるデカい鎧姿」

美咲：「おお！ ファンタジー！」

ガデス：「……まず、急な訪問を詫びさせてもらおう」

イヴ：「でも急な訪問はそっちも同じだったっぼい」じとーと外の瓦礫を見る

ホープ：「えー。私達はちゃんと予め来ると言ってたしー」

美咲：「あのう……こつちの世界ではこの訪問スタイルが標準なんですか？」

ネザード：「そんなわけではないでしょう」

ホープ：「誰もやらない事をやるのが、私のポリシー」

美咲：「はーよかったあ……それならこつちでもやっていける、かな？」

イヴ：「とりあえず名乗るっばい！」

ガデス：「うむ。……ガデスだ。剣をしている」

美咲：「あ、そっち（剣）が本体なんだ。へえ……」

ホープ：「あ、私はホープです。フリーのメイドをやってます」

イヴ：「我が名はイヴ、イヴ！ ネフィリム社が誇るバイト戦士！」

ネザード：「ネフィリム!! ひいいい」

イヴ：「あ、取って喰ったりしないので落ち着くっばい」ネザードさん

ホープ：「あ、そういえばイヴさんネフィリムの人でしたね。私の中では拳帝ジーア枠だったので、失念してました。」

ホープ：拳帝ジーア枠：突然ライバル視して当然襲ってくる謎の人たち枠とも言う

美咲：「つとと、私は美咲。高校三年生！」

ガデス：「……」美咲さんの方に視線

ホープ：「高校……？」

イヴ：「へー、高校生？　もしかして地球人っぽい？」

ホープ：「です。何と彼女は勇者様なのですよ！勇者様！」

美咲：「勇者らしいです、何もできないんですけどねー」

イヴ：「イヴは美酒町の高校2年っぽい」

美咲：「みさかちよう……？　埼玉県民だよ？」

イヴ：「さいたま……地球の地名はよくわからないっぽい」

ホープ：「あー、美酒町って、地球っぽくて地球じゃない、でもちよつと地球っぽいなかでしたっけ。詳しくは知りませんが」

イヴ：「とりあえずそれは後にして、そこのネザードさんの件っぽいー」

ホープ：「おつとそうですね」

美咲：「そうそう！　なんでも大切な人を使って脅されてるみたいで……」

ガデス：「それとなく出入口固めておく、不意の襲撃とか、うさぎの脱走に備えてイヴ：感謝です」

イヴ：「その節は我が社の社員が迷惑をかけたっぽい」

ホープ：「イヴさんが何か普通の社会人っぽい事を！」

ホープ：「……さておき、ということとは、もしかしてえみりーさん誘拐事件はネフィリ

ムの総意ではない？」

美咲：「もしかしてネフィリム社とやらのハウレンソウってザルなの？」

ホープ：「ザルっていうか……組織が大きすぎて、トップが全体を掌握しきれてないんですよ」

GM：いまはまだ実際に拘束されたわけではないですけどね

ホープ：あ、そうだった。未遂だった

GM：いつでも始末できるんだぞ、と言われている

ホープ：ああ、成程

ネザード：「という……彼女は解放してもらえるのか!？」

イヴ：「現在ロンデニオンで活動している支社の人員は、会長さんのご意向を離れてるっぽい」

イヴ：「ぶつちやけ言えば、テオスにネザードさんを売り渡そうとしてるっぽい」

ホープ：「まーじでー?」

美咲：「テオス……?」

イヴ：「テオスは悪の帝国っぽい!」

ホープ：「あながち間違いではないです。我々の世界を侵略する悪いやつです。取り敢えずは」

ネザード：「そんな……」

ガデス：「……」 美咲さん見てる

ガデス：威圧感ゴゴゴ

ホープ：「所で、そのこの鎧の人、ナズエミテルンデス！」

美咲：「あのう……私の顔になにかついてますか？」

美咲：「別にその〴〵ておす〴〵の回し者とかじゃないですよ？」

ガデス：「……いや、そうではない。詮無き事ゆえに」

ホープ：「??」

ガデス：「話を続けられよ」 視線を外す

美咲：あれかの？アヴァタールチラ見た感じかな？

ガデス：や、こう、なんだこの素人（守護ごごご）ってなってる〴〵視線

美咲：了解、とりあえずミドルまで自他共にアヴァタールには気付かない路線を希望

ガデス：あい〴〵気づかない そっちのほうが侮れるから願ったり

イヴ：端末でカルマンの顔写真を見せる

イヴ：「この人がカルマンさん。ネフィリムの裏切り者っぽい」

ホープ：「これがカルカンですか……」

美咲：「猫まつしぐらなの!？」

G M：猫だけに

美咲：あ、獣相……

イヴ：「カルマンさんね。ともかく、こちらとしては裏切り者の思い通りにはさせたくないっぼい」

ホープ：「なるなる。じゃあ、少なくとも一時的には、お互い協力できそうですね？」

ホープ：「え、この辺だと皆こんなですよ？」

美咲：「あ、そういうえば確かにすれ違う人みんなシル●ニアファミリーだったり、けも●フレンズですね」この辺だと皆こんな

ホープ：「それらはよく知りませんが。寧ろああいう顔じゃないと、皆にいじめられます。最近普通の顔の人も入ってきてるのでそうでもないですが」

イヴ：「イヴも髪型は犬耳っぼい」

ネザード：「獣相はプロパテールの加護の証と言われていますね」

美咲：「へえ……本当に異世界に来ちゃったんだなあ……」

ホープ：「カンカンさんを始末した後はともかくとして」

イヴ：「カルマンさん。始末までは言っていないっぼい」

イヴ：「会長さんのご意向としては『イヴなりのやり方であしらせ』と言われただけっぼい」

ホープ：「あ、すいません。まあ、でも、動けないようにはするでしょう？」

ホープ：「社会的にか肉体的にかはともかくとして」

イヴ：「彼にも事情があるかもしれないっぼいし、ひとまずは拘束するだけにとどめた
いっぼい」

ホープ：「なるほろ。まあ、私としてはネザード博士に危害が及ばなければいいので」
イヴ：「日陰者なのは確かだけど、長いこと地下に置きすぎてカビが生えただけっぼい
？」

イヴ：「日干しが必要っぼい」悪い顔で笑う。

ホープ：「わー、こわーい」

ガデス：「……………」また美咲さんの方みてる

美咲：「……………」やっぱりこの世界でやっていける自信がちよつと…………」>物騒な会話と視線を受けて

ホープ：「所でガデスさんや。女の子の方を無言で見るのは、最近の法律では痴漢剤で
死刑なのですか」

ホープ：「何か言いたいことがあるなら、言わないと。ほら、美咲さん怖がつてますぜ」

美咲：「いやいや！強制わいせつは6年以上10年以下の懲役が主流だよ？」

G M：くわしいな

美咲：法学部志望です（今生えた設定

ホープ：エリートじゃん！

イヴ：「ガデス、フォーリナーさんが気になるっぽい？」

ガデス：「……何、そうではない。只……」

ホープ：「ただ？」

ガデス：「このような、守られるべき童女（こども）に縋るとは世も末か、とな……」

ガデス：はあ、とため息らしきもの

ホープ：何かガデスさんの台詞が良い感じに決まったので、此処で一旦シーン切らな

い???

GM：そろそろシーンを切る頃合いですね。シーン終了処理願います

イヴ：ん。了解です

美咲：了解、手札整理が大変

ガデス：あ、私美咲さんへ感情とっていいですかね

美咲：あ、どうぞ

美咲：なんなら同じ内容の因縁貰いたい

ガデス：美咲さんへの 憐 憫 で

イヴ：まあそうなるね

美咲：いただきましたq

ガデス：可哀そうに……何も知らないお嬢さんがこんなところに連れてこられて……っという

美咲：いやあまったく私もどうして呼ばれたのかさっぱり

イヴ：覚醒シーンはクライマックス？

ガデス：おうちに早いとこ帰れるようにしてあげるからね……（完全に子供を見る目

美咲：いや、ミドル戦闘 その後Dパス書き換える予定

美咲：Dパスは「真の力への恐怖」

ホープ：ガデスへの「此処に幼気な少女が一人いるのが見えねえのかメエエエン!?」で

GM：なげえ

ホープ：何と同年齢なのだ

美咲：な、なんだってー!

ガデス：えーなんか堅気じゃねえオーラ醸し出してるしー

ホープ：おう、美咲さんの勇者オーラ見えねえのかおおん？

ガデス：私の視界には何も無いな（スルー

イヴ：ホープから感情が欲しいっばい

イヴ：私のことはどう思ってます？〜ホープ

ホープ：んー、襲ってくるのは怖いけど、可愛い妹みたいな？

ガデス：…よくできた妹

イヴ：ふむふむ関係：弟妹、みたいな

ホープ：基本なんかワンコっぽいので、襲ってこられてもついつい付き合ってしまう感じ

イヴ：じゃあ「ホープからの弟妹」で取りますねー

GM：いいですねー

GM：手札整理終わったら@お願いします

ホープ：@

イヴ：@

美咲：@

ガデス：@

10 ミドルフェイズ5

ミドル5

GM：はい、では次のシーン行きます

イヴ：うー

イヴ：場所は変えます？

GM：次のシーンプレイヤーのご意向次第

GM：ここからはシーンプレイヤー志願制で

美咲：ほう

イヴ：ガ德斯やります？

ガ德斯：ふむ：ちよつとやりたいことというか、GMにご相談が

美咲：どの項目から抜いていくかによるかなあつて感じ

GM：はいはい

ガ德斯：ザコ（蹴散らしてよい系）の襲撃を返り討ちにしたいんですが、そういうシーンってまだ先ですかね？

イヴ：ふーむ、それはイヴと一緒にいるところを見られるとややこしいっぽい

ホープ：どつかで《乱暴狼藉》しないといけないんだがな……

GM：ご希望ならいつでも！エミリー救出でそうしてもOK

イヴ：救出なら情報収集の後になりますかね

ガデス：あ、じゃあ救出時にそうさせていただけようかな……情報収集はお譲りという
かお願いする……

美咲：私も情報収集は不得手でねえ

ホープ：社会8だからびみよいんだよなー

美咲：生半可な誤差はフレアで叩き潰せるけどさすがに社会5はきつつい

イヴ：じゃあもらおうかなー？<シーン

ガデス：お願いいたします

ホープ：オナシヤス！

GM：シーンプレイヤー：イヴ

GM：どういふ場面に？

イヴ：どうしよつかない。穴塞いだけで場所は変えずに行きます？　ちよつと不用
心だけど

ホープ：取り敢えず、セレニカさんの屋敷に全員来れば良いのでは

美咲：確かにそこなら安心ではある

ホープ：少なくとも穴が空いたホテルよりはマシという意見！

ガデス：ああ、お屋敷いけるならそっちの方がいいですかね

イヴ：ネザードさん動かしちゃうとカルマン刺激するかなーって

ホープ：あー

GM：まるで勝手に穴が開いたような言い草

美咲：空けたの誰だったかなあ（すつとぼけ

ホープ：砲弾でもないのに穴が開くなんて、欠陥住宅かな？

ガデス：貴公が砲弾なんでは

美咲：人間大砲で撃たれることを想定した建造物なんてあるんですかねえ

ホープ：さておき、じゃあホテル内で事を済ませますか

GM：ホテル内で事を済ませる：いや、なんでもない

イヴ：ww

ガデス：ともあれそれなら動かないほうがいいですね、動くならエミリーさんを救出に向かうときとかのほうか

イヴ：では場所は続行で。同行者は全員

GM：OK

イヴ：とりあえず穴は応急処置したということ。ぞんざいに板が張つてある

ガデス：相変わらず直立不動で襲撃に備えてる

イヴ：「では、とりあえずまだわかってないことを調べるっぽい」

イヴ：ネザード博士に質問するという体で、「カインスタールについて」を調査しようかと

GM：OKOK

イヴ：通信機起動。

イヴ：2d6+12

<BCDice：イヴ>：DiceBot：(2D6+12) ↓ 11 [5, 6]

+12 ↓ 23

美咲：でかい

ホープ：でっかい

イヴ：10切って成功

ネザード：「ではカインスタールについて説明させていただきます」

イヴ：「お願いするっぽい」

ホープ：「ZZZ……」その横で寝ている

ネザード：「見た目は黒い液体で、高効率のエネルギー源になる物質です」

ネザード：「数年前、アルビオン本国のさらに地下で発見されたと聞いています」

美咲：「『タール』ってことは煙草とかに含まれてるアレの仲間ってこと？」

イヴ：「どちらかという石油っぽい？」

ホープ：「俺の……タール……ドローむにやむにや……」

ネザード：「採掘方法などは極秘とされていて……一応発見された場所は教えてもらっていませんが、僕自身は行ったことはありません」

ガデス：「ホープさんのどたまに喝（籠手ごすん）入れて起こしておきます

ホープ：「おぐおつ」

ガデス：「ぎろん（ホープさんには普通に威圧感を放っておく

ホープ：「ぐおお、ガデスさんの殺気未満のオーラがひしひしとー。良いじゃないですかこちらら学校にも通ってない野良メイドですよ……？」

ガデス：「我とて学び舎に通ったことなどない。……せめて眠らず聞かれよ」溜息

GM：「（発見場所の位置情報を入手しました）」

イヴ：「はい。」

ネザード：「僕はエネルギー源としての利用法を研究しているわけですが……」

ネザード：「物質自体の性質がですね、僕はそっちの方（生物学）は専門外なので断言はできませんが」

ネザード：「どうも何らかの生物の血液ではないかとおもうんですよね……」

イヴ：「ふむふむほいほい？」

ホープ：「血液……？　血液がエネルギー源になるんですかね。まさか輸血するんじゃないし」

イヴ：「確か、バベルコールにも怪しい噂はあったっほい。詳しくは知らないけど」
ガデス：「……血液、と」

イヴ：「軍事利用を王国からは提案されてるっほい？」

美咲：「うわぁ……異世界に来て世知辛いなぁ……」

ネザード：「いえ、いまのところ主なスポンサーはセレニカ姫なんですが、姫さまは軍事利用などは考えておられないはず」＜軍事利用

ホープ：「まー、セレニカさん誰かを攻撃しようとか、そういうタイプではないですしねえ」

イヴ：「まあでもいずれはそうなるっほい。女王陛下は拡大路線っほい」

ホープ：「女王陛下はなぁ……見た目はもふもふなんですけどねえ……」
ネザード：「そうですね……国のためには仕方ありません」

美咲：「外交っていつの時代も大変なんだねえ」

イヴ：「大人の社会は複雑っほい」美咲に

イヴ：「けど、博士の所見が確かなら巨大生物か何かの死骸でも見つけたっほい？」

イヴ：「ま、憶測の域っぽいー」

ガデス：「……現時点で、まだ何とも言えぬか」

GM：カインスタールの情報は以上です

ホープ：「じゃあ、取り敢えずネザード博士のカイノス・タール講座が終わった所で、次、どうします？」

イヴ：勇者の伝説に関しては、美咲がヘリヤさんに聞くのが正當かな？

美咲：えーと残りは勇者の伝説と何だっけ

イヴ：提示されてるのはそれだけ

GM：勇者だけ

美咲：OK、目標値はおいくつほど？

ホープ：まあ、オイラが一緒に出て《女神の祝福》すればねじ伏せられる。確か30だっけ？

GM：30です

イヴ：「もし電話するなら、小銭を貸すっぽい」と財産点5点ほどパスします

美咲：期待値なんて目安、足りない分はフレアで補えってラピスフィロソフォルムにも書いてある

美咲：なお、なぜなに未来侵略には「フレアの力は有限」と書かれていたことには目

を瞑る

ガデス：都合の悪いことには目をつぶるやさしさ

GM：宇宙全体では有限

イヴ：だがこの場では実質無限だ！

ホープ：足りない分はフレアで補えつて要するに、足りない睡眠量はモンスターエナジーで補えと同義だから……

美咲：それ以上いけない

GM：PCはだいたい閉鎖系を破壊してしまう

イヴ：というのはおいておき、判定どぞ

美咲：んでは社会5なんで5スタート、置換系アイテムなどない！

美咲：2d6+5

<BCDice：美咲>：DiceBot：(2D6+5) ↓ 4 [2, 2] +

5 ↓ 9

ガデス：ぬう……

美咲：あと21 自前財産点で+5のあと16

イヴ：5点あげます

美咲：頂いた分であと11、絵札とクズ札あれば

ホープ：えーと、じゃあ絵札はこっちが投げよう

美咲：よく見たらこのJ、クラブだった（ほいっと

ホープ：あ、クズ札の方が無かったのか

美咲：というわけでクラブのJを燃やすので絵札投げてもらえば成功や

GM：ヘリヤに電話？

美咲：そういう感じで

イヴ：イヴは美咲が公衆電話で電話してる横で、小銭を投入してるっほい！

GM：小銭投入係w

美咲：「ホープさん、番号わかりますか？」

ホープ：「あ、はいはい。えーと、ぼちぼちぼち」とこっちは電話番号入力係

美咲：じゃあ受話器持つ係

美咲：本当に荷物持ちしてるよ（違

イヴ：会話して！w

ヘリヤ：「はい。月の離宮メイド室です」

美咲：「もしもし、ヘリヤさんですか？ 私です。暫定勇者の美咲です！」

ヘリヤ：「ご苦労様です。首尾はいかがですか」

美咲：「色々と情報は集まってるんですけど、不可解なことがあって……」

美咲：「ホープさんによれば地球の勇者は『まーきゅりー』って物を持つてるみたいなんですけど、私、そういうの持ってないんですよ」

美咲：「ヘリヤさん、勇者の伝説について知ってるみたいですけど……」

美咲：「アヴァタールの事はそこまで詳しく知らないこととお願ひできますか？」

GM：了解です

ヘリヤ：「興味がおありですか!」（キラーン）

美咲：「ふえ!?! ま、まあ……」

イヴ：「な、なるべく手短にお願ひするっぽい! 小銭が!」

ホープ：「まさか、イヴさんがこんな所で破産するなんて……うう……」

ホープ：嘘泣き

イヴ：「バイト戦士の懐はそれほど暖かくないっぽい」なお初期財産点10

ヘリヤ：「ご本人に私が解説するなど僭越ですが、数百年ぶりの降臨で混乱なさつておいでのですから……」

美咲：「ええまあ、前回来た記憶なんてありませんからね?」

GM：と云いつつ以下の話を教えてくれる

GM：アルビオン建国期、地下世界への移住が始まったころの伝説

GM：当時、王族の中にはデミウルゴスを信奉する一派がいた

G M：彼らはプロパテールから獣相を与えられた民を憎み、デミウルゴスの遣いである巨龍アベルカインを呼び出して獣相の民を苦しめたという

イヴ：合体怪獣みたいな名前だ

G M：勇者は異世界から現れ、巨龍を討伐して忽然と姿を消した。特別な武具を持っていたという伝承はない

ヘリヤ：「おそらく！勇者さまは武具など必要としないほどの力をお持ちだったのです！」

ヘリヤ：「ですから、美咲さまも恐れることはありませんわ」

ホープ：「あれー？何か私の知ってる勇者様と違うよーな……でも、そういう勇者様も居るのか」

ガデス：「警戒しつつそれを聞いている

美咲：「でも私握力15kgも無いんだけどなあ？」

イヴ：「それはちよつと鍛えた方が良くいっぽい。イヴはその10倍あるっぽい」

ヘリヤ：「……心の力！ そう、心の力です！」

美咲：「心……？」

ヘリヤ：「勇者さまの勇敢で清らかな心がプロパテールの御使いを呼んだとも言われていますからね」

美咲：「こう、左腕に付けた機械にカードでも差し込んだのかなあ？」

イヴ：アドベント！

ホープ：「確かに美咲さんは良い人ですからね！ 私みたいなのにもちゃんと付き合ってくださいまし！」

美咲：「ホープさん!? 自覚あるなら直しましょうよ!?!」

ホープ：「それは魚に山で呼吸しろとか、そういう……?」

ホープ：「後イヴさん、その握力で私と殴り合いとかしてるんですか……?」

イヴ：「え？ ホープならこれぐらい耐えられるっばい！」

ホープ：「耐えられませんよ！」

イヴ：「またまたー」

ホープ：「私、ただのメイドなんですってばさ。さておき、心ですかあ」

ガデス：「心、か。確かに天峰嬢はよき心を持たれているようではあるが……」

イヴ：「ま、とりあえずこれで美咲の心配事はひとつ減ったっばい。伝説の勇者さんも手ぶらだったっばい」

GM：「この話を聞いたとき、美咲ははるか地の底で巨大な何かが身じろぎする気配を感じる」

ホープ：「そうですね。これで美咲さんステゴロ最強説が……おや?」

イヴ：「……美咲？」

GM：それと同時にあるビジョンが脳裏に浮かぶ

美咲：「……!?!? あれ？その竜つて先代の勇者が倒したんじゃ……?」

ホープ：「美咲さん？」

GM：地上で相争う人々。彼らから立ち上った黒い幻の炎が渦巻きながら地の底に吸い込まれていく

ガデス：「如何された」

美咲：「下へと……禍々しい……黒い炎？」

ホープ：「黒い炎……まさか、プロミネンス？」

GM：いくつもの黒い炎の渦がその巨大な存在に吸い寄せられていき……

GM：ビジョンはそこで途切れた

イヴ：「何か感じたっばい？」

美咲：「大きな何かに黒い炎が……すっごく怖い……」

イヴ：「少しソファアーに座るっばい」

イヴ：そつと肩を支えて座らせませす

ホープ：「少し、休憩しましょうか」

美咲：「あはは、ごめんなさい。迷惑かけてばかりですね」

ガデス：「……視えたと、いうのか……」ぼそり

ガデス：「……いや、天峰嬢はどうぞ休まれよ。慣れぬことばかりであろう」

イヴ：ところで、そろそろホープは自動取得の特技を使つていったほうが良いのでは？

ホープ：それな—

イヴ：ここは《奉仕の達人》の使い所っぽい

ホープ：「ならば我が完璧なるメイドぢからでお世話いたしましょう！」

美咲：「え？ それ本当に大丈夫なやつですか？」

イヴ：え—？ という目でホープを見る。

ガデス：「……」お前余計な事したら……つて威圧感を出す

ホープ：「取り敢えず何時でも横になれるようにベッドメイク！ 今は寒いからお茶は常温より少し熱めに！そして近くの喫茶店に連絡して軽食を注文！」

イヴ：あ、みんな使わないフレアをホープに投げてあげるとコストに使えます。達人は代償重いの

ガデス：っぽい

ホープ：「そして私がそれを宣言した時、それは既に全て終わっているッ！」いつの間にかお茶とケーキのセットと完璧にベットメイクされたベッドが

美咲：「?!?」 ホープさんがまともにメイドの仕事を!?!?

イヴ：「信じられない光景が展開されたっぼい」

ホープ：というわけで、奉仕の達人。対象は、美咲さん

ガデス：「……ほう、どうして貴公」かすかに感嘆の溜息

ホープ：上げる能力値は心魂値でいいかな？

美咲：白兵じゃろ

イヴ：白兵では

ホープ：すまん白兵だった

美咲：《イデア：虚心》（突き返し）は心魂なんやけどね

美咲：特技の名前がわかりにくいんよなあ

イヴ：しかしメイソウエポンは白兵

ホープ：じゃあ白兵＋5

イヴ：「ぼいー。メイドなのは格好だけじゃなかったっぼい!」

ホープ：「ただのネタキャラだと思いましたが？ 残念！ ネタもメイドも完璧なかわ

わいいホープちゃんでした!」

ガデス：「……平時からそれを発揮すれば……いや、いい」溜息

美咲：「これが……異世界クオリティ……スヤア……」ベッドに潜り込んで安静に

GM：ここでガデス先生からプロミネンスとダスクフレアについて説明していただく
とよいのではなからうかろうか（编者注：事前に打ち合わせがありました）

ホープ：ついさつき寝たけどな！

GM：睡眠学習

ホープ：それ起きた時覚えてないやつや！

GM：催眠教室

イヴ：それはエロゲかなにかだ！

ガデス：あ、じゃあある程度すやすやして起きたら

ホープ：じゃあ、シリアスになりそうだし、一旦シーン切らない？

美咲：あ、せやね

ガデス：イエッサ、その方がうれしみかも

イヴ：うい。美咲のシーンにしようか

イヴ：あ、ガデスのシーンが良い？

ガデス：あ、じゃあ私貫おうかな

GM：シーンは切りましょう

ホープ：ほーい

ガデス：雑魚襲撃も考えたけどこわさを教えられればこれもアリだ

美咲：ではパス取得します「黒い炎 への 恐怖」

イヴ：ふーむ。パスは、「美咲 への 敬慕」にしようかな

美咲：わーいもらった

イヴ：7つのパスが揃った。

ガデス：私はここではとらないでおこう

ホープ：きて、どうするかな。イヴへのパスを取ろうと思ったが、イヴが既に因縁取っ

てるんだよな……

イヴ：それは双方向でも良いと思いますよー

イヴ：相手がどう思っていると自分が感じるかなので

GM：ぜんぜん違うのも面白いよね

ガデス：庇護 かつ なんとか ったのもありとは

ガデス：感情が一つとは限らない……！

ホープ：成程

美咲：ポジとネガとか

美咲：ロイスじゃねーか

イヴ：昇華してダイス増やそうぜ

ガデス：ロイスをタイタスにしてどーん

ホープ：じゃあ、「イヴ」への「ちょっとまって私その握力で殴られたら死ぬ」で
イヴ：wwww

GM：お前の死を乗り越えて人間的に成長してやる！

ガデス：たわばる

美咲：相変わらず長いパスww

GM：ロングパスってやつか

ホープ：ロンググッドパス！

GM：相手にされないのはスルーパス

ホープ：悲しいパスだ……

ガデス：じゃあ私シンプレイヤーってことで

ガデス：この世界の厳しさを目覚めた直後の美咲さんに叩き込んでいきます

ホープ：今回私は出ない方が良いかな……

ガデス：あ、最初はとりあえずホープさんイヴさんはいない感じでお願いでければ

イヴ：ういうい

ガデス：（頃合いみて出るのはお任せする）

ホープ：ホープはPC2として悩めるヒロインを元気づけるキャラなので、ヒロインが葛藤し始めるシーンには出てこないのです。ホープウィルエントはクールに登場し

ないぜ
美咲：ういうい

11 ミドルフェイズ6前編

ミドル6

GM：シーンプレイヤー：ガデス

GM：どうぞー

ガデス：では、美咲さんが熟睡されまして

美咲：スヤア

ガデス：あー良く寝た、と心地よい目覚め。目を開けます。

美咲：パツチリ

ガデス：視界にまず飛び込んでくる鎧。

ガデス：「目覚められたか」におうだち

美咲：「あ、おはようございます。ガデスさん」感覚麻痺

美咲：「あ、いや、ガデスさんはそちらでしたかね？」鎧の手に握られた剣を見る

ガデス：「……む」少々虚をつかれたように

ガデス：「正しくはそうなる。なれど、この剣が我が体ならば、この鎧人形も我が手足のようなもの」

ガデス：「どちらがどちら、と区別するには及ばぬ」

美咲：「へー………やっぱ異世界ってすごいんですねえ」

ガデス：「………」また無言でじっと見つめる

ガデス：少々の呆れと、憐憫交じりの視線

美咲：「あのう………そんなに見られると………いや目がどこにあるかわかりませんが………」

美咲：（そもそも目で見てるのかわからないし！）

ガデス：「………いや、天峰嬢は………ここに来るまでに何を見てこられた？」

美咲：「夢の中で、剣を持って竜と戦って、目覚めたらこの街の路地りにいて」

ガデス：「ふむ………それから？」促す

美咲：「親切にもヘリヤさんが助けてくれたり、ホープさんもこうやって何だかんだ助けてくれました」

美咲：「ネザードさんの大切な人を狙う悪い人もいますけど、ね………」

ガデス：「成程………」

ガデス：「………ならば、人死にを見たことがないであろうこともうなずけるか………」

ガデス：「まあ合点がいった、というような声色」

美咲：「死つ………」

美咲：「ごくりと唾を飲み下す

ガデス：「あれもあれで、そういうところには気が利くと見た。そういつたものは隠すであろうとはな」

ガデス：「あれ〓ホープさん

美咲：「有能やん

ホープ：「意外とちゃんとヒロイン造形として作つてあるホープ。尚実態

イヴ：「ほんとかー？」

ホープ：「途中結構良いこと言つてたやん！途中で遮られたけど！」（〇）

ガデス：「天峰嬢。その夢とやらだが：竜自体は当然、このオリジンにも存在する」

美咲：「お、いるんですね」テンションと声のトーンが高くなる

ガデス：「奴らは、そうだな。貴女の想像するであろうように強く、凶暴であり……」

ガデス：「『当然、多くの民が焼かれ食われた』」

美咲：「まあ、そういう『お話』は沢山読みました」

ガデス：「で、あろうな。……なれど」

ガデス：「その『事実』もまた、このオリジンに存在するのだ」

ガデス：「夢でも、御伽噺でもない、厳然たる事実として」

美咲：「理解は、しているつもりですけど……」

ガデス：「……構わぬ。我は特段、叱責するつもりも不平をぶつけるつもりもない」

ガデス：「なれど、一つ助言をさせてもらうならば。……それがまだ、夢である内に」

ガデス：「御伽噺である内に、貴女は元の場所へ戻るほうが良い」

美咲：「戻れる、のかな？」

イヴ：「もどれないな」

美咲：成長で《ヤルダバオト》取れば帰れるよ（）

ホープ：身も蓋もない！

解説：《ヤルダバオト》

フオーリナーの共通特技。地球との行き来を独力で可能とする唯一の方法。これ以外に地球に帰る手段は現状（シナリオによる特殊な帰還を除き）存在しない。

ガデス：「我には分からぬ、なれど」

ガデス：「このまま我らと共にあれば、必ず夢の終わりが来てしまう」

ガデス：「真に『金色のフレア』を持つ者であれば、あればこそ」

ガデス：「忌々しきダスクフレアとの終わりなき闘争、その修羅の巷から逃れるすべはなくなる」

美咲：「だとしても！ こうして目の前で困っている人に目を背けて、逃げるのは嫌なの」

美咲：「沢山の物語を読んで、〝もしも〟に想いを巡らせてきた。だから――」

美咲：「〝もしも私ができることをしていたら〟、なんて後悔は絶対に嫌」

イヴ：お、もうここで覚悟しちゃうか

GM：勇者症候群ステージ4、手遅れですね

美咲：折角ガデスが振ってくれたんだ、応えなくては

GM：これはいいシーン

ホープ：フレアを投げたいが、手札は全部クラブだ……！

イヴ：同じくハート

美咲：あるある〳投げる札が無い

ガデス：「……なれば、我からの指図はせぬ。だが」

ガデス：「……ふ、む」その瞳に、輝きの片りんを感じ

ガデス：「……ゆめゆめ、その覚悟を後悔する日が……来ることのないよう」

ガデス：「我也、祈っている」

ガデス：言つて、退室していきます

イヴ：おお

美咲：他の人たちがやりたいことなければシーン切っちゃうのもいいかなって

イヴ：あ、私も美咲と話したい

GM：では同じシーン内でやっちゃいましょう

美咲：あ、じゃあうえるかむかもーん

ホープ：ほいほい。私は出ませぬ

GM：ここは判定なしで登場していいです

ガデス：じゃあ私は部屋を出たらイヴさんと会わないようにその場を後に

ガデス：どうぞどうぞイヴさん

イヴ：あ、シーンプレイヤーがガデスだから

GM：あ、そうか。まあここでシーン終了処理とかするのも時間もつたいないからこのままどうぞ

イヴ：うい。じゃあ継続で？

ホープ：今はまだシリアスを壊すべき時ではない……

12 ミドルフェイズ6後編

イヴ：では美咲しやんはホテルのベランダから外を眺めていてくたせえ

美咲：はい

美咲：じーっと

イヴ：暗い蒸気に覆われた空。地下世界には月も星もない

イヴ：で、突如ひゅんと空からベランダに降り立ちます。屋根から降りてきた

美咲：「うわっ！ イヴさんかあ」

イヴ：「こんばんは。いい夜っぽい？」

イヴ：金の髪をなびかせて、にっこりと笑う。

イヴ：「ちよっとお話させて欲しいっぽい」

美咲：「ええ、まあいいですけど……」

イヴ：ちなみに周辺警戒をした〜イヴ

イヴ：「美咲の故郷のことを聞きに来たっぽい〜」

イヴ：イヴは地球に似てるけど違う世界から来たから、どんなところなのか教えて欲しいっぽい〜」

いっぽい〜」

美咲：「え？ いいですよ。 といつても何にも無い所ですよ」

イヴ：隣に並ぶ。

イヴ：ちなみに、美咲の身長は？

美咲：高三女子だし157ってことにしておこう

イヴ：じゃあ少しイヴの方が高いかな。165なので

美咲：せやな

イヴ：二人並んで夜景を見つつ話をする

美咲：「テレビもねえ！ ラジオもねえ！ っつてわけじゃないですけど。 駅までのバスは20分ごと」

美咲：「でっかいイ●ンが休日のお出かけ場所の定番。 東京まではちょっと遠いかな」

美咲：埼玉県民の皆様ごめんなさい

イヴ：大丈夫だ問題ない

美咲：勝手な埼玉のイメージを捏造していくスタイル

ガレス：大丈夫日本海側からすれば天国みたいなところだから

イヴ：「でも、悪いところじゃない？」 優しく聞く

美咲：「確かに、ここみたいのでっかい化け物がいったりはしないかな」

美咲：「イヴさんの言う“地球に良く似た世界” っつてのはどんな所なの？」

イヴ：「美酒町も似てるっばい。田舎っばい」

イヴ：「学園都市で、町中を出ると後は田んぼと山ばかりっばい」

イヴ：「遊ぶ場所は最低限あるけど、やっぱり箱庭みたいでちよつと窮屈っばい」

イヴ：「でも、実は魔法少女やストリートファイターや悪の組織がいたりして、人知れず戦ってるっばい」

美咲：「すっごい！　まるでアニメや漫画の世界だよ！」

イヴ：「しばらくそんな話をして、」

イヴ：「ぼつりと。「別選ばれたからって、必ず勇者にならなくても良いんだよ？」

イヴ：「夜風に金髪をなびかせ、赤い瞳で美咲を見つめる

美咲：「たしかに、実はすっごい怖いよ。話を聞くだけでも死んじゃうんじゃないかってくらい」

美咲：「でもね、私はずっと平凡で、ただ夢見ることしかできなかったの」

美咲：「ドン臭くて、迷惑ばかりかけて、そんな私が選ばれたことに意味があるのか
なっつて」

イヴ：「……うん」

イヴ：「イヴは仕事でこの街に来たけど、ダスクと戦うのは仕事だとか使命だとかじゃなく、そうしないとイヴの故郷も滅んじゃうからっばい」

イヴ：美酒町だけじゃないっぼい。ダスクが《創世》を発動すれば、三千世界の全てが新たなる世界を作る燃料として滅ぶっぼい」

イヴ：「……もちろん、地球も」

ガデス：（解説有り難う……そして解説しきれず済まない……）

イヴ：いいってことよ

解説：ダスクフレア

世界の敵。漆黒のフレアを身に纏い、己の欲望を満たす世界を創造する《創世（リジエネシス）》を目的とし、大量のフレアを集めるべく行動する。その正体や手段、欲望は様々。カオスフレアにしか倒す事が出来ず、倒す事に失敗すれば上記の如く全世界はフレアに還元されてしまう。

イヴ：イヴはこの世界が好きっぼい。美酒町も、オリジンも、ネフィリムも、ロンデニオンも。だからそれを全部ふっ飛ばそうとするダスクフレアは許せないっぼい！」

ホープ：すまない……シリアスに徹しきれないPC2ですまない……

美咲：メリハリは大切

イヴ：メリッ！（拳）

ホープ：ハリっ！（梁で殴る）

GM：なんだそのコンビネーションw

イヴ：「美咲。もし本当は怖いなら、言ってくれていいっばい。イヴは聞くから」

美咲：「でもね、怖いからって逃げてたら。ずっとこのままだなんて思うんだ」

イヴ：「……うん」

美咲：「こうして呼ばれたのも、みんなが言う『ぶろばてーる』ってうちの導きなら」

美咲：「『心』の力が本当に竜に通用するのかもしれない」

イヴ：「……勇者、っていうのは資格でも力でも無いっばい。不義と戦う誓い、心に燦然と燃える勇気の炎を持つものが、勇者と呼ばれるっばい」

イヴ：「だから、それはもしかすると、本当に美咲みたいな人のことっばい」

イヴ：「……すごいね」

美咲：「そうなの、かな？ でもね、ガレスが言っていたように、私は夢見てるだけなのかも」

美咲：「本当に命の危機が目の前に迫ったとき、私が何もできなかつたら——」

美咲：「イヴの手を強く握る」

イヴ：「うい」

美咲：「助けて、くれる？」

イヴ：「じゃあ、抱きしめる」

ガデス：キマ

ホープ：シタワー

美咲：グッ

イヴ：「美咲はね、ちよつとリズに似てるっほい」

美咲：「そうなの？」

イヴ：「リズっていうのはね、イヴの姉妹」

イヴ：「優しくて、おっとりしてて、でもとつても心の強い人」

イヴ：「今は、どこにいるかも、生きているかもわからないけど」

イヴ：「だからね。美咲が戦うというのなら。辛い道でも行くのなら」

イヴ：「イヴが、美咲を守るよ」

美咲：「ありがとう、イヴ……」

イヴ：「という感じでー」。

GM：尊い

ホープ：尊い……

イヴ：くくく、PCヒロインの座は頂いたぜ

美咲：ブーケにあたるものを投げられるのはステラナイトだけじゃないぜ！

GM：カットおー、いや〜よかつたよ〜（ディテクター）

美咲：カットでいいかなあ？

ホープ：良いんでない？これ以上付け加えることないでしょ

イヴ：では処理で？

イヴ：あ、購入判定。狂戦士の火酒を

GM：購入判定ね。どうぞ

イヴ：では目標値23

イヴ：2d6+12

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+12) ↓ 6 [2, 4] +

12 ↓ 18

イヴ：6切って成功

イヴ：以上、ターンエンド

GM：シーン終了。もろもろどうぞ

ガデス：私も長々アレして申し訳

ホープ：やはりホープは出ないで正解だったな…… (確信)

ホープ：んー、出なかったけど特にやることないな。

ガデス：こっちはパスをとろうかな

ガデス：民草 への 親愛

ホープ：おいらもターンエンド

13 ミドルフェイズ7、8

ミドル7

GM：次のシーン。エミリー救出かな

イヴ：んー、これ、まだちょっと背景が不透明なのが気になりますね

美咲：だけど、今から始めて時間大丈夫かなあ

GM：実は救出（というか監視しているやつらの排除と本人の保護）自体はすんなりいく。お好きな演出でさっくりやってしまってもかまいません

イヴ：お、戦闘になるかと思ったが

GM：ミドル戦闘は別のがありまして

ホープ：列車砲が火を吹くZE☆

GM：それは次回ですね

美咲：なるほど

美咲：まあた列車砲か

ホープ：あ、そういえばもう日常シーンは挟まない予定ですか？
GM

ホープ：どっちでもいいけど、それによって微妙に方針変えようかなと。

イヴ：ホープは事前準備多いからね

ホープ：《八面六臂》取ろうかなーと思っただけどねえ。流石にこれだけの為に特技
砕潰すのもなーと

イヴ：手番足りなくなるよねメイドは

ガデス：リアルのメイドのように（家事が終わらない

GM：GM側で用意している日常シーンはないです。PL要請で挟むのは可

ホープ：成程。微妙に美咲さんと話したい気持ちがあるのだが、何時話そうかなーと

美咲：ですねー、どうしようか

ホープ：じゃあ、先にガデスさんと話すか。折角出し

ガデス：およ、了解

ホープ：ガデスさんと話すシーン入れていいですか？GM

イヴ：お、そーね。それで時間的にもちょうど良いかな

GM：了解です。いいですよ

ホープ：じゃあ、時間軸的には、ガデスさんが退室した直後かな

ガデス：美咲さんとイヴさんがおはなししてるのと同刻位ですか

ホープ：うん、そんな感じが良いかな、と

GM：では、シーンプレイヤー：ホープ

ホープ：というわけで、部屋から出たガ德斯さんに「ホープちゃん、パーンチ！」とガ德斯さんと言うなの鉄の塊を殴ってから悶絶しますね。廊下で

ガ德斯：がいん

ガ德斯：頭とれます（すぽーん

GM：なにやっつてんだw

美咲：デユラハンかよ！

ガ德斯：いやどつちかかっていうとさまようよろいというか、中身カラなの

ホープ：「うおおお……」手を抑えてひとしきり悶絶した後

ホープ：ふっ、これで許してあげます」と何故かニヒルに言っただけ帰ろうとします（引

き止めてー

ガ德斯：「……」無言で肩をがしり（頭はすでに戻っている）

イヴ：これが《乱暴狼藉》か

ホープ：そーいや確かにこれ《乱暴狼藉》だな。いや、それを言ったら乱暴狼藉でな

かった事などないが。

GM：ユーはシヨック

美咲：良く考えたら既に乱暴狼藉の限りをはたらいてた

ホープ：じゃあ、これが《乱暴狼藉》ということだ！フレアを支払いセッション中

行動値分だけダメージアップ!

GM:被害者が自分しかいない乱暴狼藉

ガデス:なら問題ないのでは:???

イヴ:そういうのもあるのか!

ホープ:「おうふ……」肩を掴まれて、冷や汗をかく

ホープ:まあ、待つてください。確かに、これは理不尽な八つ当たりの側面もありま
す」と堂々と

ホープ:ですが、正当な八つ当たりの側面もあるのです!せめて、その説明を聞いて
から、沙汰を下しても良いのではありませんか!?

イヴ:正当なやつあたりとは

ガデス:「……聞こう」ひょいっと持ち上げる(片手で、肩掴んだまま

ホープ:わーい、確保されたー。これ納得させられなかったら、どうなるかわからな
いぞ私ー」

ホープ:こほん。さておきですね、先程、美咲さんと話をされていたじゃありません
か。しかも多分、美咲さんに『お前オリジン舐めてない?』的な感じのお話を」

GM:お前オリジン舐めてない?〜ホープ

ホープ:ホープさんはシビアな生い立ちなので、しっかりと酸いも甘いも経験した上

で舐めてる。問題はない

ガデス：「……ふむ、聞かれていたか」

ガデス：「気づいていなかった」

ホープ：「まあ、お察しの通り、私、美咲さんには意識して、あんまり、そういう事言つてこなかったんですよ」

ガデス：「特段、隠すつもりもなかったが……それがどうしたか」

ガデス：「で、あろうな」

ホープ：「なのに、ガデスさん、もう何か直球勝負で言つたじゃないですか。まあ、美咲さん強かったから、結果的に心配はなかったのですが」

ガデス：「……我は、あまり気の利く方ではない故な」

ホープ：「それですよ。本当はそれ私が言うつもりだったのに……って気持ちとか、美咲さんがこの世界の事嫌いになつたらどうすんだこら……って気持ちとか、後今までずっとそういう暗い部分を隠していた自分への自己嫌悪とかがぐわ……って来るじゃないですか？」

ホープ：「なので、殴りました。反省はしていない。またやる」

ガデス：「……む」ちよつとばつが悪そう

ガデス：「そつと下ろすよ」

ホープ：「およ？」

ホープ：「てつきり、『結局八つ当たりじゃねーか！』って感じで、また拳骨が飛んでくると思つてたのですが」

ガデス：「……いや、貴公のやり口をおよそ察しながらも事を急いた私の落ち度よ」

美咲：ガデス兄貴イケメン……／＼／＼

ガデス：「此度はよく転んだからよかつたが……すまなかつた、なにぶん元がなまくら故な……」

ガデス：「どうにもそういった機微に疎い……」あからさまに肩を落とす

ホープ：「……もー、そこで謝らないでくださいよう。調子狂うなあ」

ガデス：「む……むう」どうしろと、って感じの仕草

ホープ：「こんなの、中々言い出せなかつた、私が悪いに決まつてるんですから」

イヴ：エアフレアを投げておこう（出せる手札が無い）

ガデス：「む……なれど、ここまで荒事にほとんど巻き込まず導いた手腕は大したものと思うが？」フオローをしようとしている

ホープ：「まあ、地味に頑張りましたからねそこは。先に突撃して、敵が居ないかどうか確認したり」

イヴ：あれはそういう意図だったのか……

ホープ：「先に騒ぎを起こして、耳目を引いて、騒ぎの機先を制するっていうのも、まあ、無くはなかったです。今までそうして、生きてきましたから」

美咲：「隠された真実……！」

ガデス：「……貴公、大した狸よな」

ホープ：「狸って程緻密に考えがあつた訳じゃありませんよ。何時だつていつばい
いつばい、自分がしなきゃいけない事を、考えていただけです」

ガデス：「……それが即座に浮かぶのが、大したものだというのだ」

ホープ：「何時も怖かつた。明日は寝首を搔かれるかも知れない。ジーアに知られて
戦うことになるかも知れない。或いは、何の関係も脈絡もない強者に、捻り殺されるか
も知れない。私の母親みたいに」

ガデス：「……貴公」

ホープ：「そんな中で、地球の勇者様って存在が、本当に眩しかったんです。何の脈絡
も伏線もなく、全ての問題を解決してくれる、皆を守ってくれる」

ホープ：「勿論、美咲さんにそんなのを求めるつもりはありませんが。でも、だからこ
そ」

ホープ：「せめて、私が憧れた世界の住民には、この世界を、好きになつて欲しかった
……」

ガデス：「……済まなかった」改めて深々と頭を下げ、本体の剣を地べたに置く

ガデス：ガデスなりの土下座である

美咲：インテリジェンスソード流土下座

ホープ：「いや、だから謝る必要はないんですってば」と苦笑して

ホープ：「寧ろ、お願いしたいんです。ガデスさんには」

ガデス：「む……？」本体拾い上げつつ怪訝そうに

ホープ：「私はね、美咲さんに期待することしかできない。求める事しか出来ない。頑張りましょう、とかきつとできます、とか、そんな事しか言えないんです」

ホープ：「だから、本当に」できない”事があの娘の前に立ちふさがった時、貴方が彼女を守ってあげてください。多分、それが一番上手に出来るのは、ガデスさんだと思うんです」

イヴ：「守護らねば……」

ガデス：「……」言葉を探すように間をおいて

ガデス：「それは承知した。我は天峰殿を守る剣で在ろう」

ガデス：「……なれど」

ホープ：「なれど？」

ガデス：「我にできることは、『守る』のみ。『背中を押す』ことも、『手を引いてやる』

ことも出来ぬ」

ガデス：「それは、貴公らに任せた」

ホープ：「……にやはは。それは勿論。私の得意分野です」

ホープ：「さーて、明日からは忙しいですし、そろそろ眠りましょうか！ガデスさん眠ることができるかどうか疑問ですが！」

ホープ：と、シリアスした照れ隠しに後ろを向いて歩き出す

ガデス：「む……で、あるな。どこぞによい棚でも……」とか言いつつ気づいてない

ホープ：「つてなとこで、シーン斬るかな？」

イヴ：「いい話や」

GM：うむ

美咲：話の中心にいるこの感じ、これがPC①か

GM：はい、では。最後にちよつとだけマスターシーンを入れます

ガデス：おお

ミドル8

GM：マスターシーン

GM：十数年前、ロンデニオン貧民窟

G M：幼き日のヘリヤは虐げられていた。同じ貧民たちの間でも獣相を持たない彼女は異分子であり、皆生活が苦しい分、迫害も激しかったのだ

ヘリヤ：「どうして、わたしは、わたしの貌は……！」

ヘリヤ：「伝説の勇者様でも、神様に愛されないこんな姿のわたしのことは、きつと助けられない」

ヘリヤ：「あの伝説、神様の加護……？」

G M：その時、ヘリヤに天啓が訪れた

ヘリヤ：「そう、そうなのね。わたしは……こんなところにいる人間じゃない」

G M：その瞳にはいままででない光が宿っていた

イヴ：お、おお？

G M：彼女がお忍びで街を視察していたセレニカ姫の目に留まり、メイドとして宮仕えに入るのはこの数日後である

G M：シーン終わり

ガデス：そつちかー……そつちから来るのかー……！

美咲：ほう……？

イヴ：まじかーそつちかー

美咲：ほうほう！

G M : では、今日はここまでー！お疲れさまでした

14 幕間

幕間

イヴ：こんばんはー

GM：こんばんは

イヴ：とりあえず行動値のところにコマを置きましたー

GM：はい

GM：むッ、ガデスの気配

GM：こんばんは

ガデス：こんばん………何イ！（察知された

ガデス：こんばんわw

GM：他人の操作が丸見えなのがいいのか悪いのか

イヴ：ww

ガデス：あ、そうだGM、前回申請できなかつた分のパスを先に申請しておきたいです

ガデス：「ホープ への 尊敬」を（そういう精神面でのフォローはできないからす

げーっという

イヴ：おぉー

GM：OKです

ホープ：ふっ、ガデスさんも遂に我がメイド拳法の素晴らしさに気付いてしまいましたか……

ホープ：というわけでこんばんはー

イヴ：おっ、ホープさんこんばんはー

イヴ：ガデスさんは食事十曲のアテはありますか？

ガデス：こんばんわー

ガデス：食事と曲：どうしようなあ

GM：こんばんは

ホープ：という訳でこちらもパスを変えよう。「ガデス への 信頼」だ。

ホープ：前回の戲けたパスの事は忘却の彼方に

イヴ：本日のおススメはカニミソとウニのテリーヌとなっております

イヴ：心魂値がー5される代わりに、剣によるダメージ＋10です。お値段は目標値

8

ガデス：ふむ…じゃあそれを狙ってみましょうかね、ちなみにどのサブりに記載が

イヴ：ジエネシツクサファイアでございます

ガデス：～ないへ

ガデス：……この卓終わったらまたサプリア買うんだ：

GM：ジエネリツクサファイア

ガデス：とりあえず今回そのデータだけお借りします、ありがとうございます（購入狙う）

ホープ：おいら何買おうか……

イヴ：曲は何がいいかなー。ガデスは天堂九星口訣歌とかが良いのかな？ 魔術＋１さ
れます

ホープ：何か星詠みに似合いの飯があつたはずなのだが……ちなみに、セッション中
にデータ参照の時間ってあります？

GM：というと？

ホープ：あー、いや。alanさんが来るまでにデータ見つかるかなと思つて

GM：データ探するのに時間を使ってほしくはないな

ホープ：了解です。じゃあできるだけ今候補決めにや……

イヴ：ホープはハッチポッチガンボとかが美味いのかな。全判定のクリティカルが＋
2されてしまう代わりに、与ダメージ＋手札上限×2

ホープ：ハッチポッチステーション？（幻聴）はともかく、どのサプリでしたっけ

イヴ：ジエネサファです。強い嗜好品が多くてすばらしい

イヴ：曲は「神の指となりて」か「朝焼けに目覚め」あたりが星詠みだと良いのかも？ 共に重圧無効です

イヴ：天かすは自分が重圧になってると使えなくなるので

ホープ：成程。

ホープ：それにしてもアズライトブルーが見当たらないな……何処に言ったんだ

イヴ：あるある

ガデス：曲も天堂九星口訣歌っていうのでいいかな……というか曲っていう概念を使っただことがなかった記憶

イヴ：食事と同じオプシオンです。食事とセットで買うとお安くなります。

ホープ：自分も曲のルー的な仕様詳しく知らないな……

ホープ：基本的には、食事とかわらないんでしたっけ

イヴ：ですです

イヴ：天堂はテリーヌと一緒に買うと合計目標値12ですね

ガデス：ほうほう……ありがとうございます

ガデス：次の購入判定のときにチャレンジだな

イヴ：シナリオ中有効なので、加算を忘れないでくださいねー

美咲：ぐへえ

イヴ：おお、お疲れ様です

GM：いらつしやーい

ガデス：おお、お疲れさまです

美咲：お待たせしました申し訳ない

美咲：コレも全部学部再編ってやつが悪いんだ

ガデス：なんだってそれはry

ホープ：お疲れ様ですー

ホープ：それは本当に大変なやつや

GM：国がお金をくれないのか

美咲：後からシンプルな名前にすんなら最初から変な名前をつけんなやア！テメエはメタリックガーディアンのエラツタかア！

イヴ：ww

美咲：何が《ヘブン&アース》だよ!!お前《デス&リバーズ》じゃねえのかよ!!

美咲：さて、余談はさておき()

GM：それではよろしく願います

イヴ：よろしくですー

美咲：よろしくお願いします

ガデス：よろしくお願いします！

ホープ：よろしくおねがいしますー

15 ミドルフェイズ9

ミドル9

GM：とくに深い意味のないマスターシーンが終わって、エミリーさんをどうにかし
ちやうシーンかな

イヴ：ですねー

イヴ：いや意味深でしたが

美咲：あれで本当に意味が無かったらGMをフレアの束で殴っても許される

GM：女には過去があるものよ

イヴ：とりあえず、作業員相手にガデスが無双するところからスタート？w

ガデス：していいと？w

GM：そのへんかな。まず場面を描写します

エミリー：「〜♪」

GM：買い物袋を抱えて帰宅途中のエミリーさん

カルマンの配下：「……」

GM：路地裏から見つめる作業員

GM：工作人員は別の工作人員と落ち合うと、うなずき合って手の中の武器を握り直した

GM：そろそろ拉致する気だ

GM：はい、アクション

イヴ：どーんとやっちゃってください

ガデス：では

ガデス：「——稚拙」 工作人員たちの背後から声

カルマンの配下：「なに!？」

ガデス：『汝、我が名を刻め』——ぬうん!

ガデス：一閃

ガデス：『破壊』、なれば

カルマンの配下：「あ、ぐ」（ばたり）

イヴ：あ、出て良いです?

GM：OK。判定もいりません

ガデス：……案ずるな。身体には峰のみよ」武器は真つ二つになりその後粉々に「破

壊」される

イヴ：「ぽーい。生きてるー? あ、一応生きてるっぽい。さすがガデスっぽい」

イヴ：と手際よく拘束していきます。

ガデス：「……………この程度であれば貴公とて容易かろうよ」剣を収める

美咲：「お、終わりました……………」物陰からちらり

GM：「工員、意識あつたほうがいい？」

ガデス：「あ、一人くらいお話しできると嬉しいかも」

ホープ：「おー、終わった終わった。いやあ、ガデスさんやっぱ強いですね」とかぶつていたダンボールから出てくる

イヴ：「美咲にはちよーつとまだ刺激が強いシーンが続くつぽい」

カルマンの配下：「お、お前は」>イヴ

イヴ：「こんにちはー、お元氣つぽい？」<工員に

ホープ：「あー、じゃあ私美咲さんと一緒に周り見回ってますね」

ガデス：「……………うむ。そちらは任せる」<ホープさん

ホープ：「なんかするときは猿ぐつわだけしといてください。下衆とはいえ、声を美咲さんに聞かせたくはありませんから」

美咲：「あ、じゃあまだちよつと引つ込んでますねー」

ガデス：「……………承知した」

ホープ：「じゃ、行きませう。なあに、一時間ぐらいで終わるでしょー」つてな感じで、美咲さんを近くの喫茶店に連れて行く

イヴ：「……行つたかな？　じゃあ聞くけど、あなた達はカルマンさんがテオスに寝返つたこと、知ってるっばい？」

カルマンの配下：「そこまで掴んでいるとは」

イヴ：「あー、知ってるっばい？　なら、何で止めなかつたの？」

GM：「こいつフオースプラスター持ってる

カルマンの配下：「女、貴様も我々についた方が利口だぞ」

イヴ：「ふーん？　何で？」

カルマンの配下：「しよせん滅んだ星の企業など大星団の敵ではない。おい、これをほどけ」

ガデス：「……」　あきれたような気配が漂ってくる

イヴ：「うーん、何でそう思つたっばい？　誰かすぐく強いのに出会つたとか」

カルマンの配下：「末端の兵士ひとつとってもだ、獣鬼兵などバンダーラの足元にも及ぼんのだ」

ホープ：「この部下、すげえ三下臭がする……さすがザコ敵

イヴ：「ふむふむ？　とりあえず、これを見るっばい」

カルマンの配下：「？」

イヴ：と、そのへんに落ちてゐるネジを拾い上げて、おもむろに親指と人差し指でつま

んでくしゃつ、とコイン程度の薄さに潰します

カルマンの配下：「ひい」

ガデス：Wow……

美咲：こんな誰だつてビビるわw

イヴ：まあ、テオスの怪人さんが強いのは知ってるっぽいけど、今ここでそれはあな
た達に関係ないよね？」

イヴ：「今大事なのは、イヴの機嫌をどうやって損ねないようにするか。違う？」

イヴ：と、相手の耳をつまみます。

カルマンの配下：「た、たすけてくれ」

イヴ：「それはあなた達次第っぽい」

GM：あれ？ガデス無双のはずが……

ガデス：……よもや我より他者の心の機微に疎い阿呆がいるとは思わなんだ……」呆
れたような声

カルマンの配下：「ひいひい」

GM：まあいじめるのはこのくらいにして

イヴ：拷問になったら生き生きしてしまった、反省している

美咲：TRPGerあるある 拷問が楽しい

ガデス：わかる

ホープ：あるある

イヴ：まあ、こいつら絞つてもあんまり有益な情報はないかな？

G M：情報としてすでにほぼ掴んでるし、証拠固めにはなるくらいかな

ガデス：しょせんはサンシタ……

ガデス：取り合えずこつちで確保しておいて事後処理の時の地盤固めに使うくらい？

イヴ：うい、じゃあ適当に裏とりしたところで改めて気絶させます

カルマンの配下：（くたり）

ホープ：そうね。この人には重要参考人になつてもらいましよう

G M：エミリーさんどうします？

ガデス：あ、じゃあいつそ天峰さんとホープさんにそつちにいつてもらいましようか

？

ホープ：そういうえば拷問の風景見せない様にする第一の人物は美咲さんではなくエミリーさんだったのでは疑惑

G M：いまのところエミリーさんは気づかず表通りを歩いていますよ

イヴ：恩のあるガデスさんか、城の関係者のホープさんに話しかけてもらいましようかね？

ガデス：ある程度はなしとまったところでこつちも合流する感じで

ガデス：ヴィジュアル的に穏便なのが確実にホープさんだから、お願いしたい……W

美咲：ヴィジュアルだけは

G M：w

イヴ：まあまあw

G M：ホープと美咲でエミリーに接触かな

ホープ：じゃあ、自分がやるか

イヴ：お願いしまーす

ホープ：えーと、じゃあ喫茶店でお茶してる所に、電話が入る感じでいいかな

ホープ：「あ、イヴさん。終わりましたー？」

イヴ：終わったっばい。菜種みたいに絞ったけど、真新しいことはわからなかったっばい〜」

美咲：じゃあ、その喫茶店でちよつとブルーチーズの香り味噌付け＋バーチャルソングを喰りたい

ホープ：ブルーチーズは百歩譲ってメニューとしてあるとして、バーチャルソングは何処から流れるんだろうか……

G M：歌声喫茶

美咲：我がスマホ

イヴ：スマホの力を過信したな！

ガデス：万能の神器スマホ

美咲：まるで将棋だな

GM：まるでスマホだな

ホープ：何故突如として懲役30分が

GM：せめて、まるで詰め将棋だな、ならまだマシな気がする。実のところよく知らないんだけど

美咲：ちなみに将棋云々はアニオリ台詞らしいので原作者は責めないであげてください
いよく知らんけど

イヴ：ともかく目標値12かな？

GM：判定どうぞ

美咲：2d6+5 ハハツ期待値じゃないか

<BCDice：美咲>：Chaos Flare : (2D6+5) ↓ 7 [6,

1]+5 ↓ 12

美咲：期待値だった

イヴ：成功成功

G M : フレアがはけないじゃないか

ホープ : よしよし

ガデス : おk

美咲 : 「あふえ？ふおふあつたんですか？」 モグモグ

G M : あざとい

イヴ : カワイイ！

G M : あざとーいっす

ホープ : 「終わったばいですねえ。特に重要な事は何も歌わなかったらしいですが」

美咲 : 「歌つ……いやまあ何となく察しはつきますけど」

ホープ : おつと失言。まあ、心配しなくても大丈夫ですよ。そこまでひどいことはしてないみたいです。声のテンションが同じですから」

ガデス : 絶対基準がおかしいやつ

イヴ : まあ作業ですしおすし

ホープ : 「(イヴさんに) 所でエミリーさんどうします？連れて行きます？」

イヴ : 「二応城で確保しておくのが安全っぽい？ ネフィリム的にはネザードさんと

セットで国に連れ帰りたいけど」

ホープ : 「あー、連れ帰る方はウチのトップと話をしてください。ともあれ了解です。」

それじゃ、エミリーさん連れていきますね」

ホープ：「というわけで、お勘定払って外に出ると、既に大砲が出現している

美咲：耳を塞いで伏せの構え、なれたものである

ホープ：「さて、表通りを歩いているとの事だから、今度は建物を曲射で抜かないと……よし、此処だな」と大砲の角度をセットアップしてから入って、発射。エミリーさんの丁度目の前に射出される

イヴ：「ガデスさんもそっちに行くつばい。一応直接の知り合いだし……つて、ぼい？」

イヴ：「どごーん、と耳元で爆音がしてひっくり返る

エミリー：「きゃっ」

ガデス：「何事だ今の音はいや理解したすぐに向かう（電話から

ホープ：今回は曲射したので、舗装の石畳が罅割れる程度で済んだ。

イヴ：クレーターは出来そうだがw

ホープ：「着地っ！失礼ですが、貴方がエミリーさんで宜しいですね？」

エミリー：「そうですが……あの、だいじょうぶですか？」

イヴ：頭は大丈夫ではないな

美咲：ヴィジュアルからして平穩じゃねえ

G M：明らかにガデスの方が穏便だった

ガデス：外見はともかく行動が……ッ

ホープ：「大丈夫です！元気なだけが取り柄ですから！それはさておき、セレニカさんについていう、王族のお姫様はご存知で？」

ホープ：「ちよいと、その方から頼まれました。貴方を王城までお連れしたいのですが……」

エミリー：「セレニカ姫ですか？ええ、お名前は。お優しい方だとか」

エミリー：「ええっ？私なんかはどうして」

ホープ：「此処で事情を詳しく言わないのは、えみりーさんにパニックを起こさせないためな」

ガデス：「変なところでクレバー」

イヴ：「もうパニックになりそうなもんだが」

G M：「気を遣うところが違うw」

美咲：「努力の方向音痴ww」

ホープ：「うーん、なんでもネザードさんって方に関わりがあるらしいんですけど」

エミリー：「ネザードさん？そうですか？」

エミリー：「わかりました。案内していただけますか？」

ホープ：「はい、それじゃあ、ご案内しますね！へいタクシー！」

ホープ：大砲？人を護送する時に使うわけ無いだろ！

イヴ：あれ、ガデスさん無駄足

ガデス：いえ

ガデス：到着したタクシーの運ちゃんか

イヴ：まさか

GM：なん……だと……

美咲：ええwww

ガデス：「あ、お客さん、道中頼まれてこれ渡してほしいそうですよ」と

ガデス：ガデスの本体を差し出してきます

イヴ：あ、良かったw

エミリー：「この剣はあの時の……」

ガデス：「うむ、息災なようで何より」また鎧姿を形成しつつ挨拶

ガデス：「して」全身形成して

エミリー：「その節はお世話になりました。お元気そうですね」

ガデス：「貴公……」

ホープ：「うお、タクシーの中で鎧形態は狭いっ！」と後部座席で押しつぶされそうに

なってるホープ

ガデス：ホープさんにめっちゃ志向性の威圧感

ガデス：エミリーさんには普通に会釈してるぞ！

ホープ：「うわあ、キレてる！やっべえキレてる！畜生こんな所に居られるか！俺は……車の中だから何処にも行けない！！！！」

G M：よくわからないが、何か大きな流れに巻き込まれたと悟ったエミリーは腹を括った

G M：研究が認められず貧乏していたころネザードを応援していたエミリーさんは、姫に認められるまでになったネザードが必要としているなら、と

G M：というわけでおとなしく拉致られます

ガデス：そしてタクシーが姫様の元につく頃には

ガデス：ホープさんのおでこにでっかいたんこぶがひとつ……

ホープ：「鎧形態で頭を打つって、私でなければ死んでましたよう……」ぐらんぐらん頭を揺らしながら

ガデス：「我自身（剣）がよかったと……？」
（ぐんぐんぐんぐん）

ホープ：「それもう殺人と同義語じゃないですか！やーい、ガデスさんの殺人剣！いや嘘ですゴメンナサイだから二撃目早めて！」

GM : w

GM : なんだこの無駄に面白いシーン

イヴ : とりあえず作業員たちを全員抱えあげて屋根の上をジャンプしながら城に向かいます

イヴ : 「じつとしてないと落とすっぽい」

ガデス : 作業員「(必死に身を寄せ合って落ちないようにしている)」

美咲 : Go ● gleMAPを頼りに合流しよう

GM : スマホ……

GM : このへんでシーンを切りましょう

イヴ : はーい

ホープ : はーい

GM : パスと手札の処理をどうぞー

ガデス : 了解ですー

イヴ : 変化なし、ターンエンド!

ホープ : 手札調整完了

ガデス : あ、ホープさんへのパスを変更で

ガデス : ホープさんへの貴公……で

イヴ：w w w

ホープ：何だその色々な感情が降り混ざったパス！
w
ガレス：ばんかんのおもいをこめた

16 ミドルフェイズ10

ミドル10

GM：では次のシーン

GM：カルマンをやっつけよう！という話になるシーンです

イヴ：ほいな

GM：ホープがセレニカに呼ばれます

GM：他の人もついてきてOK

イヴ：頃合いを見て出ます

ガデス：私も頃合いを見て出ます

GM：ホープがセレニカに呼ばれます

ホープ：おつと。では、今度はちゃんと玄関から入りましょう。大砲？使うわけ無いでしょう非常識な

GM：そう常識常識

美咲：じゃあホープについていこう

セレニカ：「首尾はどうですか」

美咲：「皆さんとても頑張ってくれてますよ！」なおこいつは

ホープ：「見た目上々、実際は微妙ってところですねー」

セレニカ：「微妙なんですか？」

ホープ：「ネザード博士とエミリー女史を城に保護できたんで、一見こつちが有利に見えますが、実際は終わりのないデイフェンスみたいなもんです。何とかしてカルマンさんを排除しない事にや、落ち着いて夜しか眠れませんかよ」

ガデス：君が僕を見つめ続けてくれるなら

ホープ：「おっと、そういえばカルマンさんの事は知らないんです。それじゃあえーと」かくかくしかじか

セレニカ：「栄光あるロンデニオン博物館の館長たる者が国を裏切るなんて……」

ホープ：「まあ、割とシヨックですよ。私もロンデニオン博物館は好きなんですけどねー」

イヴ：ロンデニオンを裏切ってネフィリムを裏切ってテオスに行くという

ホープ：蝙蝠というか優柔不断なんじゃねえのこイツ

セレニカ：「決して許すことはできません。ホープ、彼を討ってください」

ホープ：「勿論です。とはいえ、問題はヤツをどうやって捕まえるかなんですよねえ。ケツに火がついてるから、その内出てくるんじゃないかとは思いますが」

セレニカ：「博物館を拠点にしているようなら、それを陥とすまでです。私が許します」

ホープ：「うわあ、過激。一応、あそこはそれなりに重要文化財とか保管してあったはずなんですけど……まあ、王族の人に許可を貰ったんなら仕方ありませんね」

セレニカ：「こちらには伝説の勇者もいるのですから」(につこり) >美咲

セレニカ：「アルビオンが外敵の脅威に晒されているいま、国内の結束が乱れることがあつてはならないのです」(力説)

美咲：「あ、はい！ やれる限り精一杯頑張りますよー！」

セレニカ：「それでこそ勇者さま」(手を取る)

美咲：「ひっ！ あはは……お手柔らかに……」

ホープ：「おお、お姫様と勇者が手をつなぐ王道シーン！……どっちも女の子だけどたまにはゆりもいよいよね！」

GM：「ツツコミを入れるべきハリヤさんはおでかけ中」

GM：「そして政治的にちよつと凶暴になっている姫様であつた」

美咲：「《独裁者の横暴》」

ホープ：「政治的蛮族」

イヴ：「まあロンドンデニオンの王族だしw」

ガデス：ろんでにおん こわい

GM：ま、ホープは違和感を覚えますね。普段はこういう人ではない

ホープ：およ？

美咲：ほほう

イヴ：あー、なるほど

ガデス：お

ホープ：てつきり、温厚だけどやるときやややるぜみたいな性格だと思つてた

イヴ：プロミネンスかな？

ホープ：じゃあ、ロール方針ちよい変えよう

ホープ：「ん、んー。何かおっかしいな。此処まで強引な手を好む人でしたっけ」

セレニカ：（マインカンパのポーズ）

ホープ：どんなポーズだw

ホープ：つてドイツじゃねえか！

美咲：宇宙ーイイイイ!!!

GM：おっぱいふるんふるん

ホープ：「……とはいえ、流石に今日カチコミつて訳にはいかないでしょう。実際に口

ンデニオン博物館にカチコミとなつたら、政治的なあれこれもあるでしょうし」

ホープ：「明日潜入って事で、今日は一旦、お開きにしません？勿論、ネザードさん達には、私と仲間がついているから、さらわれる心配はありません」

セレニカ：「任せましょう」

ホープ：「ありがとうございます。それじゃあ、失礼します。美咲さん、行きましょ。明日のために英気を養わなくては！」

美咲：「はい！ 準備は万全に！」

GM：セレニカからカルマン討伐令が下る一方、ペテルセン会長もイヴにカルマン排除を命じますが、そのやりとりもやります？

イヴ：まあそれは省略しましょう。何かおかしいところありますか？

ガデス：会長さんまで過激派に……？

イヴ：いや元々やる時はやる人のような

GM：いえ、そちらはふつうに排除すべきを排除するように言うだけです

GM：ただの敵で、現場もよその国ですからね

ガデス：元からであつた

イヴ：うい

イヴ：では「了解っぽい」と通話を切るぐらいで。表向きにはロンデニオンの行動の影に隠れる感じで

ホープ：そもそもロンデニオン博物館にはバベルストーンもあつた気がするし。あんなもんがあるところに火がついたらいいよ世界終わりますぜ

GM：ではこのシーンは切つてミドル戦闘に行きますよ

イヴ：あ、食事を！

GM：あ、どうぞ

ガデス：あ、それでは私も食事を今のうちに

ホープ：あ、じゃあ私も飯食うかな……

イヴ：汁蕎麦＋エル・レオニエーニヤ 目標値12

イヴ：通信機起動して＋2

イヴ：2d6＋12

<BCDice：イヴ>：DiceBot : (2D6+12) ↓ 7 [6, 1] +

12 ↓ 19

イヴ：ホイ成功。ずるずる蕎麦食います。これで肉体が30に。

GM：ロンデニオン蕎麦

ガデス：天堂九星口訣歌をかけつつ蟹みそとウニのテリーヌを

ガデス：2d6＋5 目標12

5 ↓ 9
 <BCDice:ガデス>:DiceBot : (2D6+5) ↓ 4 [3, 1] +

ガデス：仕方なし、絵札一枚切って19にして成功で

ガデス：生まれ変わるほど強くなれる 蟹味噌！ 蟹味噌！

ホープ：ハッチポッチガンポ+朝焼けに目覚めで……すいません、朝焼けに目覚めつてどのサブリですっけ

イヴ：えーと、ジエネサファですな〜朝焼け

ホープ：どっちもか

イヴ：目標値は合計10ですね。

イヴ：ガンボが安い

ホープ：有難うございます。じゃあ判定をば

ホープ：2d6+5

+5 ↓ 16
 <BCDice:ホープ>:DiceBot : (2D6+5) ↓ 11 [5, 6]

ホープ：此処でこの目は要らなかつた。性交

ホープ：じゃねえよ、成功！

美咲：やだ……えっち……

イヴ：いやーん

ホープ：まさかこんな所で予測変換がクソるとは……

イヴ：皆さんコマを複製して行動値のスペースに置くと良いのです

ホープ：はい

ホープ：私の行動値は24です

ホープ：早い

美咲：私の行動値は5です

ガデス：実に五分の一かい

イヴ：行動値上がる食事の方が良かったかしらん

ガデス：私は9だからそこまでかわらぬマン

17 ミドルフェイズ11（戦闘）

ミドル11

GM：ロンデニオン博物館

GM：真夜中です

GM：とりあえず荒事をやっても影響は少ない

GM：カルマンもだいたい状況は掴んでいる

イヴ：ではカツーン、カツーンと歩いていこう

ホープ：「結局、あれから少し調べてみたけど、姫様の微妙な心変わりの正体はつかめなかったか……」一応調べたということにしておいてー

GM：はいよ

イヴ：「なにか気になることでもあったっぽい？」

ガデス：周囲に気を配りながら臨戦態勢

ホープ：「ん、いや、大した事ではないんですがね。セレニカさんって、あんなアグレッシブな方だったかなと」

ホープ：「何時もはもう少し、堅実な手を打つ人だった筈なんですが」

イヴ：「一番知ってるホープがそう思うんなら、何かあったかもっばい？」

美咲：「もしかして……」黒い炎のビジョンを思い出す

イヴ：「……美咲の夢が現実になる前に、何とかしなきゃっばい」

ガデス：「……ありえない話ではない。ダスクフレアの禍々しきは、心すら黒く染める」

ホープ：「そうなんですよねえ。多分、《心砕き》辺りなんでしょーけど」

ホープ：「でも、確信が持てないからなあ……今の所、従うしかないって感じですよ」

イヴ：「悪い予感はあるけれど、我々はとにかく全力で突っ走るしかないっばい」

イヴ：今のうちに戦闘用のコマをフィールドに置くといいっばい

イヴ：あ、美咲はキャラ詳細のHPとLPを自分の数字にしておくといいかな？

美咲：あ、おk

GM：館内を進んでいくと

カルマン：「閉館時間は過ぎているよ、お嬢さん方」

美咲：「え、ええと……その……」

イヴ：「こんばんはっばい、カルマンさん」

ガデス：「……ふむ、こ奴が」

ホープ：「残念ながら客として来たわけじゃないんですよ」

イヴ：美咲をそつとかばうような立ち位置に立ちます

美咲：他の人たちの後ろに隠れる

カルマン：「そのようだな」

イヴ：「とりあえず、あなたの言い分を聞くつばい」

ホープ：「そうですね。まさか、いまさらしらばつくれはしないでしよう?」

ホープ：「まあ、した所で結果は変わりませんが」

カルマン：「より高く買ってくれる取引相手を選んだまでだよ」>イヴ

イヴ：「社員にとっては高いか安いかは関係ないつばい」

イヴ：「社畜失格つばい」

美咲：「うわつ……ネフィリム黒つ……」

カルマン：「犬には犬の矜持があるとでも?」

カルマン：「残念ながら私にはそんなものはないのでね」

イヴ：「イヴは会長さんの忠犬つばい。同時に、獵犬であり、狂犬でもあるつばい」

イヴ：「にたあ、と齒を向いて笑う」

ホープ：「そうですね。この薄汚い豚野郎。貴方に猫の獣相はもつたいない」

カルマン：「おそろしいことだ。駆除が必要だな。そちらの不良メイドもな」

ホープ：「鼻を叩き潰して、貴方に似合いの獣相に変えてあげますよ!」

ガデス：「……貴様には、他にも聞きたいことがある。殺しはせぬが……少々聞き分けをよくなつてもらう」

美咲：「ええと、何て言えばいいのか私、わからないので……にやーん」

ガデス：「天峰殿……」溜息

ホープ：「美咲さん！無理しなくていいですから！大丈夫です、貴方はありのままの貴方でいいのです！」

イヴ：「美咲は美咲のまま、充分可愛いっぽい」

美咲：「えへへ、ありがと」

GM：百合トライアングル

イヴ：ヘリヤも入れてスクエアだ！

ガデス：異分子我

美咲：NPCもPCも容赦なくフラグを立てるたらし

イヴ：それはともかく

カルマン：「いい機会だ。君のおかげでふいになった計画の清算をさせてもらおう」>

ホープ

ホープ：「ふ、残念ながら、貴方の計画は最初っからプライスレスです！私が決めました！」

イヴ：敵の行動値はー？

GM：いま出しますね（コマを並べる）

イヴ：おやあ、いつの間にかカルマンの隣に何かいるぞ？w

美咲：偽セレニカさん

ガデス：と、恐竜…!!

美咲：ふむ……エンゲージの状況は？

GM：カルマンが指を鳴らすと、奥の部屋からセレニカっぽい人が出てきてカルマンの傍らに立つ

GM：陰気な表情でホープを睨みつけている

ホープ：「つてえ、貴方は！セレニカさん!?何でこんな所に!?!」

イヴ：「でも何だか様子がおかしいっぽい」

美咲：「ハッ！これはもしや『ダブルクロス、それは裏切りを意味する言葉』というやつでは!?!」

イヴ：「キュマイラならここにいるっぽい」

ガデス：「だぶる……?」なんかの暗号かなって思う

GM：なんで知ってんだよw

イヴ：美酒町だし……w

G M : そうだった。美酒町ならしかたない

美咲 : 美酒町なら仕方ないね

ホープ : 美酒町だとインフエリアを発見した誰かがこつそり世間にインフエリアの存在を周知しようとして書いたとか、そういうのありそう。ダブクロ

G M : カルマンのさっきのセリフでホープはピンとくる

G M : 例のセレニカ誘拐未遂事件はこいつの仕業だ。ホープのせいで失敗したが

ホープ : まさか、あの事件の黒幕も貴方だったとは……！しかし、ならば尚更、何故こんな所にセレニカさんが！

ガデス : 同郷っぽい何か

ガデス : 「気配が姫君のものにしては……いや、これは……？」訝しむ

カルマン : 「彼女がセレニカに成り代わるはずだったのだがね。君のおかげで出番がなくなってしまった」

ホープ : 「何だと……つまり彼女は偽セレニカさん……略してニセニカさん！」

偽セレニカ : 「ころす」

ガデス : 「合点がいった。クローン……いやさ、エラーハか？」

解説 : エラーハ

大星団テオスのテクノロジーとフレアによって作り出されたコピー。テオスは何人

もの英雄のエラーハを作成し、自軍の戦列に加えている。有名なものでは、オリジン随一の名君・神王エニア三世のエラーハ、神王エニア三世

イヴ：「なるほどっばい」

カルマン：（肩をすくめる）「たいして出来のいいエラーハではないようだがな」

ホープ：「ニセニカさん自我あるんですか!?まさか、エラー……何で先に言っちゃうんですか!？」

ガデス：「す、すまぬ……?」

ホープ：「ええい、謝るな! 憐れむな! 最早語る口なし!」

イヴ：「まあ、何でも良いっばい。要はどちらが正しいか拳で決めるだけっばい?」

ガデス：「ともあれ非道の法なれば、容赦は不要と見た」

ホープ：「ニセニカさんの処遇は後で決めるとして、取り敢えずカルカンマンジュウを倒しましょう!」

美咲：「合点!」

ホープ：にしても武王エニア好きとしてはニセニカさん生かしたい所

イヴ：「というところですかね」。

カルマン：「それではネフィリムにはお引き取りいただき、テオスをお迎えするとして、よう」

GM：恐竜の骨格標本も動き出すよ。楽しいミッドナイトミュージアム

GM：フアイツ

ガデス：ころしゆ

戦闘配置図

イヴ：セターアップ！（セフトアップありますかの意）

美咲：セフトアップじゃな？ 《神性顕現》

ホープ：へい、俺もセフトアップあります

GM：どうぞどうぞ

イヴ：そこが一番早い

ホープ：《帝釈人間砲弾》

ホープ：「行くぞ！メイド拳法が十七条が八十一条！『愛と友情のキャノンウーメン

！』

ホープ：「Flay away……！」屋根を突き破って上空に跳ぶ。そしてお星様に

GM：逝ったー!?

ガデス：☆彡

イヴ：「ホープ、おかしい人を亡くしたっぽい」

ホープ：飛行状態にはなるが移動はなし。終わりー

イヴ：恐ろしいスキルだ

ガデス：「……とりあえず、手は読めんな、あれは……」

イヴ：「最高に素敵なパーテイしまししょう？」《獣化》を宣言！

ガデス：私はセットアップなし

美咲：私の力……「心」の力があるのなら……！）ア●アンロッド2E RPGル

ルブック①（顕現器）を右手で強く掴む

イヴ：それだったのかw

ガデス：詳細にw

GM：あ、エンゲージ状況ね

GM：最初はPCは1つのエンゲージ

GM：テオス兵x2

GM：恐竜

GM：カルマン&偽セレニカ

GM：がそれぞれ1エンゲージ

イヴ：了解

美咲：把握

G M：恐竜かテオス兵を倒さないとカルマンたちにはエンゲージできない。ただし飛行なら飛び越えられる

G M：以上

イヴ：ちなみに、実はイヴは常時飛行状態です（「高速騎龍相当の身のこなし」の効果）

G M：敵はセツトアップ無し

G M：ホープからGO

漫画とかによくある解説コマ：——空中に飛翔したホープ。しかし、彼女はただ意味もなく上空に翔んだわけではない！

イヴ：wwww

G M：解説きた

イヴ：千葉繁さんのナレーションが聞こえる

漫画とかによくある解説コマ：“空を飛ぶ”ということとはッ！空という巨大なスペースを独占できるという事ッ！ホープの必殺技には、この巨大なスペースが必要不可欠なのだッ！

美咲：草

ホープ：「メイド拳法が八十二条……！『ちんちん電車をエロいと言えるのは小学生か

AVだけ』……!」

イヴ：「待って意味がわからない」

イヴ：思わず「ぼい」を忘れる

GM：イヴが素になるほどの威力

ガデス：「待て、いいから待て」

美咲：「ち……／＼／＼」

ガデス：「天峰殿……」肩ポン

漫画とかによくある解説コマ：フレアをかたどって作るは巨大な列車砲！この巨大列車を創出するために、彼女は巨大な空間を必要としていたのだ……!」

ガデス：フレアで造るのかよ

ホープ：よし、気が済んだ。というわけで、マイナーとメジャー使って帝釈列車砲打つぜ

カルマン：（ぼかーん）

美咲：こんな帝釈正拳あつてたまるか……そうかこういうのが帝釈正拳か

イヴ：目標は？

ホープ：対象は……どうするね？モブ先に殺す？

イヴ：でもいいよー。突き返せば死ぬからボスのエンゲージでもいいけど

美咲：モブが一番早く動くけど……

ホープ：うーん、いいや。此処はモブをお掃除しておこう（何か範囲持つてそうだし
ガレス：私は飛行できないからなあ……

ホープ：というわけで、範囲攻撃をモブにぶちこむよー

GM：よし、やめてくれ

美咲：やめるな

ホープ：2d6+21

<BCDice>:ホープ>:DiceBot : (2D6+21) ↓ 8 [2, 6]

+21 ↓ 29

ホープ：29の射撃値ー、回避でどうぞ

テオス兵 (モブ) : 2d6+8 回避

<BCDice>:テオス兵 (モブ) >:Chaos Flare : (2D6+8)

↓ 7 [3, 4] +8 ↓ 15

テオス兵 (モブ) : 2d6+8 回避

<BCDice>:テオス兵 (モブ) >:Chaos Flare : (2D6+8)

↓ 11 [5, 6] +8 ↓ 19

美咲：惜しい出目

GM : ダメージどうぞ

ホープ : 2d6+70

<BCDice:ホープ>:DiceBot : (2D6+46) ↓ 7 [2, 5]

+70 ↓ 77

ガデス : つよ

ホープ : 77点社会

GM : 列車砲で撃たれた人はどうなると思う？

ホープ : ミンチ

GM : おまえがやってるのはそういうことだぞ

イヴ : 「……うわあ、哀れっぽい」とモブに手を合わせる

カルマン : 「で、でたらめな……！」

ホープ : 「列車砲はブラスタより強し……ん、んー名言ですなこれは」

イヴ : 「そりや確かに強いっぽいけど」

美咲 : 「うわあ……うわあ……うわ、うわあ……」

ガデス : 「……天峰殿、あれはどうか参考になされぬよう」

ホープ : よし、ジョジョネタ使ったからこれはロンデニオンの演出として不自然では

ないな！

ホープ：終わりー

GM：イヴです

イヴ：モブは飛んだのでイヴのターンです、待機！

イヴ：くいつくいつ、と挑発するっぽい

GM：カルマン

カルマン：《深淵の博物学》

GM：オカルト知識による精神攻撃をしてきます

美咲：え!?クトウルフって酢漬けにすると美味しいの!?

ガデス：日本人特有のCoC攻略法やめて

イヴ：心魂値対抗かな？

GM：シーン1回のシーン対象攻撃。心魂値対決

イヴ：シーン攻撃、だと？

ホープ：ぐえー、シーン攻撃はやべえぜ。先に始末すべきはカルマンだったか

美咲：えろあいおすはさすがにはやいですよね

カルマン：2d6+15 心魂値

<BCDice:カルマン>:DiceBot : (2D6+15) ↓ 8 [3, 5]

+15 ↓ 23

GM：どうぞ

美咲：まあフレア切ればいける

ガデス：ふむ、とりあえずそれに《大いなる力》

ガデス：絵札分投げてー10

美咲：13目標か、こちらは自力で余裕そう

美咲：10スタート

イヴ：一番心魂低い人は《銀の守護者》するよー

ホープ：5スタート。実は心が弱い

イヴ：ガデスかな？ 確か今ー5されてる

GM：味方の仕掛けた罠により心魂値が下がっている

ガデス：今心魂3しかない

ホープ：こつちもフレア切ればほぼ確実

ホープ：ガデスさんやな>銀の守護者

イヴ：じゃあ《銀の守護者》でガデスをかばい、突き返し！

イヴ：《水波斬》＋《紅蓮の旗》！

ガデス：ありがとう……

イヴ：フレアをコストとして払い、心魂値対抗にも突き返し可能になる

イヴ：2d6+48

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+48) ↓ 6 [3, 3] +

48 ↓ 54

イヴ：54で突き返し成功

カルマン：「私の知識に対抗するといふのか、狂犬風情が！」

イヴ：「あはははは！ その程度の狂気、ぬるいっぼい！」

美咲：2d6+10 ぴんぞろいがい

<BCDice:美咲>:Chaos Flare : (2D6+10) ↓ 5 [2,

3]+10 ↓ 15

ホープ：2d6+5

<BCDice:ホープ>:DiceBot : (2D6+5) ↓ 9 [4, 5] +

5 ↓ 14

ホープ：お、フレア切らずに済んだな。良きかな

ガデス：「その知識とやら……少々、『破壊』しておいた」

ガデス：「……まあ、我的手など借りずとも十分であったようだが」

美咲：「そうそう！ 邪神って擬人化すると可愛いんですよ！」

ホープ：「え、何それ初耳」

イヴ：突き返しダメージ出しますねー

GM：ほーい

イヴ：7d6+180

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (7D6+180) ↓ 23 [3, 1, 4, 5, 5, 2, 3]+180 ↓ 203

ガデス：ふあつ

イヴ：邪炎属性203ダメージです

ホープ：そしてオマエそのダメージロールはどういう事だ

イヴ：ふへへ

GM：邪炎……

美咲：ギフト持ちだし……

ホープ：列車砲よりはるかにヤベーじゃねえか！

カルマン：「や、やめろ……」（頭を抱える）

GM：まだ生きてはいる

イヴ：いつの間にかその姿がかき消えたかと思うと、カルマンの背後から飛び蹴りをかます

イヴ：「あははー！」

カルマン：「ぐはーっ」

美咲：ルカリオの下必殺（ボソツ

GM：ガデスどうぞ

ガデス：カルマンさんをめておこうかな

ガデス：ついでに偽者も

美咲：シーン攻撃シナーっぽいけどどうだろ、まあでも巻き込めるならそれがいいかな

ガデス：マイナーで奥の二人に移動してエンゲージ

ガデス：メジャーで《なぎ払い》、HP2消費して二体に攻撃

ホープ：じゃあ判定前に《激励の一声》

ホープ：「そこです！ガデスさん！脳！脳を狙え！」

ホープ：判定+5

ガデス：「ありがた……脳とな」

ガデス：2d6+12+5 魔術

<BCDice>：ガデス：DiceBot：(2D6+12+5) ↓ 5 [3,

2]+12+5 ↓ 22

GM：脳が弱点の可能性が高い

ガデス：一応フレア投げておく

ホープ：念の為そつと祝福で+6

ガデス：9なげて、合わせて37になる

カルマン：「くつ、エラーハ、食い止める！少しは役に立てッ」

カルマン：2d6+12 回避

<BCDice:カルマン>:DiceBot : (2D6+12) ↓ 7 [5, 2]

+12 ↓ 19

偽セレニカ：「さわるな……！」

偽セレニカ：《虚ろな鏡》

ホープ：なんだっけそれ？

美咲：カオスフレアあるある 使わない特技の名前は覚えてられない

GM：オリジナルです

美咲：オリジナルかワレエ！

イヴ：ならしかたない

ホープ：オリジナル特技とな……許せる！

GM：わざわざデータ探して敵を組む労力に見合うほど、出来たバランスのゲームで

もあるまい

美咲：間違いない

ガデス：アツハイ

ホープ：それを言われるとぐうの音も出ない！

偽セレニカ：2d6+30 突き返し

<BCDice：偽セレニカ>：DiceBot：(2D6+30) ↓ 8 [5,

3]+30 ↓ 38

ガデス：させぬう！

ガデス：《大いなる力》いきますね

GM：どぞ

ガデス：絵札扱いしてマイナス10、28になつてもらう！

イヴ：「ガデス!」とピンチになりかけたところで叫ぶ

ガデス：「無用、哉」鎧が破壊されるが：「——この鎧は虚ろなれば、『破壊』に滞りなし：!」

ガデス：鎧ごと大きく周囲を消し飛ばして、少々離れたところで鎧を再構成

偽セレニカ：「ちからがでない：」

カルマン：「役立たずめ：」

GM：両方くりました

イヴ：ホープさんのダメージブーストは？

ホープ：おっと

ガデス：あ、何かしらブーストあるならいただきたく

ホープ：《剣助の支え》。ダメージ+16です。そろそろフレア代償がキツくなってきたな……

ガデス：ありがたき。ダメージ行きます

ガデス：5d6+58+16 魔術

<BCDice：ガデス>：DiceBot : (5D6+58+16) ↓ 14

[5, 4, 1, 2, 2] +58+16 ↓ 88

GM：どちらもまだ倒れない

イヴ：お、意外と粘る

ホープ：流石にまだ倒れないか。ミドルボスだもんなあ

美咲：「す、すごい……これが『かおすふれあ』の戦い……」

ホープ：「ふつ、そう。これが我々の戦いなのです……!」

ガデス：「……貴公のやり方と一緒にされるのも、何か腑に落ちぬが」

GM：わかる

ホープ：「えー!?フレアを有効に使ってるし、ある意味この中で一番カオスフレアらし

「戦い方してますよ!?!」

GM:次はニセニカ

イヴ:何してくるか

偽セレニカ:「なおす」

偽セレニカ:《癒しの月光》

美咲:回復!?!

ホープ:「なおす!?!」

偽セレニカ:単体のHPを100回復>カルマン

ガデス:めんどくさい…!

GM:回復と突き返ししかできない

ガデス:盾ヒーラーだと…!?!

GM:では真打どうぞ

イヴ:恐竜のあとまで待機してほしい!

美咲:ふむ、拙者単体攻撃しかできんマン

美咲:イヴの突き返し見てからでもよいな、待機

骨格標本:がおー。

美咲:「ほ、骨!?!」

骨格標本：マイナーで接敵、メジャーで《大暴れ》

イヴ：範囲攻撃かな？

GM：範囲です

骨格標本：2d6+25 白兵

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+25) ↓ 11 [6,

5]+25 ↓ 36

美咲：出目高いなあ

イヴ：《きらめきの壁》！ 範囲攻撃を単体に。

ホープ：きらめいたかー……

イヴ：フレア払ってこっちに引き寄せる。

イヴ：「美咲はイヴを守る！」

ホープ：「私は!？」

イヴ：《水波斬》！

美咲：「イヴさん……!」

ホープ：「大丈夫ですよ、美咲さん。こと、守る事において、光翼騎士は無敵です」

イヴ：2d6+43

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+43) ↓ 5 [4, 1] +

43 ↓ 48

イヴ：「テイルスイングを無造作にがっしと受け止め、そのまま投げ飛ばす！」

イヴ：7d6+180

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (7D6+180) ↓ 29 [4, 4,
3, 5, 4, 4, 5]+180 ↓ 209

骨格標本：(びゅーん)

ガデス：「だからダメージ」

ホープ：「……あの方の場合、攻守ともに無敵っぽいですが」

イヴ：「邪炎209ダメージ」

イヴ：「ぼーい！」

GM：バラツバラ

GM：貴重な標本が……

美咲：「あれ？骨は(・ω・)？」

ホープ：「あー……後で見つかるんですかねえ。結構人気なんですけど、アレ」

ガデス：「貴様らの攻撃より、イヴ殿の流れ弾のほうが脅威よ……」飛んでくる破片を

軽々叩き落としつつ

イヴ：「これで障害は無くなったっぽい！」

カルマン：「なんだあの化物は……！」

GM：待機組。美咲から

ガデス：「……して、手勢も尽きるが……？」カルマンににじり寄る

美咲：ニセレニカでええな？

イヴ：うい

ホープ：ええよん。ニセニカさん倒さんとどうしようもないし

ガデス：たおせー

美咲：マイナー：《アイデア：逃避》で移動しつつ火力を上げるよ　ニセレニカsとエン
ゲージ

美咲：メジャー《アイデア：喪失》でニセレニカぶん殴る

カルマン：「なんだ？いまの動きは」

イヴ：アヴァタールきた！

美咲：逃避の代償はスピードの3で

美咲：（すごい力の流れ……なのに何で……）“見え”るんだろう？

アヴァタール：『我は汝……汝は我……』

美咲：（声……？どこから……？）いや、違う。私の“心”から……！

美咲：「そっか、私の絶対武器。それは！」文庫本を高く掲げ

美咲：「心」なんだ！ 顕現せよ！アヴァタール！」

イヴ：アヴァタールきた！これで勝つる！

ホープ：「あれが……アヴァタール!？」

アヴァタール：天使の姿が顕現する。その手には夢の中で見た剣が

イヴ：「美咲、きれい……」

偽セレニカ：「……天使?」

ガデス：「これは……!」

カルマン：「あれは、まさか……」

ホープ：「あれが、形持たぬ剣……アヴァタール……!」

美咲：「お姫様の偽者、アレをどうにかしないことにはジリ貧。そうなんだね?」

ホープ：「はい、やっちゃってください!美咲さん!」

美咲：2d6+5+5 だがラファエルが乗らないので素の達成値は貧相

<BCDice:美咲>:Chaos Flare : (2D6+5+5) ↓ 8

[5, 3] +5+5 ↓ 18

美咲：絵札切ります 28

ホープ：アヴァタールのご祝儀だ。こっちもA持っていけ!

美咲：48じゃ!

偽セレニカ：《虚ろな鏡》

偽セレニカ：2d6+30 突き返し

<BCDice：偽セレニカ>：DiceBot：(2D6+30) ↓ 5 [2, 3]+30 ↓ 35

ガデス：大いなる・・・いらなかった

美咲：よし

偽セレニカ：「とめられない！」

美咲：料理効果込みで差分20

ガデス：「……」 圧倒的な気配を感じ、とつさに飛びのく

美咲：4d6+129+20 【根源】ダメージ

<BCDice：美咲>：Chaos Flare：(4D6+129+20)
↓ 19 [5, 6, 5, 3]+129+20 ↓ 168

美咲：「まやかしを切り裂け！真実を切り開け！その剣で！」

偽セレニカ：「ああ」

偽セレニカ：「きれい……」

GM：偽物は倒れた

アヴァアタル：光を纏った剣でニセレニカを両断

美咲：「こ、これが……私の、力……？」

イヴ：「美咲、やったっばい！」

美咲：などとDパス：真の力への恐怖の演出したり

ホープ：「やりましたね！美咲さん！みさき……さん……？」

美咲：「私が、やったんだよね……？これを……」

美咲：アヴァタールが派手に切り裂いた床を見て慄く

ガデス：「……成程。伝説となるも領ける」汗を流すことができたなら流していただろう、攻撃の跡を見ても

ホープ：「……そうです。それが、貴方の力です」

美咲：「勇者……かあ……」

イヴ：では残ったカルマンを攻撃しますね。

美咲：このセッションでやりたかったことの8割やった

カルマン：「くそつ、くそつ！こんなはずでは……」

イヴ：マイナー直前に高速騎龍の効果で移動。ドラゴンボール並みの速さで接敵！

ホープ：「(やばい、今隙を晒してはっ！) イヴさん、カルマンにトドメを！」

イヴ：びしゅん！

イヴ：マイナーで通信機起動して+2、そしてフレア払って《キャンセル技》！

イヴ：オープニングで手に入れた力だ！

GM：あれかw

イヴ：そしてメジャーで素殴り

イヴ：2d6+45

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+45) ↓ 7 [4, 3] +

45 ↓ 52

カルマン：2d6+12 回避

<BCDice:カルマン>:DiceBot : (2D6+12) ↓ 6 [3, 3]

+12 ↓ 18

美咲：メジャー素殴りとかいう《あらがいの手》殺し

イヴ：7d6+180

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (7D6+180) ↓ 26 [1, 6,

6, 5, 3, 1, 4] +180 ↓ 206

ガデス：南無い

ホープ：祝福入れようかと思ったが、そんな必要はなかった。一応剣助は入れておこ

う

イヴ：206点！

GM：さらばカルマン

ホープ：追加16

イヴ：おつと、222点!

GM：制圧完了

イヴ：「どこに行っても己の業はついて回るっばい。今は大人しく、裁きを受けるっばい!」

イヴ：ごしやあ!

カルマン：「ぐべらー」

イヴ：美咲に気を取られたところをぶん殴る

イヴ：制圧!

ホープ：「う わ あ」恐らくとんでもないことになってるカルマンさんの殴打された部位を見て引いてる

イヴ：殺してはいない

ガレス：「…何も言うまい」配下を回収している

アヴァタール：役目を終えるとスウッと姿を消す

美咲：「これが、私の力……」

イヴ：というところで終了ですかね

G M：戦闘は終了です

ガデス：時間的にもおおむねな感じ？

G M：もう少し進めておきましょう

イヴ：おっ

美咲：おk

ホープ：「……」一応、ニセニカさん見るけど、まあ多分死んどるよね

G M：両断したって言ってたけど

イヴ：言ってたw

ガデス：昇天的なやつ？

美咲：岩山両斬破的なこう

G M：ルールのには別に生きててもかまいませんが

G M：斬った人が両断と言っている

美咲：上から下に一直線にズバっといきました位の意味合い

イヴ：両断（仮）

ガデス：邪念を断ち切ったんですよ

イヴ：きれいな偽ニカに！

G M：心を斬る剣だ

ガデス：肉体へのダメージは…ない！とかすれば

美咲：HPOは死亡じゃなくて戦闘不能ってそれ

ホープ：うん、いちおうそれによって微妙にホープのロールが変わるので

ホープ：どんな感じなのかなーと

美咲：んー面白そうなほうで

ホープ：また微妙な回答をなさる……！

GM：生かしましょうか

ホープ：OK

美咲：了解

GM：気を失って倒れてる。どこか穏やかな表情だ

ホープ：「袈裟斬りになった筈なんです……傷一つありません。心音も……大丈夫」

美咲：「あ、れ？床はこんなことになってるのに……」

イヴ：「一応拘束するっばい？」

ホープ：「そうですね。少なくともやらん訳にはいかないでしょう。特に、今のニセデナイニカさんは、物騒な方向に思考が傾いてますし」

GM：ニセデナイニカ

イヴ：「了解、ぼいぼーい」

ホープ：「下手な刺激を与えないという意味では、拘束して、どっかに留置しておくのが本人のためでもあるかと」

美咲：「う、うん！私もそれでいいと思うよ」

ガデス：「…成程」

ホープ：「ん、何が成程なんです？」ガデスさんに

ガデス：「…いや、何」

ガデス：「『破壊剣』たる我なぞ、やはり鈍らよな、とな」

ホープ：「…：…：良く解りませんが、壊すのもそれはそれで立派な仕事だと思えますよ？」

再生の後には破壊有りつてそれ一番言われてますから」

ガデス：「フ…」ちよつとうれしそうに笑いつつ

ガデス：「壊さぬことこそ最も難しい物：天峰殿、ゆめゆめ己が力を疑うことなきよう」

美咲：「は、はい！正しく使えるよう頑張ります！」

イヴ：「何でも良いっぼい！ 美咲、やったっぼい！」抱きつきー

美咲：「イ、イヴさん!? はい、やりましたよ！」

美咲：「これもイヴさんが守ってくれたおかげです！」

イヴ：「えへへ〜！」

ガデス：博物館の片づけに取り掛かる

ホープ：おっと、私も手伝いますよ。一応此処のファンですからね、私」というわけ
で、博物館の片づけのお手伝い

イヴ：というぐらいでシーン切ります？ 何かありますかね？

ホープ：ナイアルヨ！

美咲：ナツシング

ガデス：此方大丈夫ですー（剣っぽいこと言えたし

GM：お片づけをしてこのシーンは終了。…なのですが、最後に少しだけやって、シー
ン終了処理をして今日は終わりにしたいと思います

ホープ：ほう？

18 ミドルフェイズ12

ミドル12

GM：数日後

GM：皆さんはネザードの研究室に呼ばれています

美咲：私やつぱり勇者だったんですよって顔してる

ホープ：ほう、このホープを呼び出すほどの緊急事態という事か……

ホープ：研究室が壊れてもいいという意味の表れと見た

GM：ホープを呼ぶと緊急事態になる

イヴ：で？

ネザード：「皆さんのおかげで助かりました。エミリーさんも。ありがとう」

ホープ：「なあに、大した事はしてません。いや、本当に大した事してないんですけどね。私結局雑魚蹴散らして終わりましたし……」

イヴ：「これでネザードさんが心置きなくネフィリムに来てくれると嬉しいっぽいけど」

ネザード：「でも今日集まっていたいたいたのは、お礼を言うためだけではないんです」

ホープ：「はえ？」

イヴ：「？」

美咲：「あわわわわ……」

ネザード：「カイノスタールの正体がわかったのです」

イヴ：「な、なんだってー」

ガデス：「……ふむ」身を乗り出す

美咲：「一体何だったんですか!？」

ネザード：「皆さんが調べたことをもとに確かめました」

ネザード：「あれは、地下で発見された巨竜の死骸から採取した血液です」

ホープ：「ふむ」

イヴ：「そんな話なんだろうとは思ったけど、それで？　もしかしてその巨竜が蘇生したとか？」

美咲：「地下……巨竜!？」

ガデス：「竜……」

ネザード：「というよりも、竜は完全に死んではいないようです」

イヴ：「ええ？」

ガデス：「……となると、黄泉がえりとも異なる……もはや？」

ネザード：「そしてその血、カイノスタールは我々の科学の手に負えるようなものでは……」

ホープ：「……まさか、これ、アレですか。テオスで今大流行の……」

ホープ：「龍血「キナバリス」……!」

イヴ：「……」拳を握りしめる。自分にも組み込まれているので

美咲：「龍血……?」

イヴ：「かくかくしかじかかほーい」

ホープ：「最悪の……最悪のクソツタレ薬物ですよ。使ったが最後、強大な力を得る代わりに、何時かそいつは化物に成り果てる」

美咲：「レネゲイドウイルス……?」

GM：「ダイタイアッテル」

美咲：「なおPLは知ってて言ってる」

ホープ：「だとしたら、巨大なエネルギーを持っているのは当然です。アレはダスクフレアの血液ですからね……。無限のエネルギーと言っている」

ガレス：「……で、あるとして。その影響によつて民草が乱心しているとなればことは一刻を争うが」

ネザード：「この研究は放棄するべきだ。僕はそうセレニカ姫に進言したのですが」

……」

ホープ：「……まさか、却下されたと？」

ネザード：「はい……。それならば国を守る大きな力になると……」

イヴ：「これはもうダメかもわからんっばい」皮肉げに言う

ホープ：「……流石にこれはもう、断定黒、ですな」

美咲：「私が見たあの光景、あれってまさか……」

ガデス：「……合点がいった。乱心していたのは民草だけでは無し、と」

ガデス：「であれば、ここまで民草の乱心が拡大したのもうなずける……」

ネザード：「その乱心なんですが」

イヴ：「まだ続いてるっばい？」

ネザード：「いま起きている暴力事件、あれは薬物によるものだそうですね？」

ガデス：「うむ、我はもともとその原因を根絶に動いている」

ネザード：「そのサンプルを抽出したとか」

ガデス：「持っていて渡しちやっついていい？」

ホープ：「……っつてえ、ちよつと待ってください。まさかですよ。まさかだとは思いま

すが……」

美咲：「まさかその薬物って……」

ネザード：「見せてください」

GM：ガデスは持つてます

ガデス：じゃあ渡そう

ネザード：「やはり、同じだ……」

ガデス：「……やはり、か。当たってほしくはない予想であつたが」重く

ホープ：「オイオイオイオイ!?マジか、マジなんですか、マジなんですわね!」

美咲：「ええ!? いや何となく想像はついてましたけど!!」

ネザード：「セレニカ姫にも投与されているのか……」

ホープ：「もうこれは新エネルギーがどうか、そういう問題じゃあないですよ!セレニカ姫がどうかかって問題ですら無い!こんだけたくさんの龍血保持者「ホロス」が居るなら……」

ホープ：「いつ何時、世界が滅んでも、おかしくない!」

イヴ：「ホープ、落ち着くつぽい」

イヴ：「デコピン!」

ホープ：「ぐわーっ!す、すいません、取り乱しました」

イヴ：「……問題は、これを誰が広めているか、つてことつぽい。薬が独り歩きするわけでもないっぽい」

イヴ：「となると犯人像は限られてくるっぼい……」

GM：「なお公式の龍血とイコールではないです」

ガデス：「似て非なるもの的な」

美咲：「多分レネゲイドとインフエリアくらい違う」

イヴ：「だいたいおなじだ！」

GM：「効果は永続的ではないけれども、凶暴化して暴れた分だけフレアが竜のところへ行く」

美咲：「お姫様もそれにやられてるんだとしたら……お姫様に近づける人物……？」

ガデス：「姫君を懐柔さえすればあとは容易かろう。なれど、まずはその一手を打てる者……」

イヴ：「ホープ、心当たりはあるっぼい？ 一番宮廷に詳しいと思うけど」

ホープ：「……心当たり、っていうか。消去法でこの人しか居ないってのなら……」

イヴ：「それは……？」

ガデス：「あ……」

ホープ：「勿論、あくまで第一の容疑者ですけど……セレニカさんに、直接薬物を投与できる人物って言ったら……お側付きのメイドぐらいなもんです」

美咲：「……！ もしかして！」

ホープ：「だとしたら、その犯人は……私自身か、もしくは」

ホープ：「ヘリヤさんしかない……！」

GM：よし、ホープを拘束しろ

イヴ：がしっ！

ガデス：がしっ！

美咲：ぺちん

ホープ：ホープはカオスフレアだろお!?

美咲：カオスフレアは対ダスクフレア能力者であって善良とは限らん

ホープ：くっ、ぐうの音もでないっ！確かにホープはカオスフレアだが善良かと言われると……！

イヴ：ww

ガデス：流れでわらう

GM：これがチームワークか

ホープ：チームワークの結果チームから一人追い出されているのですが!?

イヴ：まあ、このあたりでシーン切ります？

GM：そうですね。こんな感じで次回クライマックスに向かいます

イヴ：うい！

ホープ：うい！
GM：お疲れさまでした！

19 ミドルフェイズ13

ミドル13

GM：こんばんは

イヴ：こんばんはー

美咲：こんばんは、明日回すシナリオがまだ出来ていない者です

GM：僕の前にシナリオはない。僕の後ろにシナリオはできる

ホープ：アドリブじゃねーか！

美咲：ジツサイ情報収集項目とエネミーデータ造って途中からアドリブになる可能性も大、まあ頭の中にはできてるから（震え声）

イヴ：前回のシーン終了処理が終わってないところでしたっけ？

GM：終了処理までいってないですね

イヴ：ホープには捨てるフレアを《奉仕の達人》のコストにしてもらいたいところですが、タイミングを逃した感ありますね。

ホープ：あ、しまった使い忘れてた

美咲：ww

イヴ：あるあるですな

ホープ：RPに夢中だとさあ！どうしてもさあ！

ホープ：《八面六臂》取るか悩んでたけど、やっぱり取るべきだったなあ……

イヴ：画面の上に付箋で「奉仕の心を忘れるな」と書いておくとか

ホープ：成程。じゃあ偉大なる「あの方々」への奉仕を忘れるべからずと……

GM：メイドは奉仕種族

イヴ：いあいあ

美咲：テケリ・リ！

GM：いーあいあ、いーあいあ、おさーるさーんだよー

イヴ：「アイアイ」だそれはッ！

GM：おさるさんじゃなくて、おさかなさんでしたね

イヴ：まあ、そう、なるのか……？

イヴ：あ、そういうえば次クライマックスですよ？ GMフレアは何枚たまりました

？

GM：数えきれない

ホープ：わお

イヴ：手札10枚になるの忘れてたなー……

イヴ：白南天さんは間に合いますかのう……

イヴ：あ、いる？

ガデス：はい、ぎりぎりです。申し訳ないです

GM：こんばんはー

ガデス：（こんばんわ

イヴ：こんばんはー

ホープ：こんばんはー！

イヴ：8時だよ！全員集合！

GM：声が小さい

GM：前回は犯人のホープが拘束されたところだったかな？

イヴ：これから拘置所でカツ丼タイムですね

ホープ：それでも私はやってない

GM：地球は回っている

ホープ：クライマックス戦闘留置所の中でやるの???

GM：取調バトル

ホープ：事実上こつちが一方的にサンドバックされるやつじゃねえか！w

イヴ：自供するまでひたすら精神攻撃

美咲：なんだ、ただの心魂値対決特技か、はい《※魔法のプリンセス》

イヴ：特技の効果は無効化された！

ホープ：やったぜ

イヴ：さて、とりあえずクライマックスの導入はどこから始めるとしますか

美咲：あ、クライマックスに入る前にDパス解禁用に短めのシーン欲しいです

イヴ：ああ、必要ですね

ホープ：成程確かに欲しいですね。

GM：OK

イヴ：じゃあ手札は7枚になりますねー

ホープ：ホープはDパス取ってないから要らないけど

ホープ：後、一度美咲さんときちんと話すシーンが欲しい

ホープ：(時間の都合で無理そうなら大丈夫です)

GM：Dパス解禁シーンはどんな感じに？

美咲：「真の力への恐怖」を、こう、力のある人から諭されたい

ホープ：ほむ。

イヴ：列車砲を背景にホープが諭す感じか

イヴ：ザ・武力！

美咲：力こそ正義……いい時代になったものよ

ホープ：武力と言うより威力w確かにそうなるけどシリアスになりきれなさすぎだろ
！w

美咲：それはそれでさ、恐怖は拭えるからいいんじゃないかと

イヴ：良いのかw

ホープ：まあ確かに考えるの馬鹿らしくはなるw

GM：そのシーンでホープとも話したらいいんじゃないでしょうか
ホープ：うむ。美咲さんが良ければそれで

GM：それでは始めましょう

美咲：はい

ホープ：はい、よろしくおねがいます！

GM：よろしくおねがいます

イヴ：よろしくおねがいます

ガデス：よろしくおねがいます！

美咲：よろしくおねがいます

GM：ネザードの説明を聞いて犯人に思い当たったところですね

イヴ：とりあえず最初はいいないほうが良いかな？ イヴ&ガデス

ホープ：ですわね

ガデス：はいはい、様子見ておきます

GM：先に状況をまとめちゃいませうかね

美咲：お願いしますな

GM：ネザードの話を聞き、ヘリヤを探した君たちだったが、離宮の中に彼女の姿はない

GM：どうやら、ロンデニオンの郊外にあるザ・タワーに向かったようだ

イヴ：なるほど

GM：ザ・タワーは地下世界と地上のロンデニオンを結ぶ連絡路だ

GM：という状況で、美咲とホープの会話かな

ホープ：「あちゃあ……地上に出る気ですか……」

GM：逆

ホープ：あ、そうか今地上か

GM：ロンデニオンの都は地上にある

美咲：あれか、埋まってるものを掘りに行くんか？

ホープ：そんな感じなのかなあ

ホープ：所で、美咲さん、具体的にどんなシーンが良いとありますか？

美咲：ふーむ、どんなシーンか

美咲：どうやったたらそんな強くいられるんですかー？ 的なことを

美咲：適当なタイミングで尋ねさせてもらいたい

ホープ：成程

GM：へりやを追ってタワーに向かう途中、車の中とかはどう？

ホープ：良いですな。多分二人一組で乗ってるんでしょう。ガデスさんでかいし

美咲：確かに。ガデスさんでかいし

イヴ：ロンデニオンの車小さそうだしね

GM：トランクに入るかも

ガデス：剣状態でトランクにでも入れておいてください（震え）

美咲：そうかそっちが本体だった

ホープ：そういえばそうだった。

イヴ：じゃあイヴは家々の屋根を飛び移りながら移動してる

美咲：ヒューッ

イヴ：実際データ的には乗り物に乗ってるし……w

ホープ：じゃあ、イヴさんがガデスさん入りトランクケースを持って移動って感じか

ガデス：なるほど：別に鞆はあるからトランクに入れなくてもまあ

イヴ：じゃあとりあえず背負ってます

GM：場面は決まったので、会話をどうぞ

ホープ：はい！

美咲：じゃあこちらからいいでせうか

ホープ：どうぞー

美咲：「そういえばホープさん、失礼でなければ一つお聞きしたいことが」

ホープ：じゃあ食べていた演出ポテトチップスを食べる手を止めて飲み込み、「へい、何でしょ。スリーサイズは美咲さんと言えどそう簡単にやあ開かせませんが」

イヴ：ホープが運転してるとばかり思ってたのにw

美咲：「いやいや、そんな酔っ払ったオッサンじゃないんですから」

ホープ：ちなみにヘリヤさんは……やめておきましょう。人にはそれぞれ、背負っている悲しみというものがあるものです……」

ホープ：「して、なんです？」

美咲：「その、ホープさんっていつから戦い始めてるんですか？それに、怖くないんですか？」

美咲：「——戦うことが」

ホープ：「え、ふつつつうに怖いですよ？」

美咲：「へ？」

ホープ：「つていうか、常識的に考えて、銃とか剣とか、後良くわからない魔法とか、怖がらない方がおかしいですし」

美咲：「そ、そりやそうですよねー……よかつたあ、私だけじゃなかつたんだ」

ホープ：「はい。ただ、私の場合、戦わざるを得なかつたんですよねー。父親がロクでもない奴で、そいつから逃げ出した所、妙なのに目を付けられました」

美咲：「やむを得ず、ですか……なんだか親近感を感じちゃいます」

美咲：「正直列車砲で移動したり変な人だと思つてたんですけど」ボソツ

イヴ：「うんw」

ホープ：「おう、痛い所つくのやめーや。……ただ、美咲さんの場合、私とはちよつと違ふと思ひますよ？」

ホープ：「だつて、美咲さんは今ここからでも、逃げ出して良いんですから。あ、これは皮肉とかじゃなくて、マジで言つてます」

美咲：「逃げ……」

美咲：「でも、私が逃げたら……」

ホープ：「貴方が逃げたら私がどうにかしますよ。イヴさんもどうにかするし、ガデス

さんもどうにかします」

美咲：「でも、ホープさん今言いましたよね!? 怖いって、戦うのが」

美咲：「それなのに、どうして……立ち向かえるんですか?」

ホープ：「まあ、大体やむを得ずなんです、そうですね、今回に限っては、貴方が傷ついた方がよっぽど怖いから、ですかね」

美咲：「私が……?」

ホープ：「まあ、何というか。地球人って、結構物語の主人公になるんですよ。フォーリナーって言うってね。んで、私が人生最悪の時に、そういうお話を讀んだんです」

ホープ：「だから、結構貴方と会った時、テンション上ってたりもしましたんですよ? 物語の上になにか居ない勇者様が、実際に居たんですから。まあ、実際の”勇者様”は、想像よりもずっと弱かったんですが」

美咲：「ははは、まあ実際頼りないですから」

ホープ：「でも、だからこそ、嫌だな、って思いました」

ホープ：「こんなか弱い人が、この世界の良いところを全く知らずに死ぬのは嫌だ。この世界は正直碌でもないけど、それでも美しい所は一杯あるのに、それを知らずに戦いの中で死ぬのは嫌だ」

美咲：「だったらい!」

美咲：「私はなおさら逃げられません！ この世界が美しいって言うなら、ここに来た私もそうでありたい！」

美咲：「私には戦える力があつて、それを求めてる人がいて、それを見放して逃げて見る世界はきつと美しくない」

ホープ：「……貴方は、本当に“勇者様”なんですねえ」

美咲：「もしかしたら、私も“物語”にあこがれてるだけの“勇者様気取り”かもしれないなって」

美咲：「でもね、それで本当に誰かを救えたなら、“本当の勇者様”になれるかもしれない」

美咲：「そうして胸を張って見た世界はきつと、今よりもっと美しく見えると思うな」
美咲：「ひよつとしたら、この力を上手く使えないで誰かを傷つけちゃうかもしれない。でも、やれることをやらないで目を背けることだけはしたくないんだ」

ホープ：「……そうですか」

ホープ：「あー、良かったあ！ 此処でもし『じゃあ逃げます』って言われたら、正直どうしようかと思つた!!!」

美咲：「あー!!ズルいですよ!!」

ホープ：「聖戦士って正直替えが利かないから、今から探すのすつげえ大変なんですよ」

「いやあ、危うく世界滅ぼした戦犯になるところでした!」

GM : おまえ……

ガデス : こやつ……

美咲 : 「ふふつ、あはは!! ホープさんってやつぱり変な人ですね」

ホープ : 「勿論、私は天下無敵のギャグキャラですからね!」

美咲 : 「なんだか、不安な気持ちも吹き飛びました。ありがとうございます」

GM : 会話としてはこんなところかな?

ホープ : 「いえいえ。それじゃあ、ヘリヤさんの顔面パンチして、事件解決と参りましょう!」

イヴ : じゃあいい感じにまとまったところで、ガデスと一緒に登場良いですかね?

ホープ : うい。余は満足じゃ

美咲 : こちらは構いませんぬ

GM : どうぞー

イヴ : 車はオープンカーでしょうか

美咲 : そういうことにしていいいんじゃないかな

ホープ : うむ

イヴ : では「ぼーい!」と建物から車に飛び移り、ホープの膝の上にすごい勢いで座

る

ガデス：膝

イヴ：あ、ガデスは背負ってます

美咲：顔面ヒットするのでは？

ホープ：「おぐあっ!?!」

美咲：「うわっ！イヴさん！」

イヴ：「あ、ホープ、いたっぽい？」

ホープ：ガデスさんが頭頂部に直撃した上でイヴさんの荷重が一気に膝に来た

ガデス：「……………」「なんかちよつと痛みをこらえるよううめきが一瞬間こえた

イヴ：二段攻撃！

ホープ：おまけにイヴさんの背中で何も見えない

GM：完璧なフィニッシュホールドだ

ホープ：「あ、脚と頭に攻撃!?!しかも何も見えない！美咲さん、敵の攻撃です、逃げてっ

……………」

美咲：「いやいやいや！イヴさん！イヴさんですよ！」

イヴ：「ホープ、意外とクツションあるっぽい？ ふかふかー」

ガデス：「貴公…………我を背負っているのを忘れては…………」剣のまま

ホープ：「イヴさんこの野……郎じゃないけど！人の膝に建物の上から乗っちゃいけないって教わらなかつたんですか！教わってないですよねでも今度から気をつけましょう！」

イヴ：「覚えてたら気をつけるっばい？」

ホープ：「うわーん、絶対覚えてないやつだ！それはそれとして私胸はないはずなのにクツションということは……脂肪!?脂肪なのか?!確かにロンデニオンに来てからケーキの消費量が増えていた……！」

イヴ：あ、これは《奉仕の達人》と見てよろしいでしょうか?ふかふか

ホープ：GMが良ければそうしたいです！

GM：OK！

美咲：「そもそもこんな状況になることってこっちの世界では珍しくなかつたりするんですか!？」

ホープ：「今まさに人類初ですよ！多分！」

ホープ：じゃあガデスさんえーと、何増やしましょうか

ホープ：無難に白兵？

ガデス：魔術……は増やしたからもう駄目なんでしょう？

イヴ：戦闘能力値だけですなー

ガデス：じゃあ白兵でお願いできれば

イヴ：基本能力増やせたらチート技になってしまう……w

ホープ：了解。白兵＋5

美咲：相当悪用できてしまう

ガデス：ありがたくありがたく

ホープ：フォーリナーの根源をおもむろに＋5するだけで結構な外道に

美咲：一般人の根源＋5（ボソツ

ホープ：ヒイツ

GM：能力値＋5ということはダメージ＋50とかだったりするからな

美咲：紋章バツクラ持ち一般人による《※運だけはいいんだ》とかいう最凶リアク

ション

ガデス：あかんね、あかん

イヴ：当たらないやつだこれ

イヴ：おっと、ホープさんコスト5枚を忘れてた

ホープ：おっと忘れてた

ホープ：OK

イヴ：イヴにも頂けますー？

ホープ：1シーンで二回やっても大丈夫です？ GM

イヴ：コストが激重なだけで回数制限はないですな

GM：どうぞどうぞ

ホープ：ではイヴさんにも。

ガデス：決戦前にはうってつけ

イヴ：あざまーす。白兵＋5でー

ホープ：よしよし。

ホープ：じゃあ、これで終わりかな？

イヴ：では、「おっと、ザ・タワー」が見えてきたっぽい？」と彼方を指さします

美咲：「あつちにヘリヤさんが……！」

ホープ：「行きましよう！ いざ決戦のバトルフィールドへ！」

GM：では

GM：前方に見えてきたザ・タワーが、一瞬ぐらりと揺れた

イヴ：「ぽい？」

ガデス：「……む!？」

ホープ：「えっ？」

美咲：「あれ？」

GM：タワー基部の壁の一面が内側から吹き飛ぶ

GM：そして巨大な影が地下から這い出して来る

イヴ：飛んでくる瓦礫を拳で粉碎しつつ「うわ、でかいっほい！」と叫ぶ。

イヴ：つてかほんとでか！（編者注：画面を覆うサイズの敵グラフィックが登場）

美咲：もしかして夢で見たアレ？

GM：アレ

美咲：「あ、あ……アレって！」

美咲：「やっと会えた……？ううん、ついに会っちゃった」

GM：夢で見たより若干鮮度が落ちております

イヴ：ゾンビィ……

ガデス：「見覚えが？」 鎧姿を形成

イヴ：あつ、それホープが死ぬ 鎧姿

美咲：「夢じゃないんだ、あの時みたいに」

ホープ：「ムグー、ムグー！」 膨らんだガデスに声もあげられずに押しつぶされている

ガデス：どく

美咲：「あああ！ガデスさん！ホープさんが！」

ガデス：（車体の後ろの方に立つ）

ホープ：「ふう、戦闘前に死ぬかと思いましたが……さておき！」

ホープ：「夢の中からご足労願いまして早々ですが、さっさとお帰りいただきましょう！ ついでにヘリヤさん返せ！」

GM：巨竜アベルカイン。その頭部に下半身が埋もれる感じでヘリヤが融合している
美咲：ラーの翼神竜とマリクかな？

ホープ：あー、確かにイメージそれだわ……黒いラー的な

イヴ：遊戯王のボスキャラはモンスターと融合したがるやつ

美咲：場合によってはモンスターカードそのもの

GM：でかいボスのお家芸

イヴ：「あれ、会話はできるっぽい？」

イヴ：意識あるのかしら

美咲：「ヘリヤさん!! どうしてこんなことを！」

ヘリヤ：「これが新たな……正しい世界の始まり」（陶然とした様子）

イヴ：アイコンがちよつと豪華になつてるw

ガデス：「……呑まれているか」

ヘリヤ：「獣に成り果て地下に逼塞した哀れな民の末裔よ。聞け、我こそが真なる王」

イヴ：「美咲、もつと呼びかけるっぽい！ もしかしたらフォーリナーの力とかで正気

を取り戻す事もあるかもっほい！」

美咲：「う、うん！やってみる!!」

美咲：「おいで！アヴァタール!!」ア●アンロッド2Eルールブック①を掲げて

アヴァタール：開いた282ページ目から現れる

イヴ：具体的だなw

美咲：エリンの神話載ってるページ

イヴ：なるほど

GM：よし、よさげなセリフの応酬は戦闘が始まってからだ。（戦略的に）

美咲：フレアがもったいねえ

ガデス：あふれちゃうあふれちゃう

美咲：「大丈夫、私は戦える！」

イヴ：じゃあアヴァタール呼んだところでアイキヤッチが入る感じかな？w

ガデス：シーンカットなんやな

GM：ですねw

GM：ではクライマックスへ！

美咲：あ、待った待ったシーン終了処理で「真の力への恐怖」を「真の力への誇り」に

変更します

G
M
:
ほ
い
ほ
い

20 クライマックス1

クライマックス

イヴ：ああ、フレアが10枚に届かない！

ホープ：びったり十枚！

美咲：1枚溢れたが、まあ許容範囲

ガデス：同じくジャスト

GM：あ、美咲への呼びかけにフレア投げてない

GM：はいよ

イヴ：ありがたく拝領するっぽい

イヴ：総員、コマの配置をしておくのですよー

GM：PCは2エンゲージで

GM：あ、ちがう

GM：全員1エンゲージだ

イヴ：いきなり分断されるかとw

ガデス：ひとかたまりなら気が楽でいい！

美咲：冷や汗でたw

GM：のっしのっしと近づいてくる巨竜の体から、ぼろぼろと骨や牙が零れ落ちる
GM：それが骸骨兵士として動き出すよ

ホープ：わ、わあ、随分と遅い生え変わりですね……じゃねええええ!? 明らかにやばげな魔物がっ!

イヴ：「うっ、腐臭がっ……」

イヴ：改造人間であるイヴの嗅覚は常人の3倍ぐらい鋭い!

ホープ：今度イヴと戦うときは辛子爆弾を持っていこう

イヴ：おいやめれ〜ホープ

美咲：じゃけんシールドストレミング開けますねー

イヴ：ひぎい

美咲：「リン●のボウガ●トレー●ングで見たのとソックリ……!」

GM：ちなみにダスクフレアはアベルカインであって、ヘリヤはダスクではない

イヴ：大事な宣言ですね

ガデス：「龍……か」

ガデス：「フ……心置きなく壊しつくせる姿ではある……!」

イヴ：「ツ……」 体内の龍血が共鳴して疼くっぽい

ヘリヤ：「あの時のようにはいかない……今度ばかりは勇者が敗れるのよ」

美咲：「違うよ、勇者は負けないから勇者なんだ！」

美咲：「誰かに負けないだけじゃない、何よりも自分自身の弱さには負けない！」

ヘリヤ：（まぶしそうに）「このわずかな間に、本当の勇者になったのね……」

美咲：「いいや、これから皆と一緒になるんだ！」 本当の勇者に！

GM：主人公の力強い宣言と共に戦闘開始です

美咲：《神性顕現》

イヴ：まあまずは敵のセットアップでプロミネンスが飛びますな

ガデス：こいよおらあ

イヴ：あ、戦闘前に装備を赤砂の外套から指輪に変更しておきます

イヴ：ダメージはがくと落ちるけど《※アレーティア》1発分になる

GM：とりあえず敵はセットアップなし

イヴ：おや？

イヴ：那由多積んでないのかしら

美咲：2R目まで生きられると思うなよ

美咲：……プロバ積んでなかったわ今回（今気付いた

ホープ：じゃあホープは何時もの人間砲弾

ホープ：「ホープの そらをとぶ ！」 上空に射出

イヴ：「ああ、ホープがいつもより高く！」

美咲：「……………！ウォー●マン理論！」

ガデス：「何故存じて!?……………いや、構わぬこの際」

ホープ：「チノリヲエタゾ！」

美咲：遠慮なく色々なパロを言えるフォーリナーって楽しいですね（ゲス顔

イヴ：イヴは《獣化》しますね

イヴ：「アーキペラゴの悪夢」、見せてあげる……………！」

マリア：（通信）「ガデス、聞こえる？」

ガデス：「……………うむ。状況は把握されているか」

マリア：「ええ、あなたに仕込んだ観測機器でね！」

ガデス：慌てて剣の鞘を改めるとなんか見覚えのない小さい宝石っぽいものがころり

と

マリア：「あ！とつちやダメよ」

ガデス：「貴公……………いや、この際構わぬが」もどしもどし

イヴ：人権侵害……………いや、劍権かw

美咲：劍権って読みが「ケンケン」でシユールやな

ガデス：刃権（じんけん）

イヴ：うまい

GM：それだ

美咲：座布団

美咲：あ、座布団よりフレアだな

美咲：ダイヤポイ

ガデス：わーい（

イヴ：ぼいー

マリア：「ドラゴンの周囲に濃密な瘴気が立ち込めているわ。注意して！」

ガデス：「無策での接近は危険ということか……？ 承知した」

GM：毎ラウンド1回、最初に受ける攻撃に対してわりと強力な突き返しをします

美咲：こわっ

イヴ：ほうほう

戦闘配置図

美咲：さて、イニシアチブ最速は誰かなん？

GM：スパルトイ（雑魚）が20あるよ

ホープ：こちらは24

GM：ホープどうぞ

ホープ：ほいさ！

イヴ：《永劫の刹那》はエンゲージがわかれた瞬間に飛ぶのだろうか……

美咲：まあ1回くらいは耐えられよう

美咲：《※エロアイオス》といつてな

美咲：差分稼ぎにも自衛にも使える便利な者だ

美咲：イデア：劣等感と併せて1シナリオに2回、時の棺できる

イヴ：エロい

美咲：あつはーんうっふーん

ホープ：毎度おなじみ列車砲！

ガデス：もはやおなじみ

ホープ：はい、それじゃあ命中行きまーす

ホープ：つと対象はスパルトイAのエンゲージ

ホープ：2d6+21

<BCDice：ホープ>：DiceBot：(2D6+21) ↓ 7 [3, 4]

+21 ↓ 28

GM: 差分値あるんだっけ

ホープ: ないよお

GM: 2d6+5 回避

<BCDice:GM>: DiceBot : (2D6+5) ↓ 9 [4, 5] +

5 ↓ 14

GM: ではダメージどうぞ

ホープ: 2d6+32 社会

<BCDice:ホープ>: DiceBot : (2D6+56) ↓ 11 [5, 6]

+56 ↓ 67

イヴ: あ、食事のガンボの効果でさらに+20つすよ

ホープ: うおつと、じゃあ87...: ワーオ

GM: 87

GM: まだ残ってる

イヴ: うお、意外とタフだ

美咲: 堅いな

イヴ: HP100ぐらいとみた

ホープ：「ば、馬鹿な、私の列車砲で完全に壊しきれなかった……!?!」

GM：スパルトイAはエンゲージしてきて

GM：列車砲でだいぶ減ったが、残った人数でホープを囲もうとする

ガデス：増援さえなければぶっぱでかなり削れるはず（ミカエル

GM：2d6+35 《怨念の槍兵》白兵攻撃

<BCDice:GM>:DiceBot : (2D6+35) ↓ 7 [5, 2] +

35 ↓ 42

イヴ：「イヴに任せるっばい！」

イヴ：《銀の守護者》するねー

イヴ：《水波斬》で突き返しじや！

GM：ですよ

ホープ：「い、イヴさんへるぶー！」

イヴ：瑠璃色の盃と《奉仕の達人》で達成値バフがひどいことに

イヴ：白兵13+肉体30+盃5+奉仕5で計53から

イヴ：2d6+53

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+53) ↓ 9 [3, 6] +

53 ↓ 62

美咲：すげえ

GM：意味がわからない数値

ガデス：なにこれ

美咲：聖戦士が32スタートの傍らこの数字は草

GM：32も相当高いんですがね

ホープ：感覚がおかしくなるな……(21)

イヴ：「ハアツ！」突っ込んできたスパルトイの眼前に立ちふさがり、拳を地面に叩きつけて地表を畳返しする

イヴ：ちなみに代償はない

美咲：はえーすごい

GM：加減しろバカ！

イヴ：しかし指輪のせいでダメージは若干下がっている……

イヴ：180+3d6

<BCDice：イヴ>：DiceBot：(180+3D6) ↓ 180+1

1「5,4,2」↓191

イヴ：邪炎191ダメージ

ガデス：下がって…なんだって

????????????

美咲：下がっててもアホみたいに高い

ホープ：お前今言った台詞もう一度言ってみろw

イヴ：本来なら7d6だかんね

ホープ：化物め……

GM：どうみてもダスクフレア

イヴ：邪炎属性だしねw

イヴ：というわけでめくりあげた岩盤で、敵陣一掃

GM：跡形もなく消滅

イヴ：「ふふーん。さあ、おかわりするっほい！」

ホープ：「……あれに比べたら私の列車砲なんて、可愛い程度の無茶苦茶ですよ

……」

GM：スパルトイBは弓を構える

イヴ：フレア1枚払って《紅蓮の旗》！

イヴ：あ、対象は？

GM：美咲

イヴ：守護るよ

美咲：さんきゅ

GM : 2d6 + 35 《妄念の弓兵》射撃攻撃

<BCDice:GM>:DiceBot : (2D6+35) ↓ 2 [1, 1] +

35 ↓ 37

ガデス : 守護キャラ

GM : 不安ぶる

ガデス : ふあん

イヴ : 草

ホープ : これはひどい

美咲 : ワロス

GM : 達成値じゅうご

イヴ : まあ一応リアクションする

美咲 : 「うわっ!」

イヴ : 「美咲あぶなーい!」と進路上のホープを突き飛ばしつつ

ホープ : 「特に緊急的理由がある暴力が私を襲うっ!?!」吹き飛ばされる

イヴ : 2d6 + 53

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+53) ↓ 4 [1, 3] +

53 ↓ 57

イヴ：ダイス目低!

イヴ：ダメージ行きます

イヴ：3d6+180

3
 <BCDice:イヴ>:DiceBot : (3D6+180) ↓ 12「4, 5,
 3」+180 ↓ 192

イヴ：邪炎192っぽい?

美咲：????

GM：矢に対してミサイルを撃ち返してませんか? 実はそれマナー違反なんです

イヴ：大丈夫、矢を掴んでそのまま投げ返したのでセーフ

GM：なら問題しかないな

イヴ：「挨拶代わりの一撃っぽい!」

イヴ：どごお!

ホープ：「それ、こんにちはじゃなくてさようならの代わりですよね!」

イヴ：「サヨナラ!」

イヴ：哀れスパルトイは爆発四散

美咲：「相変わらずイヴさんはすごいなあ……」

GM：戦場がクリアになった

ガデス：「道は開けた……！」

イヴ：「まだ敵の本丸が控えてるっばい！」

ガデス：「呆けている暇はない、この好機に前進を！」

美咲：「だがアベルカインの手番か？」

イヴ：「同値です。しかしこのままだとイヴの先手になってしまうので待機

イヴ：「どっからでもかかってくるっばい！」

イヴ：腰を落とし、油断なく構えを取るイヴの拳に、邪炎がまとわりつく。自らの力であって自らの力でないそれに、思わず顔をしかめる

ヘリヤ：「忌々しいカオスフレアめ」

ヘリヤ：「やれ！アベルカイン！」

GM：ドラゴンブレスで範囲攻撃だ

イヴ：星は落とさない？

GM：いまは固まってるし普通に範囲攻撃しよう

イヴ：ぐぬぬ

イヴ：ならば普通に《きらめきの壁》を宣言するぞい

GM：8d6+40 《凍てつく吐息》射撃攻撃

<BCDice:GM>:DiceBot : (8D6+40) ↓ 27 [1, 1,

4, 4, 5, 5, 6, 1] + 40 ↓ 67

イヴ：プロミネンスで達成値上げない？

GM：上げない

ガデス：下げましょうか？

イヴ：そうですね。《銀の守護者》じゃないので若干達成値が下がるので

イヴ：お願いします！

ガデス：じゃあ絵札一枚切って《大いなる力》

ガデス：10下げます

イヴ：《紅蓮の旗》を宣言して突き返し

イヴ：2d6+48

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+48) ↓ 7 [5, 2] +

48 ↓ 55

イヴ：フレアで+5して60

ガデス：相手が57になってるからこれで通るはず

ホープ：あ、57か

GM：通りました

美咲：危うかった

イヴ：「ぼいー！」

イヴ：3d6+180

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (3D6+180) ↓ 10 [1, 5,

4]+180 ↓ 190

イヴ：邪炎190ダメージっぼい

ホープ：そしてこの火力な。ガリガリ削るぜ。

GM：ぼいぼい

イヴ：黒いブレスの只中に突っ込みます

イヴ：「他愛もない」とか言っつてほしい

GM：狂わされた人々の凶暴な怒りが凍てつく波動となつて巨竜の中に溜め込まれて
いる

GM：それがブレスとして吐き出され、イヴを飲み込む

ヘリヤ：「しよせんは狂犬。これまでよ」

ガデス：「むう……！」

ホープ：「イヴさん!？」

美咲：「イヴさん!？」

美咲：ハモったなこれ

ホープ：完全に息があっている。

イヴ：しかし、ずあつ、と邪炎を切り裂き、金色の獣が彼女の前に肉薄する

ヘリヤ：「なに!？」

イヴ：「ごきげんよう?」

イヴ：にやあ

イヴ：そしてドラゴンの鼻先に踵落とし!

ヘリヤ：「くっ!」

イヴ：バク転して元の位置に戻ります。

イヴ：真紅の眼光が尾を引くぜ

ホープ：す、凄い、完全にあの腐敗ドラゴン with ヘリヤさんを翻弄してます

よ……!?!」

ホープ：そして先程の息があった台詞に一応フレア

美咲：「あれだけの力を自分のモノにしてる……」

ヘリヤ：「厄介なのは勇者だけではないよね……」

イヴ：じゃあ、びっ、と指を突きつけて「そろそろどういう事情なのか説明するつぽ

い!」

イヴ：「このままだと気持ちよく殴れないっぽい!」

イヴ：今の今まで殴ってたが

GM：まだ気持ち良くないのか……

ホープ：「あ！　そういうええ何となく暴力で解決する流れになってましたが、そういうええへりやさん側の事情とかあんまよく知りませんでしたね!？」

美咲：「そうですよ!!どうしてこんなことを!」

へりや：「私は真の神の声を聞いたのよ。私こそが失われた真の王統を継ぐものだと」
 へりや：「この国を人々は神に背を向け、獣となつて地下に逃げた者たちの末裔……」
 ホープ：「あ、やべ。この人造物主の声聞いてますね……」

解説：造物主の声

三千世界を創造した神である造物主デミウルゴスは、自分の思い通りにならないこの世界を滅ぼす為にダスクフレアを生み出し、新たな世界を造らせようとする。その為に人間やそれ以外の種族に対し邪悪な神託を与え、その心を歪ませる事がある。

美咲：「私にそんなことはわかりませんが、神様の加護と皆さんが誇っている獣相をそんな風に言うなんて!」

へりや：「私が真の王として導かなければ。そうすれば私のように虐げられる人もいなくなる……!」

イヴ：あれかなー差別されてた境遇からくる劣等感につけこまれたかなー

ガデス：「…造物主の常とう手段だ」

GM：例の伝承にある、デミウルゴス派の王族の末裔であるようです

美咲：チェンジリングはなあ

ガデス：「その先に待つのは終焉のみだとしてもあらがえぬ…そういう境遇すら作り出す…」

イヴ：ちなみにルールのダスクと分離するにはどういう処理になります？

GM：特別なギミックはありません。ダスクを倒せば分離はできます

美咲：よっしゃ

イヴ：なるほど安心設計

ホープ：「あー、これは挨拶に困りますね……。でもまあ、殴るしか無いんですが……」

イヴ：「美咲、とにかくあのドラゾンビをぶつとばすつばい！」

イヴ：「あのメイドさんはそれで何とかなるかもつばい」

美咲：「うん！任せて！」

ホープ：「そうですね、此処は勇者様の出番です！」

美咲：「ヘリヤさん、今助けるから……！」

ヘリヤ：「助ける？何を言って……」

ヘリヤ：「そうよ、あなたはもともとこの国の呪われた歴史に関係のない人。私の味方

になるべきだわ」

美咲：「関係ないからこそ、歴史とか末裔とか関係なく、何も知らなかった私を拾ってくれた「ヘリヤ」さんを取り戻したい！」

ヘリヤ：（耳に入らない様子）「勇者は竜を駆り、神の声をみんなに届けるんだわ」

GM：盛り上がってきたところだが先にガデスさんw

ガデス：むう、殴りに行こうかどうするか

ガデス：つきかえしが来るのは分かっているからなあ……《※ミカエル》ぶっばしよ
うか

イヴ：あー、イヴが先に魚雷撃っておけばよかったな

ガデス：だが聖戦士さんまで様子見を回すのもと思うので殴りに行ってみる、ほねは
ひろって

美咲：つよくいき

イヴ：ミカエルどうぞですよ。どこかで撃つ必要があるの

ガデス：あ、じゃあミカアする

美咲：何やってんだミカア！

ガデス：マイナーで一応移動しておく、アベルカインにエンゲージ

ガデス：ほんでメジャーで《※ミカエル》

ガデス：一枚捨ててー

GM：直接ダメージでしたっけ

ガデス：5d6×10

ガデス：5d6

<BCDice：ガデス>：DiceBot：(5D6) ↓ 18 [3, 4, 2,

3, 6] ↓ 18

GM：平均くらい

ガデス：180の属性のないダメージ

イヴ：良いダメージだ

ガデス：「ふむ、耳に入っていない様子。龍の影響が強いか……」

ガデス：「……ならば、その繋がりを……一瞬であろうと、『破壊』せん！」

ガデス：「——我が名の、下に！」一刀、振り下ろし

ガデス：物理的にというより、力の流れを破壊する……そういった方向の斬撃を放つ

！

イヴ：おー！

ヘリヤ：「かはつ、何かが斬られた……!？」

ガデス：「……やはり、この鈍らではヘリヤ殿を切り離すまではいかぬか……」

美咲：「でも、私の心の剣なら……？」

ガデス：「うむ。……さあ、我らの刻んだ綻びを切り開かれるがよい」

ガデス：「その心のままに……！」

ホープ：「ええ、さあ、美咲さん、あのグレータードラゴンメイド、略してグレメイドにキツイお灸を据えてやりなさい！」

GM：グレたメイド

美咲：マイナーで《アイデア：逃避》使ってアベルカインに接敵、メジャーで《アイデア：喪失》

美咲：あ、イニシアチブ何も無いよね……？

GM：ないです

イヴ：不気味……

美咲：《※ラファエル》で白兵が28に置き換わり、奉仕で+5の33スタートかな
美咲：割り込み無ければ命中行きます

イヴ：突き返しに対してはエロ何かを使えば良いので、安心ですな

GM：エロ勇者

ガデス：とういかこつちにも突き返しがなかったし……

イヴ：《※ミカエル》は自動命中でリアクション取れないので

ホープ：あつと

ガデス：あつ

GM：まあ聖戦士の達成値じやなあ

美咲：にしても差分上げるためにエロるのはアリ

美咲：では、聖戦士恒例のフレア計上参ります

ホープ：《激励の一声》、達成値+5

イヴ：それだー

ホープ：「さあ、その誰より優しい心の剣で、昏い炎の鎖を……！」

美咲：JOKER×4 A×2 120

イヴ：そういえば《剣助の支え》は回数制限ないのでバリバリ使っていいですよぞ〜ホープさん

ホープ：あつ（忘れてた）

美咲：絵札はどれくらい乗せるか……虹色ないしなあ

ホープ：RPしてくれば絵札二枚派遣しますぞ旦那

美咲：なあに、2撃目も考えて今は33+120||153スタートで行こう

GM：どうせいちゆうねん

イヴ：突き返してみると良いんじゃないかな。達成値0になるけど

GM：瘴気カウンターは勝手に発動してしまう設定なのだ
 ガデス：オートカウンター設定……

美咲：2d6+153

＜BCDice：美咲＞：DiceBot：(2D6+153) ↓ 9 [5, 4]
 +153 ↓ 162

ホープ：そつと《女神の祝福》+20

美咲：182

美咲：《激励の一声》忘れてた 187

GM：8d6+50 《邪竜の瘴気》突き返し

＜BCDice：GM＞：DiceBot：(8D6+50) ↓ 30 [3, 1,
 4, 5, 5, 3, 5, 4] +50 ↓ 80

美咲：エロで320ダメージ上がる

ガデス：えらいことするんですね（

GM：瘴気がたちこめ、アヴァタールの行く手を阻む

美咲：「これは……でも恐れちゃダメ！」

美咲：「いいや、恐れてもいい、それでも前に出るんだ！」

美咲：《※エロアイオス》で達成値0にします

ホープ：「そうです、美咲さんならきつと、怖がりながらも、前に出れる！それが、貴方の強さなのですから！」

アヴァタール：剣から放つ光が瘴気を払い道を切り開く

ヘリヤ：「勇者さまに憧れていた。憎んでもいた。どうして“私”は退治される側なんだろうと」

GM：過去の王族と竜と自分の自意識が混濁しているご様子

美咲：「ヘリヤさん！今解き放つから！」

ガデス：「良し、『圧している』……！」

GM：ダメージどん？

美咲：差分、食事で+10されて197

美咲：根源×9+4d6+《※オフアニエル》で差分2倍

GM：もうこれわかんねえな

美咲：《※エンノイア》来る？

イヴ：ないのじゃ

ホープ：残念ながらデイベレイクは取れんのだ

美咲：おっと、2倍止まりか。他のダメージロール支援無ければ出しますぜ

ホープ：あ、代わりと言っては何だが《剣助の支え》

ホープ：+16どうぞ！

美咲：14*9+4d6+197*2+16+3 【根源】 貰いました

<BCDice:美咲>:DiceBot : (14*9+4D6+197*2+16+3) ↓ 14*9+14 [1, 3, 6, 4] +197*2+16+3 ↓ 553

イヴ：出たー！

ガデス：ふええ…

美咲：気持ちいい……

美咲：そして代償に同じダメージ受けて覚醒します

解説：覚醒

カオスフレア及びダスクフレアはHPが0になっても即座に死亡しない。戦闘不能になって倒れるか、覚醒するかを選ぶ。覚醒すると以降のダメージはLPに適用され、これが0になると完全に死亡する。

ホープ：流石一般ダスクフレアの死因の8割を占める聖戦士フォーリナーの一撃だ

GM：それが力だ……素晴らしいだろう？

美咲：素晴らしいです……（真の力への慢心）

イヴ：「っ、これがフォーリナーの一撃っぽい？」

ホープ：「うお、物語で読んだのより遥かに強烈……！これなら……！」

ガデス：「……しかしこれは……いかん、『強すぎる』……!」

美咲：「ヘリヤさんを、返せええええ!!」

GM：アヴァタールの剣が竜を切り裂いたとき、同時に美咲はヘリヤの心にも触れた

GM：貧民街にお忍びでやってきたセレニカとヘリヤと街の子供たちが楽しそうに笑っている

GM：彼女の憎しみは必ずしもダスクに植え付けられたものではない。しかし……

GM：この優しい笑顔も決して嘘ではないのだろう

GM：アヴァタールの一撃を受けて巨竜は大きくよろめく。しかしその大きすぎる力の代償は美咲にも……

イヴ：「っ!? 美咲!」

美咲：（触った! 見つけた! ヘリヤさんの心!）

美咲：だが不覚まで刺し込んだ故に、ヘリヤの感情やプロミネンスの逆流に巻き込まれる

ホープ：「まずい……っ! 美咲さん!」

ガデス：「いかん! 戻られよ天峰殿! 呑まれるぞ!」

美咲：「これが……ヘリヤさんの心だっというなら!! 受け止めなきや、全部!」

イヴ：「くっ、間に合うっぽい!」

美咲：「それが」本当の勇者だ！ だから……」

美咲：「みんなの力を貸して！」

イヴ：ダスクはこれでHP0になる？

GM：実はならない

イヴ：にやにっ

ガデス：かたあい

イヴ：HP1000ぐらいか

ホープ：まさかこのダスク、HP盛り盛りプロミネンス持ちか！

GM：いま合計923

イヴ：あつ、惜しい

美咲：なあと待機分の攻撃で削りきれぬじやろ（適当

イヴ：待機したイヴの番でよろしい？ それとも《永劫の刹那》あります？

GM：刹那はないです

イヴ：なん、だと……？

美咲：……!?!?

ガデス：まさかまだまだあるんじゃないやなろうなHP……

イヴ：じゃあイヴのターンですね

GM : どうぞ

イヴ : マイナー直前に高速騎龍の効果で移動。

イヴ : マイナーで通信機起動、+2

イヴ : 特技なしで攻撃。判定時に《キャンセル技》を宣言して+30

イヴ : 2d6+50

<BCDice> : イヴ > : DiceBot : (2D6+50) ↓ 4 [3, 1] +

50 ↓ 54

イヴ : 目が振るわらないな

イヴ : とりあえず絵札で+10

ホープ : 祝福+10

GM : 8d6+20 回避

<BCDice> : GM > : DiceBot : (8D6+20) ↓ 29 [5, 3,

6, 3, 4, 1, 6, 1] +20 ↓ 49

イヴ : 差分なし

美咲 : がんばえー

GM : 命中ですね

ガデス : 減らさなくてよかったか

イヴ：剣助くださいーい

イヴ：いやいらんか

ホープ：おっと失礼！《剣助の支え》！+16

ホープ：おっと？

イヴ：代償も重いし、HP1000ならこれで落ちるはず。剣助はやっぱり無しで大

丈夫かと

ホープ：了解。じゃあ差し戻します

イヴ：3d6+180

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (3D6+180) ↓ 13 [5, 5,

3]+180 ↓ 193

イヴ：邪炎193で

GM：それでHP0

イヴ：敵のプロミネンスに巻き込まれた美咲が落ちるその先にスライディングしてお

姫様抱っこしたい！

美咲：いいよ

ガデス：キマ

イヴ：あざっす！

ホープ：キマ……

美咲：（踏ん張りが利かない……アヴァターの力も保たない……！）

美咲：アベルカインから剥がれ落ちる

イヴ：「美咲いいいっ！」

イヴ：そこでキヤッチ！

美咲：「イヴ……さん？」

イヴ：「言ったはず。美咲はイヴを守るよ」

イヴ：につこりと微笑み、次の瞬間敵に凶悪な笑顔を向けてジャンプ！

GM：その瞬間、イヴは見た

GM：アベルカインの肉体が崩壊し……純粋なプロミネンスが噴き出して龍の姿になっっていく

イヴ：「んん？」

イヴ：「何をする気か知らないけど、これで！」とキック！ やったか!?

GM：LPもわりといっぱいありそうだぞ

イヴ：本当に全部耐久力に振ってるのか……

ガデス：持久型ダスクとは

美咲：これは劣等感を不死鳥とかに降る必要があるかもな

GM：クリンナップ

ホープ：なし

美咲：ない

ガデス：なしで

イヴ：あれ？　　そういえば《輝く闇》は？

GM：ないです

イヴ：えええ

美咲：おっ珍しいな

ホープ：何だこのダスクフレア。まさかマジでHPとLPに全振りしてるのか？

イヴ：何という……

ガデス：いつそ潔い

GM：あんまりおもしろいと思わないんだよね、あれ

イヴ：指輪意味なさそうだなこれ……

ホープ：成程

GM：那由多もあるけど、開幕那由多あんまり好きじゃないし

美咲：つまり2R目ナユタかな？

イヴ：むしろ光翼の見せ場だからガンガン撃ってほしいとこだが

2 1 クライマックス2

GM：2ラウンド目セットアップ

GM：《那由多の一瞬》

美咲：かもーん

イヴ：きた！

ガデス：おっとと

ホープ：つとその前にマイターン！

GM：セットアップある？

ホープ：ありゆ！

ホープ：人間砲弾でイヴの場所まですつ飛ぶ！

ガデス：こいつ逃げやがった

美咲：ないよ

ガデス：私はないです（先に言っておく

イヴ：そういうえば移動できたな人間砲弾。これで全員同じエンゲージだ

ホープ：……はっ、イヴさんが居ない。これは何かやばい気がする！いでよ人間大砲

！

イヴ：もう獣化済みなのでなし

ガデス：あ、逃げてないのか突撃か

イヴ：でも同じエンゲージだと攻撃できない人のようなw

イヴ：あ、フォースセイバー持つてるじゃないか何故か

ホープ：残念ながら最早ホープには列車砲のコストを支払うだけのHPは……ないっ

！

美咲：草

ガデス：すすまみれエ

ホープ：「うおおおおお待ってイヴさん！」ふつとぶ

イヴ：「ぼい!？」

イヴ：と飛び込んできたホープのタツクルでのけぞる。これは悪質なタツクルですね

ガデス：良質なタツクル とは

美咲：某大disやめーや

ホープ：「あ、しまった。つい当ててしまった」ちようどよく柔らかい部分にあたった

のでそんな痛くない。何処にあたったのかは想像に任せる

GM：深く澄んだ味わいのタツクル

イヴ：柔らかくまろやかな

GM：まあ余るし星も落とすところ

GM：《星を落とすもの》

イヴ：おっしゃこい指輪割ります

イヴ：プロミネンス無効化だ！

イヴ：「来る！ みんなイヴの後ろに！」

ガデス：ヒューッ

ホープ：「既に待機しておりますイヴ隊長！」

美咲：「任せるよ！」

ガデス：「済まぬ……！」

GM：8d6+40+20 《餓竜の爪牙》白兵攻撃<美咲

<BCDice:GM>:DiceBot : (8D6+40+20) ↓ 25 [4,

2, 4, 4, 2, 6, 1, 2] +40+20 ↓ 85

GM：ぎんしゅご？

イヴ：ズバツ、と拳を突き出し、その爪にぶちあてる

イヴ：銀守護！

GM：触れたところから砕けていく爪。しかしその質量は圧倒的

イヴ：「ぐうっ……ッ！」拮抗する拳から血がしぶく！

ガデス：「ここはA投げておこうか、『大いなる力』」

イヴ：あざまつす！

ガデス：20下げます

イヴ：「こんな、ところで、負けるイヴじゃないッ！」

ガデス：「加勢をする……！」剣の波動で勢いをそぐ

イヴ：2d6+53

<BCDice：イヴ>：DiceBot：(2D6+53) ↓ 7 [6, 1] +

53 ↓ 60

イヴ：あ、ここでライフパスの効果を

イヴ：造られし者の効果で1を6に変更！クリティカルじゃあ！

ガデス：くりー

ホープ：おお

美咲：ヒューッ！

イヴ：83になり申す

イヴ：メキメキッ、と凄絶な音を立てて爪を割り砕いていく

イヴ：「がああああッ！」

イヴ：巨腕を真つ二つにするような勢いで、フレアが走る！

GM：押し返されるように身を引く巨竜

イヴ：ダメージ行きます。今度こそ剣助ください

ホープ：はい！剣助オ！+16

イヴ：3d6+196

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (3D6+196) ↓ 10 [6, 1,

3]+196 ↓ 206

イヴ：邪炎206ダメージ！

GM：プロミネンスvsプロミネンスだ…

イヴ：《輝く闇》の最中だとこれも10分の1なんです

美咲：今回は 無 い

ホープ：《輝く闇》という鎖から解き放たれた狂犬

GM：そうか、邪炎も10分の1になるのかw

ガレス：つまりもんだいはない

イヴ：「ふー、ふー……」肩で息をつきながら、ぼたぼたと拳から血を流す。

美咲：「イヴさん……大丈夫？」

ホープ：「んー、何時もより若干凶暴な、ような……？」

イヴ：「問題、ないっぼい！」

ホープ：「なら良いんですが。あんま無理はしないでくださいね。……貴方の力、どうもやべえ感じがするので」

イヴ：「わかつてる……っぼい」

ガデス：「……呑まれるなよ、貴公こそな」イヴに向けて

イヴ：「というわけで次じや」

GM：竜は一旦上空へ浮上して旋回している

GM：ホープどうぞ

ホープ：「待機！」

イヴ：「まあ殴ると突き返されるしね」

GM：イヴ

イヴ：「私は殴るかどうしようか……」

美咲：「エロる？」

イヴ：「差分値無いからもつたいないな……」

イヴ：「このまま殴ろう！」

美咲：「がんば！」

イヴ：「マイナーで赤砂の指輪を外套にチェンジ。ダメージ+4d6。ようやくいつも

のダメージだ

イヴ：メジャーで殴る！《キャンセル技》宣言

イヴ：2d6+48

48 ↓ 51
 <BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+48) ↓ 3 [2, 1] +

イヴ：う、これはさすがに多目的ゴグルで振り直す

ガデス：さっきの反動のような出目

イヴ：2d6+48

48 ↓ 53
 <BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+48) ↓ 5 [3, 2] +

美咲：よしよし

イヴ：あんまり変わらない……

イヴ：よし、エースで+20して73

ホープ：取り敢えず祝福+10

イヴ：ありがたく、これで83！

GM：まあファンブルとクリティカル以外そんなにかわんないともいう

GM：よししパバ絶望しちゃうぞ

イヴ：うげ

美咲：あっ……

ガデス：わーい←

美咲：アレテイアっていいのでは？

GM：《絶望の一撃》 達成値+50！

ガデス：アレしちゃいますか

イヴ：ガデスさん！ お願いしまーす！

ホープ：アレルヤ！

ガデス：では《※アレーティア》！

GM：エロとかアレとか……

ガデス：一枚ポイ

GM：普通に突き返し

GM：8d6+50 《邪竜の瘴気》突き返し

<BCDice:GM>:DiceBot : (8D6+50) ↓ 33 [5, 4,

4, 6, 2, 1, 6, 5] +50 ↓ 83

イヴ：同値!?

GM：びったり

ガデス：リアクション有利…：されてたまるか！

GM：両者の力が拮抗している！

美咲：マジかよ!?

ガデス：《大いなる力》オラアする、1上回ればいいんだから

ガデス：2投げて勝利じゃ

GM：その均衡を破ったのは！

GM：守護破壊剣ガデス！

イヴ：これで！

イヴ：ダメージ行きますー

GM：どうぞ

イヴ：そろそろホープのフレアがやばい

ホープ：RPしたいが中々タイミングがない感

イヴ：このまま殴りますー

イヴ：7d6+180

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (7D6+180) ↓ 37 [6, 6,

6, 5, 5, 3, 6] +180 ↓ 217

イヴ：邪炎217ダメージ！

プレイヤー：ちゅよい

ホープ：6が4つ程出てんだけどなんだこれw

GM：それで落ちます

イヴ：あ、あれ？

美咲：おっ

ガデス：おっ

ホープ：おっ

イヴ：ま、まだ落ちるな！ 心臓マツサージ！

イヴ：ここで落とすつもりはなかったんじゃよー!?

美咲：wwww

GM：あ、違う

イヴ：おっ

ホープ：(^ ω ^ ≡ ^ ω ^) おっおっおっ

GM：計算間違ってた

イヴ：うい

GM：206と217ね

GM：まだだ

イヴ：よし！

ホープ：よし、何とかミサキンの手番まで回った！

ガデス：たふたふい

美咲：ふいー

ガデス：あ、先に言っておくと私は手番遅らせて（待機

イヴ：ではジャンプで上空有利を取ろうとするもわずかに届かず、そのまま生体魚雷を投擲して攻撃したという感じで

イヴ：「くっ、浅い……!?!」

美咲：「あと、あと一歩……!?!」

G M：竜の体表でいくつも爆発の花が咲く

ガデス：「ぬう……!?! 間合いが、あと一つ遠い……!?!」

ガデス：此方も斬撃を放つがけん制がせいぜい

イヴ：LP500ぐらいか

G M：悠然と身を翻し、上空からドラゴンプレス！

G M：もう一発《星を落とすもの》

ホープ：ワーオ二発目エ！

美咲：わーお

美咲：劣等感を感じる？

ホープ：つと、すいません、ちよつとトイレ

イヴ：いるかも、いやまだ美咲以外未覚醒だから大丈夫かと思いますが

GM：《ちよつとトイレに星を落とすもの》

ガデス：星（暗喩）

イヴ：ああ、ホープが死んだ!?

GM：ひとでなし!

イヴ：美咲だけかばえば全員何とか生きてますね

ガデス：というか私はあれ、覚醒すると火力あがるからしたい

美咲：さすガデス

イヴ：確かに、使うタイミングが無かったかも……w

（10分経過）

イヴ：長いな……

GM：星を落としてるのか……

美咲：意味深

ガデス：ぼてて（邪炎）

美咲：あれ？切れてる

プレイヤー：何かルーターの調子がおかしかったっぽい。これでどうかな？

美咲：切れてなかった 見えてますよ

風色鉛筆：良かった。

イヴ：おかえりなさいい

GM：おかえり

ガレス：ごー

GM：では再開

GM：星は通ったので

GM：8d6+40 《凍てつく吐息》射撃攻撃<シーン

<BCDice:GM>::DiceBot : (8D6+40) ↓ 38 [6, 4,

2, 6, 6, 5, 5, 4] +40 ↓ 78

イヴ：「く、せめて美咲だけは……！」

美咲：「イヴさん……！」

ホープ：2d6+7 まあクリティカルでも回避できないんだけどね！

<BCDice:ホープ>::DiceBot : (2D6+7) ↓ 8 [6, 2] +

7 ↓ 15

ホープ：「うわあ、これは死ぬ」

ホープ：達観した笑顔で

ガデス：2d6+4

<BCDice:ガデス>:DiceBot : (2D6+4) ↓ 5 [1, 4] +

4 ↓ 9

ガデス：まあむり

ガデス：「私は気にせずとも良い……！」仁王立ち

イヴ：《銀の守護者》ー

イヴ：美咲を庇って一応突き返し

イヴ：2d6+53

<BCDice:イヴ>:DiceBot : (2D6+53) ↓ 7 [2, 5] +

53 ↓ 60

イヴ：エースで80！

イヴ：行けたじゃねーか……

イヴ：あ、待ってやっぱりエースなしで

イヴ：突き返しが成功すると倒してしまう

ホープ：成程w

GM：プロレス調整w

美咲：w w w w

美咲：ありがてえ

ガデス：ソレデヨイ

イヴ：「美咲だけは、やらせはしないー!」

イヴ：庇って背中で受ける

イヴ：ダメージどぞー

GM：4d6+200 〈邪炎〉 束縛

<BCDice:GM>:DiceBot : (4D6+200) ↓ 17 [5, 2,

6, 4]+200 ↓ 217

イヴ：あ、生きてるこれ

美咲：草

イヴ：あ、いや無理か。倍になる

ガデス：まあこっちは塵っスけどね!!

イヴ：110点を《光翼の盾》で軽減して残り107。1倍なら立ってたけど、倍な

ので覚醒

美咲：言うて覚醒やん

ガデス：HP0になったので覚醒します

ガデス：「てってれれってってー」

美咲：「マリオ64 W W W W」

ガデス：「……貴公は無事なように見えるな」地面に刺さったまま声を出す

イヴ：「人がシリアスに決めようとしてるところで……」

美咲：「な、なんだかんだ生きてる……？」

イヴ：「ホント、ホープはホープっぽい」笑う

ホープ：「ふつ、まあ私「ギャグキヤラ」にかかればこんなもんですよ」

ホープ：「さあ、我々は無事です！ やっちゃってください、美咲さん！」

イヴ：「カオスフレアはこのぐらいじや死なないっぽい！」

美咲：「う、うん！ 待っててヘリヤさん！」

ガデス：「……いや、待て。ホープ、貴公……少し耳を貸せ」

ホープ：「はいはいなんでしょ？」

ガデス：「見ての通り我は鎧を作る余力もない。故にヤツまで届かん」

ガデス：「ならば……」かたかたと

ガデス：「大砲を指し示します（どこでかは知らん

ホープ：「……ふつ、どうやらガデスさんも我々「ギャグキヤラ」の領域に脚を踏み入

れた様ですね……良いでしょう！」

ガデス：『……………苦渋の選択とはこういうことか』

ガデス：溜息

ホープ：そう言うと、ガデスの前に砲口まで続く階段が

ガデス：動けないので入れてください

ガデス：（動くパワーが尽きている

ホープ：「よいしょ、うんしょ、と」ガデスさんを砲口まで運んでいく

ホープ：「到着！後は……………えーと、鎧ごと入れます？」

ガデス：「剣のみで構わぬ。鎧はもはやガラクタに等しい」

イヴ：あ、これ《合体魔法》の前振りなのかw

ガデス：一応そうなのw《合体魔法》

ガデス：美咲さんが決める前に隙を作るから描写的には！

ホープ：「了解了解。では……………」ガデスの剣だけ入れて、砲身から離れ

GM：魔法……………？

イヴ：魔剣だからね、一応ねw

ホープ：「打ち出せ青春……………」マイトガインに向けてぶっばー！

美咲：接続切れてたので再入室

ガデス：接続切れてる間にやべーことになってますがどうぞ攻撃を

美咲：お待たせいたしました

美咲：《アイデア：喪失》に《破界の剣》と《※オフアニエル》を添えて

美咲：コストフレア捨てーの、33+フレア114

美咲：2d6+147 ヒヤッハアアア!!!

<BCDice：美咲>：DiceBot：(2D6+147) ↓ 8 [2, 6]

+147 ↓ 155

イヴ：ひゃつはー!

GM：祝福?

ホープ：おっと

ホープ：ラスト祝福、A持ってけ!

GM：8d6+20 回避

<BCDice：GM>：DiceBot：(8D6+20) ↓ 25 [1, 2,

5, 6, 2, 2, 3, 4] +20 ↓ 45

美咲：大いなる力ください

ガデス：《大いなる力》! Aでどーん!

ガデス：ー20して25だ

美咲：差分130

美咲：剣助？

ホープ：要るか剣助!?

ホープ：まあ、一応入れておこう、+16

イヴ：この際全部のせだ！

美咲：もらいました

美咲：14*9+140*2+140+4d6+3+16 オラア！

<BCDice：美咲>：DiceBot：(14*9+140*2+140+4

D6+3+16) ↓ 14*9+140*2+140+8 [1, 4, 2, 1]+3+1

6 ↓ 573

ガデス：ここで《合体魔法》！

GM：キャリバーさん！

イヴ：wwww

ガデス：現在魔術が11+1+10：22

ガデス：+220ダメージ！

美咲：793ダメージ！

イヴ：どかーん！

ガデス：ちぬ？

GM：生きてるわけないw

美咲：「皆が切り開いてくれた道だから、これはみんなの一撃！」

ガデス：射出されて

ガデス：その勢いのまま、瘴気を切り開く！

ガデス：「——この道を往けい！」

GM：爆発的なフレアを乗せてアヴァタールの剣とガデスが空を切り裂く

イヴ：アヴァタールが二刀流に！

ガデス：その方向で行くか！

GM：クロススラッシュ！

美咲：「ヘリヤさんを取り戻して、みんなを笑顔にして、そして——」

美咲：「みんなと一緒に」本当の勇者になるんだあ！」

アヴァタール：ガデスを片手に、もう片手に元々の剣を手にプロミネンスを十字に斬り裂く

GM：二筋の光が天を衝き、暗雲のように上空を覆っていた竜を吹き散らしていく

イヴ：「す、すごいつばい……」

ホープ：「綺麗……」

美咲：「夜は、必ず明ける！明日はきつといい日になる！絶望なんてする必要はないん

だ！」

GM：アベルカインは消滅し、あとにはヘリヤが立ち尽くしている

ヘリヤ：「明日はきつといい日になる……」

美咲：「過去は変えられないけど、きつと未来は変える事ができるから」

ヘリヤ：「信じてもいいの？」

美咲：「答えはきつと、皆の胸の中……に……」

美咲：《※オファニエル》の反動でふらつき、倒れる

イヴ：「美咲!？」

ホープ：「う、おおおお！させるかあ!!!」慌てて美咲さんを抱きとめ、

ホープ：「メイド拳法√3条、”蘇るのだこのフレアで——!”」

ホープ：自分の持てるフレアを全て注ぎ込み美咲を賦活する

ホープ：《再生の車輪》！

イヴ：よしもうちよつとフレアを投げておこう

イヴ：残ると希望判定でダスクになっちゃう

イヴ：「ホープ、フレアを貸すっぽい！」

美咲：まあ言うて不死鳥あるんですけどね！貰ったほうが美味しいから貰っておく

GM：あ、フレア投げるの忘れてた

！
ホープ：「よっしやあつ！」イヴのフレアを生命エネルギーに転換してそのまま美咲に

美咲：「ホープ……さん？あれ、私」

ホープ：「……おお、目を覚ましましたかつ！」

美咲：「ホープさん、明日は変えられると思いますか？」

ホープ：「明日？」

美咲：「ヘリヤさんの心に触れたんです。絶望と、希望がまぜこぜで」

ホープ：「あー、成程。でもまあ、そんなの解らないですよ。未来の事なんて」

美咲：「だから、私はヘリヤさんに見せてあげたい。綺麗な世界を」

美咲：「ヘリヤさんが私にこの世界の優しい所を見せてくれたように」

ホープ：「じゃ、取り敢えず、明日が来るように」

ホープ：「今日はもうお休みなさい、勇者様」

美咲：「なんだか、やり遂げたからか眠いや、えへへ」

美咲：「スヤア」

美咲：『みんなの、おかげだよ』そう口が動いた気がした

ホープ：「……やれやれ。最後の最後まで勇者様なんですから」

イヴ：「……寝たっばい？」

ガデス：「……成し遂げるとはな」 鎧姿

ホープ：「全く、凄い人ですよ」

ヘリヤ：（涙しながら静かにうなずいている）

ホープ：「へいヘリヤさん。正気に戻りましたかい？」

ヘリヤ：「どうかしら。どこまでが私の正気といえるのか……」

ガデス：「……久方ぶりに、城の奥深くで」

ガデス：「『勇者の剣』などと呼ばれていたころを、思い出した」

イヴ：「そんな時代が」

ホープ：「け、剣に歴史ありですね……」

ガデス：「……昔の話だ。今の我は勇者が持つには鈍らに過ぎる」

ガデス：「なれど。……我を振るった貴公は確かに勇者であったともよ……」

イヴ：「それにしても……今回はちよつと疲れたっぽい」

ホープ：「そしてうっかり美咲さんを眠らせてしまった。すまん

美咲：「いいや、ええんやで」

ホープ：「何か此処で寝てもらったらシーンの締めとしていいかなって思ったんや……」

ほんとすまん……！（イヴさんのフレアのことを忘れてた）

イヴ：ええんやで

ホープ：「ふむ。……本当は此処で『それが解ってんだったらお前も反省しろよ』落ちに持っていくのがまあ、オチとして綺麗なのですが、私はギャグキャラなのでこう言いましよう」

イヴ：「？」

ホープ：「全部造物主のせいだ！おのれ造物主め！洗脳なんてマジ許せんな！」

ガデス：「うむ……？」

ガデス：「……まあ、間違っではないが……貴公は……」溜息

イヴ：「あはは、まあそういうことっほい」

ホープ：「はい、これでヘリヤさんは悪くなくなつたので、後は好きにしてください」

ヘリヤ：「あなたは優しいのね。いまはそれ以上何も言えない」

イヴ：「ま、とりあえず今は空でも眺めて休むっほい」

イヴ：どさっ、と美咲の隣に寝転んで

イヴ：「いいい、天気っほい……」

イヴ：と青空を眺めます

イヴ：スヤア

ガデス：「……」こちらも直立不動で空を見上げています

GM：ヘリヤはそのそばに座って、同じく空を見つめます

G M : このシーンはこれで切りましょう

ホープ : はい！

イヴ : うい！

ガデス : はいな！

2 2 エンディング

GM：エンディング

美咲：EDだー！

イヴ：その前にイヴはバックトラックがあるので……

イヴ：1d6

<BCDice：イヴ>：DiceBot：(1D6) ↓ 1

イヴ：現在希望が2、合計3で手持ちフレアが0なので、絶望は無し！

美咲：セーフ

イヴ：ふふふ、思い出さなかったら危なかったぜ……

ガデス：おかえり

GM：それでは晴れてエンディングw

イヴ：ガデスからかなー？

ガデス：わたしからー？

美咲：金色の魔法もヤルダバオトも持ってないぜ！ハハハ！！

GM：エンディングは基本PLに任せます

GM：その後の動きとしては

GM：暴力事件はおさまり、ザ・タワーの修復工事が行われます

GM：正気に戻ったセレニカはカイノスタール研究をすべて破棄

イヴ：ふむふむぽいぽい

GM：ネザードはエミリーとちよつといい感じになりつつ、ネフィリムと移籍について交渉中

ガデス：いちやこらしおって……

ホープ：ああ、カイノス・タールがアレな物だと解った以上、ネザードをネフィリムにやらない理由もなくなるのか

イヴ：まあ優秀な研究者ではあるのですが、まだ替えがきくレベルになつたかなつて

GM：ヘリヤは多くを語らず、セレニカに誠実に奉仕しています。セレニカはそれを受け入れている

イヴ：大丈夫なのか。一応薬を盛ったわけだが……

美咲：それも彼女なりの優しさなのだろう

ホープ：基本ダスクフレアになつたときの事は不問に処すつてのが一般的らしいしね
イヴ：責められない事が一番本人にとっては罰になるかもねって感じですかね

GM：どちらかというとセレニカの度量の大きさによる

ホープ：なるほろ

ガデス：かっこいい

GM：敵に回すと厄介なタイプだ。普通の政治のレベルなら

イヴ：ネフィリムにとつても注視すべき存在っぽい……

GM：世の中の動きはそんな感じ

イヴ：はい

GM：それぞれにお好きなシーンをやってくださいませ

エンディング ガデス

ガデス：うーん、じゃあちよつと私希望がー

GM：思いついた人からどうぞ

ホープ：お、どぞどぞ。自分も思いつきましたが取り敢えずガデスさん優先で！

ガデス：じゃあですね、アムルタートとの戦で滅んだ故郷の国…の廃墟に一人たたずんでいます

イヴ：おお

ガデス：そのあたりには瓦礫や廃材で造られた粗末な墓石が立ち並んでいる

ガデス：そして、最後の一つを今まさに組み上げ…

ガデス：「……龍どもを屠ると息巻いて飛び出してから、最低限の弔いしかしてこなかだか」

ガデス：「久方振りに、戻る気になった」

ガデス：「……錆付いた鈍らではあるが、貴様らは我を引き抜けるものを探すのだといつも言っていたな……」

ガデス：「我は、引き抜かれ、振われたぞ。その報告だけでも思ってた……」

ガデス：「しばし無言で周囲を眺め

ガデス：「……『きれいな世界を』か。……存外、探さずともありふれたものだったのだな……」

ガデス：「……なあ、貴様らよ……」今はいない、某国の民たちを想い

ガデス：「剣はただ一振り、いつかのように夜を明かす。」

ガデス：「これでおわり！」

イヴ：「かつこよすー」

ホープ：「おお、格好いい」

GM：「ええのう」

GM：「ハードボイルド・剣」

ガデス：「一人がたり失礼いたしました……！」

ホープ：いやいや、一人のシーンで此処まで引つ張れるってすごいよ！

美咲：色々こちらの行動も拾ってくれて嬉しい

イヴ：ですねー

GM：ありがとうございました

エンディング イヴ

イヴ：ではPC3のわたくしが次よろしいですかね？

ホープ：お願いしますー

ガデス：おねがいます

GM：どうぞー

イヴ：うい、では会長に電話で報告してるところでー

イヴ：「……というところで、タールに関する研究はすべて破棄されたっぽい。もちろん幾つかは完全に破棄される前に入れたけど……」

イヴ：「そのどれが有効なものかは、イヴにはちよつとわからないっぽい？」

ペテルセン：「保管はしておくが、軽々に手を出すべきではないな」

イヴ：「ぼいー」

ペテルセン：「十分な成果だよ。ご苦労だった」

イヴ：建物の上から、眼下のネザードさんたちを眺めつつ

イヴ：「ドクターネザードも、重要性が下がったからか手を出しやすくなったけど、重要性が下がったのはこちらも同じっばい」

イヴ：「無理に今の環境から引き離すことも無いっばい？」

ペテルセン：「優秀な人材はいつでも歓迎だが、彼のことを尊重しよう。いまのところは」

イヴ：「今のところは、っばい。ふふ」

ペテルセン：「物事というのは常にそういうものだよ」

ペテルセン：「何事も変わっていくものだ。君は君で得るものがあつたのではないかな？」

イヴ：「ばい！ フォーリナーの子と出会つたっばい！」

イヴ：「にばーと満面の笑顔になる」

イヴ：「会長さん、ネフィリムのためにも、あの子はマークしておくべきだと思わない？」

イヴ：「そしてそばにつけておこなら、顔見知りで接触しやすい人物が適任っばい？」

ペテルセン：「ああ、マークしておいてくれ。君を専属の担当にしよう」

イヴ：「えへへ。頑張るっばい！」

ペテルセン：「大事にしたまえ。友だけが人間の財産である」だ」

イヴ：「へえ、うん、良い言葉っぽい！」

イヴ：「じゃ、イヴ。新たな任務に着任するっぽい！」

イヴ：という感じで電話を切ります。

GM：OK

美咲：キヤー

イヴ：で、しゅぼつと建物の上からジャンプしたところでシーンカット

ガデス：クールだ

GM：おかしいな。どうやっても会長がいい人に見えない……

ホープ：言ってることは普通に良い人なのにねえ……？

GM：ここだけサイバーパンク

イヴ：ネフィリムだからな！

ガデス：胡散臭いレベルが高すぎる

GM：ふしぎ！

エンディング ホープ & 美咲

GM：つぎ！

いのですが、美咲さんのEDにも関わることだろうから、今ぶつちやけで相談した

美咲：お、相談なんです？

美咲：自分は顕現器（リアンロッド2E）でセレニカヘリヤホープと遊ぼうかと

ホープ：ぶつちやけ、美咲さんとヘリヤさんと一緒に旅に出たいなーと

イヴ：おお？

美咲：それもよいですね

ホープ：すげえ事言ってる!?

ガデス：旅（TRPG）

イヴ：りゆうたまかな？

美咲：マンガ図書館Zにはオリジンからじゃ繋がらんでしょう

GM：僕たちは卓上の旅に出る

ホープ：んでまあ、美咲さんがやりたいEDと摺り合わせようと思ったのですが……

どうしようかな。一応、時間軸を美咲さん↓俺の順にすれば普通に両立はしそうですが

ホープ：美咲さんやっていい？

美咲：いや、普通に旅でええと思う

イヴ：美酒町の高校に転入するのもありぞ……

GM：セレニカも旅に出ちゃう？

ホープ：お、それが出来るならニセレニカさんも誘おう

ホープ：OK

美咲：リアンロード意地でもやりたいわけじゃない

ガデス：リアンエ

ホープ：じゃあ、その辺を勘案すると……まずセレニカ一同全員集めますか。何か食堂みたいなとこに

ホープ：『重大発表をします。来なければ同意したものとみなします』という手紙だけをそれぞれの部屋に置いとけば絶対来るやろ（）

美咲：そりゃ行きますわ

GM：欠席裁判

ガデス：げどうのしよぎよう

セレニカ：「なんだかわくわくしますね！」

ヘリヤ：「しませんよ……！」

GM：みんな集まってくるよ

ホープ：「さて、よくぞ集まってくださいました皆さん。では早速ですが、重大発表の内容を発表します」

美咲：「きつとホープさんのことですから楽s……愉快なことを考えてるに違いありません！」

ホープ：「旅に出ます」

ホープ：「——此処にいる全員で」

偽セレニカ：「……しよき？」

美咲：「わあとおつても愉快ですね！　そういうことならキャラクターシート書き写しておいたんですけど」

ホープ：「いやだなあ、何を言ってるんですか。書くのはキャラクターシート？　ではなくて旅行の書類ですよ！」

セレニカ：「何か考えあつてのことですね？　とつても楽しみ！」

美咲：「へ？　コレじゃないんだ」ア●アンロッド2Eルールブック①を指して

GM：セレニカはわりと自由の効く立場なので大丈夫

ホープ：「いや、最初はヘリヤさんと美咲さんだけのつもりだったんですが、そうしたらセレニカさんハブってるみたいじゃないですか」

ヘリヤ：「あるじを置いて旅に出るわけにはいきませんね」

ホープ：「だから、全員で行きます。何か質問ある人！」

美咲：「はい！　おやつはどれくらい持って行っていいですか？　バナナはおやつに入りますか？」

セレニカ：「楽しみは取っておきますわ」

へりや：「疑問しかありませんが、姫さまの判断に従います」

ホープ：「おやつは鞆に詰め込める限り！バナナは私が嫌いなのでおやつに入りません！」

偽セレニカ：「みんながいくならいく」

ホープ：「うむ！ よし、これで美咲さんに言った言葉も嘘じゃなくなりますね！」

美咲：「やったー！ つと思っただけどホープさんが一緒に行くならむしろ材料を買い込んだほうが……？」

美咲：「私に……？」

ホープ：「言っただじやないですか。『貴方がこの世界の美しい所を知らないまま、死んでいくのは嫌だ』と」

ホープ：「だから、美咲さんと美しい場所を巡っておかないと、嘘になっちゃうでしょ？」

美咲：「あ、あー!!!」

美咲：「覚えててくれて嬉しいです！ そうと決まればモタクタしていられます！

早速準備です！」

ホープ：「おうさ！ 既に旅行プランも設定済み、イヴさんのネフィリムにも行きますし、ガデスさんも今私立探偵に搜索依頼出してるから、きつと会えます！」皆”で旅行で

きますよ!」

ホープ：「——とまあ、そんな訳なので、ヘリヤさん」

ヘリヤ：「なんででしょう」

ホープ：「貴方がどれだけ悲しい目に遭ったかは知りませんが、これから先、滅茶苦茶大変で愉快な未来を胸焼けするほど食らわせてやりますので」

ホープ：「覚悟してくださいね♪」

美咲：「未来は変えられるんですよ♪」

ホープ：「そしてそれは最早拒否できない……!」

ヘリヤ：「はい、覚悟いたしました」(穏やかな表情で)

ホープ：「おつ、意外と素直ですね?」

ヘリヤ：「意外とは余計です。メイドは従順なものです」

ヘリヤ：「あなたも見習ってください」

ホープ：「ふつ、良いでしょう。私は私の本能に従順になりましょう!」

ホープ：「さあ、そういう訳で行きますよ!希望の未来に、レディー、ゴー!です!」
とりあえずこれでやりたいことはおわり

セレニカ：「おー」

偽セレニカ：「……おー」

美咲：「おー！」

ヘリヤ：（澄まし顔の頬に涙が一筋伝う）

美咲：特にこつちも遣り残したことはないね

GM：それではみんなで部屋を出ていくところでシーンカット

イヴ：これはあれだな。単行本化した後の余白ページに、「イヴをはぶるなんてひど
いっほーい！」と追いかける姿が

ガデス：裏表紙あたりに刺さっておこう

美咲：あれだね、表紙のカバー外すとそこには……

GM：カバー裏！

GM：というわけで……セッション終了です！

ホープ：お疲れ様でした！

美咲：お疲れ様でしたー！

イヴ：お疲れ様でしたー！

GM：お疲れさまでした！

ガデス：お疲れさまでした！